Nikon

デジタル一眼レフカメラ

使用説明書

Jp

商標説明

- Microsoft、Windows、Windows Vistaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Macintosh、Mac OS、QuickTimeは、Apple Inc.の商標です。
- AdobeおよびAdobe AcrobatはAdobe Systems, Inc.（アドビシステムズ社）の商標、または特定地域における同社の登録商標です。
- SDロゴ、SDHCロゴおよびPictBridgeロゴは商標です。
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

安全上のご注意

お使いになる前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しい方法でお使いください。

この「安全上のご注意」は製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。内容を理解してから本文をお読みいただき、お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

表示と意味は次のようになっています。

⚠ **危険**	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。**
⚠ **警告**	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。**
⚠ **注意**	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。**

お守りいただく内容の種類を、次の図記号で区分し、説明しています。

絵表示の例	
	△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。
	⃠記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠ 警告（カメラとレンズについて）

 分解禁止	**分解したり、修理や改造をしないこと** 感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。
 接触禁止 すぐに修理依頼を	**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと** 感電したり、破損部でケガをする原因となります。 バッテリー、電源を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
水かけ禁止	**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと** 発火したり感電の原因となります。
 バッテリーを取る すぐに修理依頼を	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、すみやかにバッテリーを取り出すこと** そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 バッテリーを取り出す際、やけどに充分注意してください。 バッテリーを抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
 使用禁止	**引火、爆発のおそれのある場所では使用しないこと** プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因となります。
 使用禁止	**レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと** 失明や視力障害の原因となります。

発光禁止	**車の運転者等にむけてフラッシュを発光しないこと** 事故の原因となります。
 発光禁止	**フラッシュを人の目に近づけて発光しないこと** 視力障害の原因となります。 特に乳幼児を撮影する時は1 m以上離れてください。
 保管注意	**幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。 万一飲み込んだときは、直ちに医師にご相談ください。
警告	**ストラップが首に巻き付かないようにすること** **特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと** 首に巻き付いて窒息の原因となります。
警告	**指定のバッテリーまたは専用ACアダプターを使用すること** 指定以外のものを使用すると、火災や感電の原因となります。
 使用禁止	**ACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。

⚠注意（カメラとレンズについて）

 感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
保管注意	**製品は、幼児の手の届かない所に置くこと** ケガの原因になることがあります。
 使用注意	**逆光撮影では、太陽を画角から十分にずらすこと** 太陽光がカメラ内部で焦点を結び、火災の原因になることがあります。画角から太陽をわずかに外しても火災の原因になることがあります。
 保管注意	**使用しないときは、レンズにキャップを付けるか、太陽光のあたらない所に保管すること** 太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
 移動注意	**三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと** 転倒したりぶつけたりしてケガの原因になることがあります。
 使用注意	**飛行機内で使うときは、航空会社の指示に従うこと** 本機器が出す電磁波などにより、飛行機の計器に影響を与えるおそれがあります。 病院で使う際も、病院の指示に従ってください。
 バッテリーを取る プラグを抜く	**長期間使用しないときは電源(バッテリーやACアダプター)を外すこと** バッテリーの液漏れにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。 ACアダプターをご使用の際には、ACアダプターを取り外し、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
 発光禁止	**内蔵フラッシュの発光窓を人体やものに密着させて発光させないこと** やけどや発火の原因となることがあります。
 禁止	**本機器や AC アダプターを布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。
 放置禁止	**窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないこと** 内部の部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。
 禁止	**付属のCD-ROM を音楽用CD プレーヤーで使用しないこと** 機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼすことがあります。

⚠危険
（専用リチウムイオン充電池について）

 禁止	**バッテリーを火に入れたり、加熱しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
 分解禁止	**バッテリーをショート、分解しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。

危険

専用の充電器を使用すること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

使用禁止

Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL9は、ニコンデジタルカメラ専用の充電池で、D60に対応しています。EN-EL9に対応していない機器には使用しないこと

液もれ、発熱の原因となります。

危険

ネックレス、ヘアピンなど金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管しないこと

ショートして液もれ、発熱、破裂の原因となります。

持ち運ぶときは端子カバーをつけてください。

危険

バッテリーからもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること

そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠警告

（専用リチウムイオン充電池について）

保管注意

バッテリーは幼児の手の届かないところに置くこと

幼児の飲み込みの原因となります。

万一飲み込んだときは、直ちに医師にご相談ください。

水かけ禁止

水につけたり、ぬらさないこと

液もれ、発熱の原因となります。

警告

変色や変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと

液もれ、発熱の原因となります。

警告

充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しないときは、充電をやめること

液もれ、発熱の原因となります。

警告

バッテリーをリサイクルするときや、やむなく廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁すること

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。ニコンサービス機関またはリサイクル協力店にご持参いただくか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。

警告

バッテリーからもれた液が皮膚や衣服に付いたときは、すぐにきれいな水で洗うこと

そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

⚠注意

（専用リチウムイオン充電池について）

注意

バッテリーに強い衝撃を与えたり、投げたりしないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

⚠警告

（クイックチャージャーについて）

分解禁止

分解したり、修理や改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。

接触禁止

落下などによって破損し、内部が露出した時は、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。

すぐに修理依頼を

電源プラグをコンセントから抜いて、ご購入店またはニコンサービス機関に修理を依頼してください。

プラグを抜く

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電源プラグをコンセントから抜くこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。

電源プラグを抜く際、やけどに充分注意してください。

すぐに修理依頼を

電源プラグを抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと

発火したり感電の原因となります。

使用禁止

引火、爆発のおそれのある場所では使用しないこと

プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因となります。

警告

電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着しているときは、乾いた布で拭き取ること

そのまま使用すると、火災の原因になります。

使用禁止	**雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。
禁止	**電源コードを傷つけたり、加工したりしないこと** **また、重いものを載せたり、加熱したり、引っぱったり、むりに曲げたりしないこと** 電源コードが破損し、火災、感電の原因となります。
感電注意	**ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと** 感電の原因となります。

⚠注意
（クイックチャージャーについて）

感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
放置禁止	**製品は、幼児の手の届かない所に置くこと** ケガの原因になることがあります。
禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。

⚠危険
（リモコン用リチウム電池について）

危険	**電池からもれた液が目に入った時はすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること** そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠警告
（リモコン用リチウム電池について）

禁止	**電池を火に入れたり、加熱しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
分解禁止	**電池をショート、分解しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**電池に表示された警告・注意を守ること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**使用説明書に表示された電池を使用すること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
水かけ禁止	**水につけたり、ぬらさないこと** 液もれ、発熱の原因となります。
保管注意	**電池は幼児の手の届かない所に置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。 万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
警告	**電池の「＋」と「－」の向きをまちがえないようにすること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
禁止	**充電式電池以外は充電しないこと** 液もれ、発熱の原因となります。
警告	**電池を廃棄する時はテープなどで接点部を絶縁すること** 他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄してください。
警告	**電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときはすぐにきれいな水で洗うこと** そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

目次

はじめに

使用説明書について

ニコンデジタル一眼レフカメラD60をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
お使いになる前に、この使用説明書をよくお読みになり、内容を充分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管し、撮影を楽しむためにお役立てください。

● 本文中のマークについて

マーク	説明	マーク	説明
✔	カメラの故障を防ぐために、使用前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。	💡	カメラを使用するときに、便利な情報を記載しています。
🖉	カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。	👁	関連情報を記載した参照ページを記載しています。
MENU	MENUボタンを押して、メニューで設定できる場合に、メニュー名を記載しています。	🖉	ボタンの機能の割り当てをカスタムメニューで変更できる場合に、そのメニュー名を記載しています。

●表記について

- SDメモリーカードを「SDカード」と表記しています。
- ご購入時のカメラの設定を「初期設定」と表記しています。
- 液晶モニターに表示されるメニュー項目や、パソコンに表示されるボタン名、メッセージなどは、[ ] で囲って表記しています。

●画面例について

本書では、液晶モニター上の表示をわかりやすく説明するために、被写体の表示を省略している場合があります。

●本文中のイラストについて

本文中の画面表示を含むイラストは、実際と異なる場合があります。

ご確認ください

●保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」と「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないことになります。お受け取りにならなかった場合は、ただちに購入店にご請求ください。

●カスタマー登録

下記のホームページからカスタマー登録ができます。

https://reg.nikon-image.com/

付属の「登録のご案内」に記載されている登録コードをご用意ください。

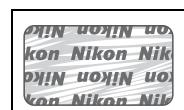
●カスタマーサポート

下記のホームページでサポート情報をご案内しています。

http://www.nikon-image.com/jpn/support/index.htm

●「見て聞くマニュアル」デジチューター

デジチューターでは、インターネット上でD60の基本的な操作方法を、動画や作例写真を交えながら説明しています。下記アドレスのホームページをご覧ください。

http://www.nikondigitutor.com/

●大切な撮影を行う前には試し撮りを

大切な撮影(結婚式や海外旅行など)の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害(撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等)についての補償はご容赦願います。

●本製品を安心してご使用いただくために

本製品は、当社製のアクセサリー(レンズ、スピードライト、バッテリー、バッテリーチャージャー、ACアダプターなど)に適合するように作られていますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

- Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL9には、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。
- 模倣品のバッテリーをお使いになると、カメラの充分な性能が出せないことや、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となることがあります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせてお使いになると、事故、故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

●使用説明書について

- この使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 仕様、性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、下記のホームページから使用説明書のPDFファイルをダウンロードすることができます。

  http://www.nikon-image.com/jpn/support/manual/

ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

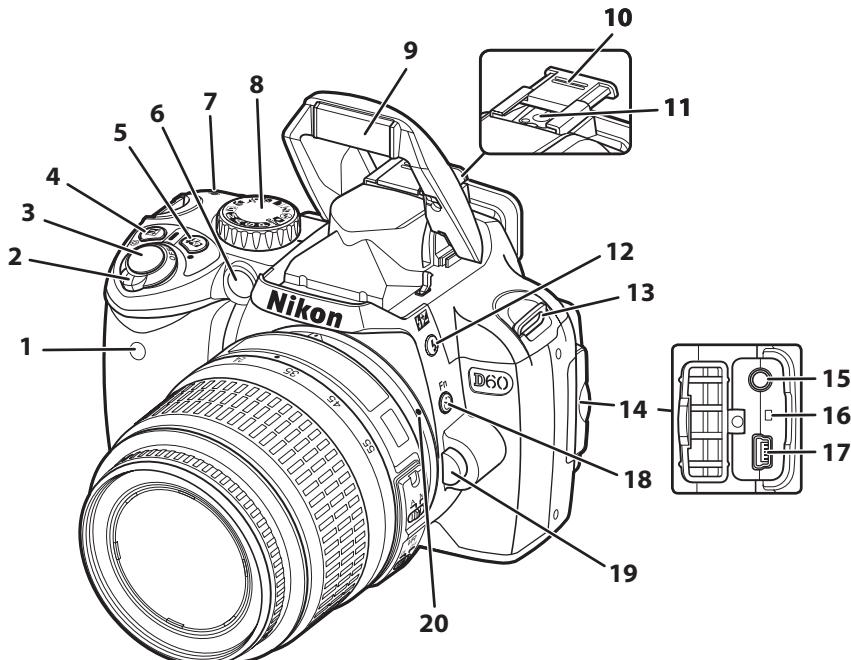
●著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影または録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影や録音を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像や音楽は、著作権法の規定による範囲内でお使いになる以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

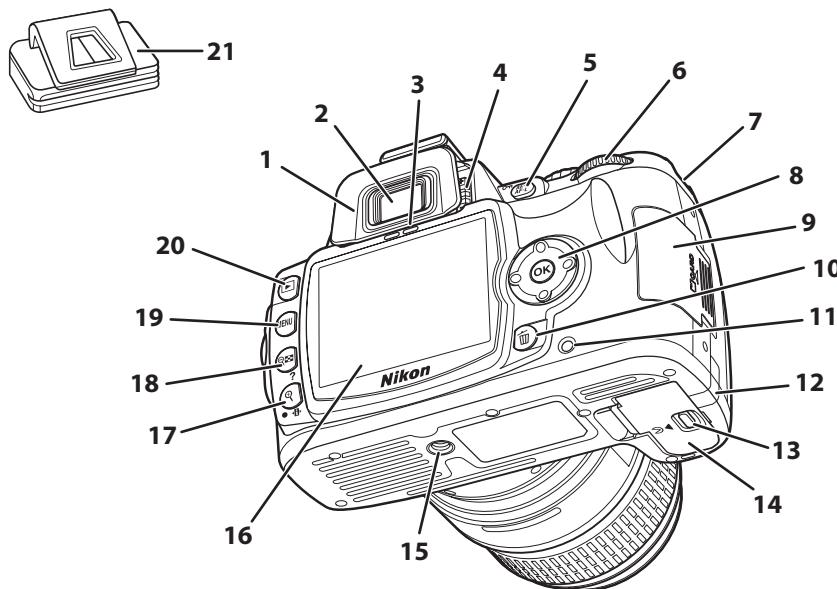
●カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

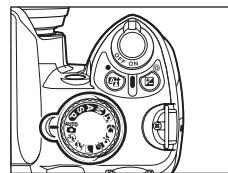
SDカード内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。SDカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

SDカードを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にSDカードがいっぱいになるまで、空や地面などを撮影することをおすすめします。なお、ホワイトバランスのプリセットマニュアル画像（🔗105）や［壁紙デザイン］で設定した画像（🔗122）も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡/廃棄してください。SDカードを物理的に破壊して廃棄するときは、周囲の状況やけがなどに充分ご注意ください。

●ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、ラジオやテレビの近くでお使いになると、受信障害を引き起こすことがあります。

使用説明書にしたがって正しくお取り扱いください。

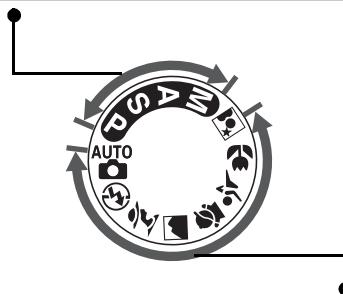
各部の名称と基本操作

カメラ本体の名称や、ボタンの基本的な操作について説明します。詳しい説明は各部に記載されているページをご覧ください。

カメラ本体

番号	名称	ページ
1	リモコン受光部	56
2	電源スイッチ	6
3	シャッターボタン	33
4	露出補正ボタン	67
	絞り変更ボタン	44
	調光補正ボタン	68
5	アクティブD-ライティングボタン	69
	●設定リセットボタン	70
6	AF補助光ランプ	57
	セルフタイマーランプ	56
	赤目軽減ランプ	65
7	距離基準マーク	61
8	撮影モードダイヤル	6
9	内蔵フラッシュ	64
10	アクセサリーシューカバー	150
11	アクセサリーシュー（フラッシュ取り付け部）	150
12	フラッシュボタン	64
	調光補正ボタン	68
13	ストラップ取り付け部（吊り環）	14
14	端子カバー	81、85、92
15	ビデオ出力端子	92
16	リセットスイッチ	167
17	USB端子	81、85
18	セルフタイマーボタン	54、55
	Fn ファンクションボタン	112
19	レンズ取り外しボタン	19
20	レンズ着脱指標	18

1	接眼目当て DK-20 56	13	バッテリーカバー開閉ノブ 17
2	ファインダー接眼窓 ...... 7、26	14	バッテリーカバー ...... 17、157
3	アイセンサー ...... 31、123	15	三脚ネジ穴
4	視度調節レバー 26	16	液晶モニター ...... 8、72、123
5	AE-L/AF-L AE-L/AF-Lボタン ...... 63、113 プロテクトボタン 78	17	拡大ボタン ...... 77 情報表示/撮影設定変更ボタン ...... 48 ●設定リセットボタン 70
6	コマンドダイヤル 10	18	縮小/サムネイルボタン ...... 76 ? ヘルプボタン 13
7	ストラップ取り付け部（吊り環） 14	19	MENU メニューボタン 94
8	マルチセレクター 12	20	再生ボタン ...... 34、72
9	SDカードカバー 23	21	アイピースキャップ DK-5 56
10	削除ボタン 34		
11	SDカードアクセスランプ 23		
12	パワーコネクターカバー 157		

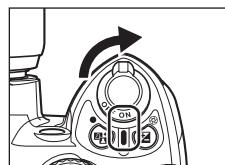
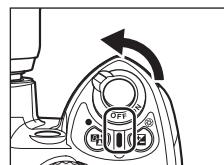
撮影モードダイヤル

撮影モードの切り換えに使います。撮影モードダイヤルを回して、撮影モードのアイコン（図記号）を指標に合わせます。

応用撮影向けの撮影モード（露出モード）

シャッタースピードや絞りなどを自分で決めて、より本格的な撮影を楽しめます。

P – プログラムオート：41
S – シャッター優先オート：42
A – 絞り優先オート：43
M – マニュアル露出：44

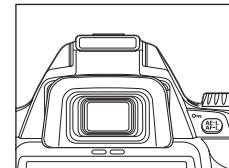
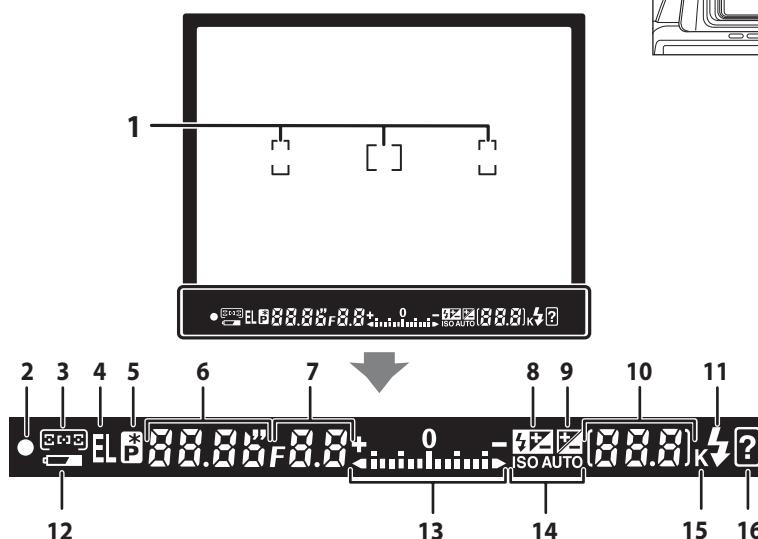
かんたん撮影向けの撮影モード（デジタルイメージプログラム）

撮影シーンに合わせて撮影モードを選ぶだけで、細かい設定を気にせず気軽に撮影できます。

AUTO – オート：28
– 発光禁止オート：36
– ポートレート：36
– 風景：37
– こどもスナップ：37
– スポーツ：37
– クローズアップ：37
– 夜景ポートレート：37

電源スイッチ

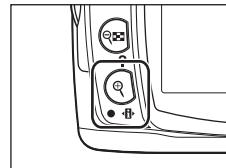
電源スイッチで、カメラの電源をON/OFFします。

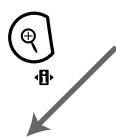
ON

OFF

ファインダー（表示）

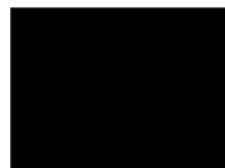
撮影モードや設定により、表示内容は異なります。

No.	名称	ページ
1	フォーカスポイント	26、30、58、59、60
2	ピント表示	32、61
3	フォーカスポイント表示	26、30、58、59、60
	AFエリアモード表示	58
4	AEロック表示	63
5	プログラムシフト表示	41
6	シャッタースピード	40～46
7	絞り値	40～46
	ノイズ低減処理中表示	108
8	調光補正マーク	68、113
9	露出補正マーク	67

No.	名称	ページ
10	記録可能コマ数	28、178
	連写可能コマ数	55、178
	ホワイトバランスプリセットデータ取得モード表示	106
	露出補正値	67
	調光補正値	68
	アクティブD-ライティングON/OFF表示	69
	PC接続中マーク	82
	イメージダストオフデータ取得モード表示	127
11	レディーライト	33
12	バッテリー残量表示	29
13	露出インジケーター	45
	露出補正インジケーター	67
	フォーカスエイドインジケーター	116
14	ISO AUTOマーク	53、112
15	1000コマ以上補助表示	29
16	警告表示	13、172

ファインダーについて

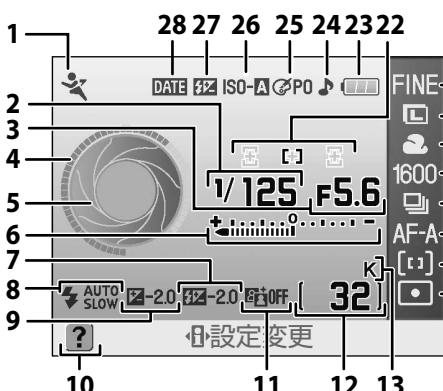
ファインダー内の表示の応答速度や明るさは、温度によって変化しますが、故障ではありません。

液晶モニター表示（情報画面）

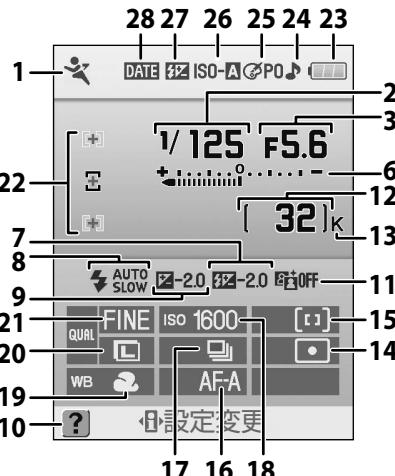
電源をONにすると、液晶モニターに「情報画面」が表示されます。シャッタースピードや絞り値、記録可能コマ数など、撮影に関するいろいろな情報や設定の確認ができます。

⊕（i）ボタンを押すたびに、次のように液晶モニターの表示が切り換わります。

※「撮影設定変更画面」では、撮影時によく使う機能を設定できます（48）。

情報画面の消灯と点灯について

初期設定では、次の場合にも、情報画面が消灯します。

- 何も操作をしないまま約8秒経過したとき（114）
- ファインダーをのぞくなどしてアイセンサーが反応したとき（31、123）
- シャッターボタンを押しているとき

また、情報画面が消灯しているときは、次の操作でも点灯します。

- シャッターボタンを半押ししてはなしたとき（31）
- ボタン、またはボタンを押したとき
- /Fnボタンを押したとき（撮影モード、、、、、、、でカスタムメニュー［11 /Fnボタンの機能］（112）を［ホワイトバランス設定］にしている場合を除く）
- （発光禁止オート）以外の撮影モードでボタンを押したとき
- 撮影モード**P**、**S**、**A**でボタンを押したとき

情報画面デザインについて

情報画面のデザインはセットアップメニューの［画面情報デザイン］（120）で変更できます。

カメラを横に構えたとき

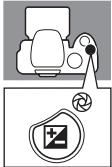
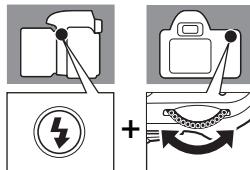
カメラを縦に構えたとき

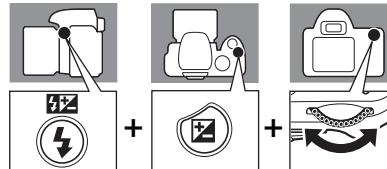
カメラの設定や撮影状況によって、表示される情報の組合せは異なります。上の画面に表示されている組合せは、カメラに実際に表示される組合せとは異なります。

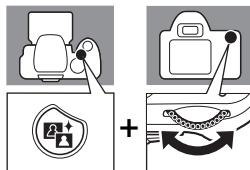
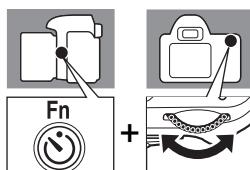
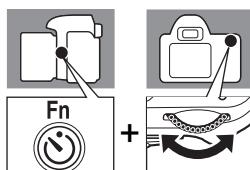
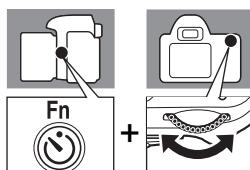
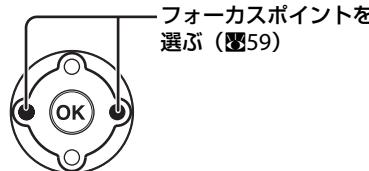
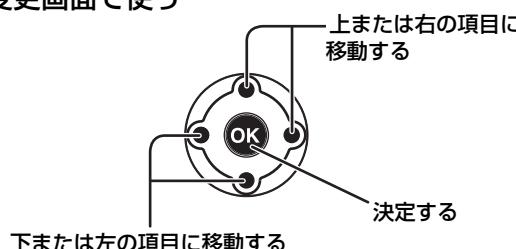
No.	項目	ページ
1	撮影モード	6
2	シャッタースピード	40～46
3	絞り値	40～46
4	シャッタースピードイメージ	
5	絞りイメージ	
6	露出インジケーター	45
	露出補正インジケーター	67
7	調光補正値	68
8	フラッシュモード	65
9	露出補正値	67
10	ヘルプあり表示	13
11	アクティブD-ライティング表示	69
12	記録可能コマ数	28、178
	ホワイトバランスプリセットデータ取得モード表示	106
	PCカメラモード表示	82
13	1000コマ以上補助表示	29
14	測光モード	62
15	AFエリアモード	58
16	フォーカスモード	57
17	レリーズモード	54
18	ISO感度	53
19	ホワイトバランスモード	52、103、104
20	画像サイズ	50
21	画質モード	50
22	フォーカスポイント表示	26、30、58、59、60
	AFエリアモード表示	58
23	バッテリー残量表示	29
24	電子音表示	110
25	仕上がり設定表示	101
26	ISO AUTOマーク	53、112
27	マニュアル発光設定マーク	113
	外付けスピードライト調光補正マーク	153
28	デート写し込み設定マーク	115

シャッタースピードイメージと絞りイメージについて

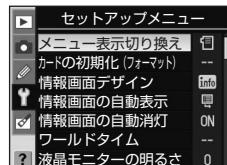
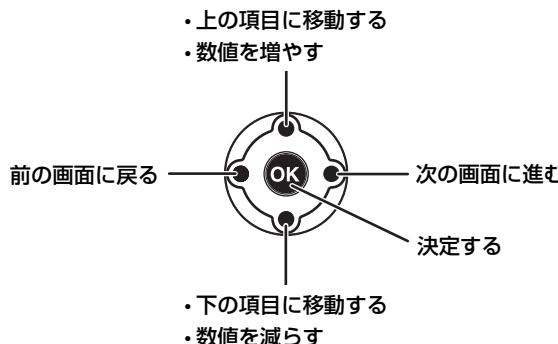
シャッタースピードイメージと絞りイメージは、シャッタースピードと絞りの動きを表します。

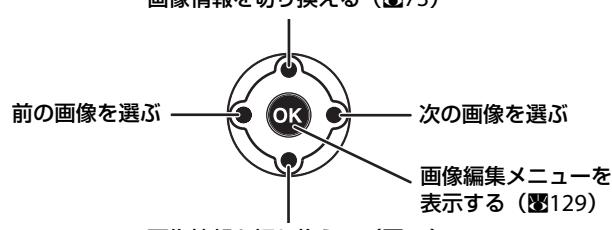
シャッタースピードが速く、絞りが開いた（小さい絞り値）の場合

シャッタースピードが遅く、絞りが絞り込まれた（大きな絞り値）の場合

撮影モードダイヤルを回すと、シャッタースピードイメージと絞りイメージが撮影モードダイヤルのグラフィック表示になります。

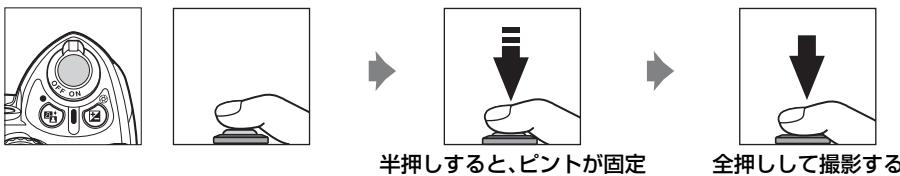
コマンドダイヤル

コマンドダイヤルを単体で回すか、ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、次の設定ができます。液晶モニターの情報画面やファインダーを見ながら設定します。

機能	操作	表示
プログラムシフト（41） （撮影モードが**P**のとき）		
シャッタースピードの設定（42、44） （撮影モードが**S**または**M**のとき）		
絞りの設定（43） （撮影モードが**A**のとき）		
絞りの設定（44） （撮影モードが**M**のとき）		
露出補正（67） （撮影モードが**P**、**S**、**A**のとき）		

フラッシュモード（65） （撮影モードがAUTO、P、S、A、Mのとき）		
調光補正（68） （撮影モードがP、S、A、Mのとき）		
アクティブD-ライティング（69）		
レリーズモード設定（54） （単写、連写、セルフタイマー、2秒リモコン、または瞬時リモコンに設定）	**（Fn）ボタン（「11 /Fnボタンの機能」（112）を右のいずれかの設定にすると、コマンドダイヤルで変更できます**	
画質モード/画像サイズ設定（49）		
ISO感度設定（53）		
ホワイトバランス設定（52）		

はじめに

マルチセレクター

マルチセレクターの使い方は次のとおりです。

撮影時に使う

（AFエリアモード（58）がダイナミックAFまたはシングルポイントAFの場合のみ）

撮影設定変更画面で使う

メニュー画面で使う

再生時に使う

シャッターボタン

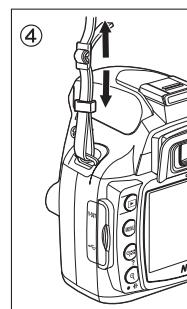
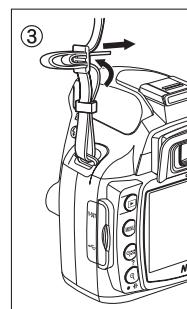
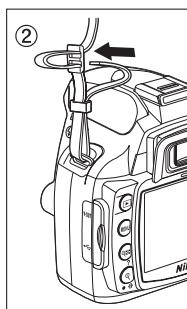
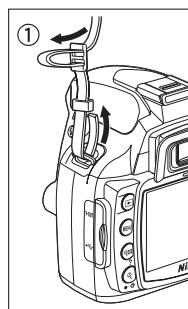
シャッターボタンを軽く抵抗を感じるところまで押して、そのまま指を止めることを、「**シャッターボタンを半押しする**」といいます。半押しするとピントが合い、半押しを続けている間、そのピントで固定（フォーカスロック）されます※。そのまま深く押し込む（これを「**シャッターボタンを全押しする**」といいます）と、シャッターがきれます。

※ 動いている被写体などの撮影で、［フォーカスモード］（57）を［AF-A］（AFサーボモード自動切り換え）に設定していて自動で［AF-C］（コンティニュアスAFサーボ）に切り換わっているときや、［AF-C］に設定しているときはフォーカスロックされません。また、ピントが合ったときの電子音も鳴りません。

半押しすると、ピントが固定

全押しして撮影する

?（ヘルプ）ボタン

（?）ボタンを押している間、液晶モニターに撮影時のカメラの状態やメニューのヘルプを表示します。ヘルプ画面が2ページにまたがっている場合は、（?）ボタンを押しながらマルチセレクターの下を押すと、次のページが表示されます。液晶モニターに?、またはファインダー内下部に?（警告表示）が点滅している場合には、（?）ボタンを押すと、警告の内容を確認できます。

ストラップ AN-DC1

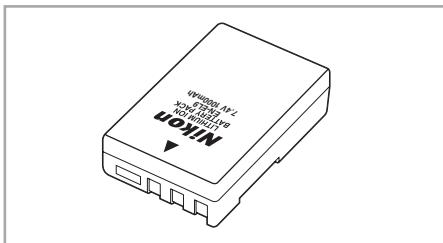
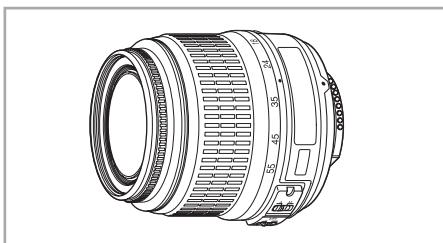
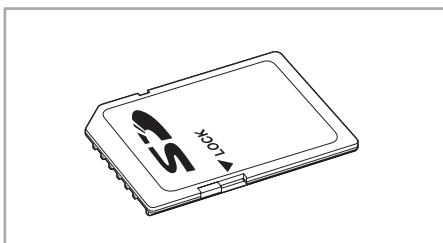
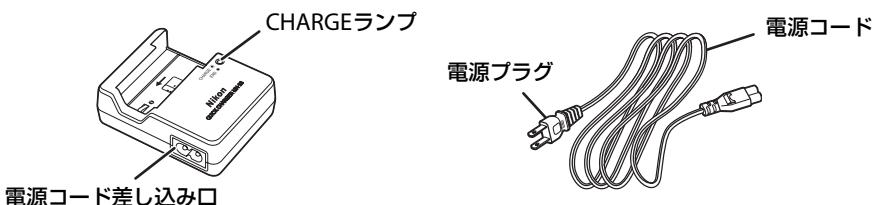
次のようにストラップをカメラに取り付けます（2ヵ所）。

撮影の準備

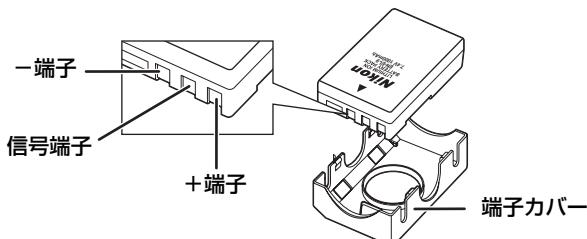
この章では、撮影の準備として、バッテリーの充電とカメラへの入れ方、レンズの取り付け方、カメラの日時設定方法、SDカードの使い方を説明します。

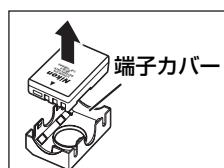
16

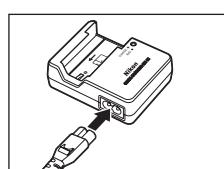
18

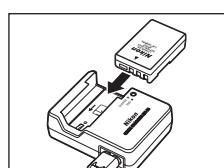
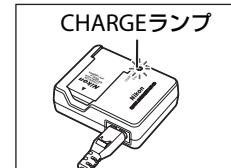
21

23

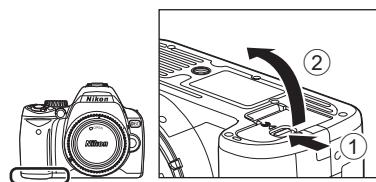
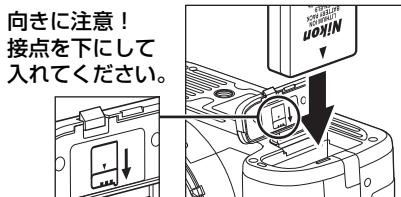
バッテリーを充電してカメラに入れる

ご購入直後やバッテリー残量が少なくなったときは、付属のLi-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL9（充電池）を、付属のクイックチャージャー MH-23（充電器）で充電してからカメラに入れてください。

クイックチャージャー MH-23

付属のバッテリー EN-EL9用の充電器です。

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL9

D60用の充電池です。

1 バッテリーを充電する

1.1 バッテリーの端子カバーを取り外す

1.2 クイックチャージャーと電源コードを接続し、電源プラグをコンセントに差し込む

1.3 バッテリーをクイックチャージャーに取り付ける

- CHARGEランプが点滅し、充電が始まります。
- 使い切ったバッテリーを充電するには、およそ90分かかります。

1.4 CHARGE ランプが点滅から点灯に変わったら、バッテリーを取り外す
- 充電が完了しました。電源プラグをコンセントから抜いてください。

2 バッテリーをカメラに入れる

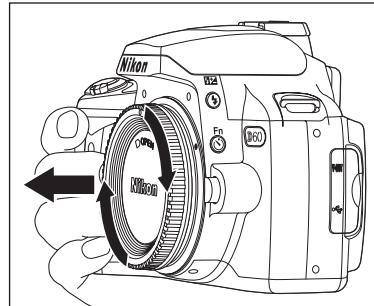
2.1 **電源スイッチが OFF の位置になっていることを確認し**、カメラ底面のバッテリーカバーを開ける

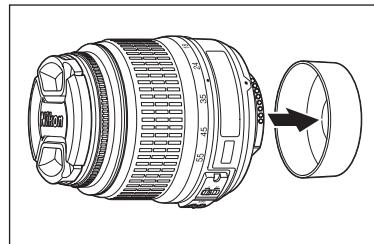
2.2 充電したバッテリーを右図のように入れ、バッテリーカバーを閉じる

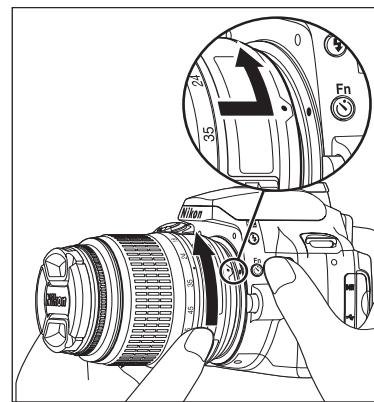
バッテリーを取り出すときは

バッテリーをカメラから取り出すときは、電源スイッチをOFFにし、SDカードアクセスランプの消灯を確認してから、バッテリーカバーを開けてください。

付属の電源コードについてのご注意

付属の電源コードは、クイックチャージャー MH-23以外の機器に接続しないでください。この電源コードは日本国内専用（AC 100 V対応）です。日本国外でお使いになる場合は、別売の電源コードが必要です。別売の電源コードについてはニコンサービス機関にお問い合わせください。また、ニコンオンラインショップ（http://shop.nikon-image.com/）でもお求めいただけます。

バッテリーとクイックチャージャーの使用上のご注意

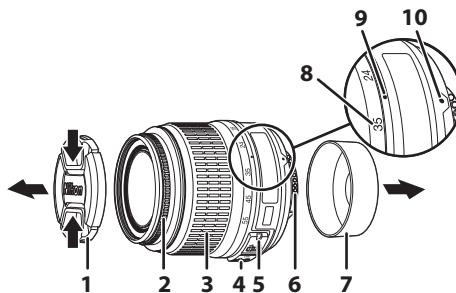
- お使いになる前に、必ず「安全上のご注意」（ii～v）、「カメラと付属品の取り扱い上のご注意」（164～166）をお読みになり、記載事項をお守りください。
- バッテリーは0～40℃の範囲を超える場所では使用しないでください。充電は室温（5～35℃）で行ってください。バッテリーの性能を充分に発揮するために、約20℃以上で充電することをおすすめします。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量や、使えるバッテリー容量は少なくなります。
- カメラの使用直後など、バッテリー内部の温度が高くなっている場合は、温度が下がるのを待ってから充電してください。
- バッテリーをカメラやクイックチャージャーから取り外しておくときは、ショートを防止するため、付属の端子カバーをバッテリーに取り付けてください。
- クイックチャージャーを使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。

レンズを取り付ける

レンズを取り付けるときは、カメラ内部にほこりなどが入らないようにご注意ください。

1 カメラの電源をOFFにし、カメラのボディーキャップを外す

レンズの裏ぶたを外す

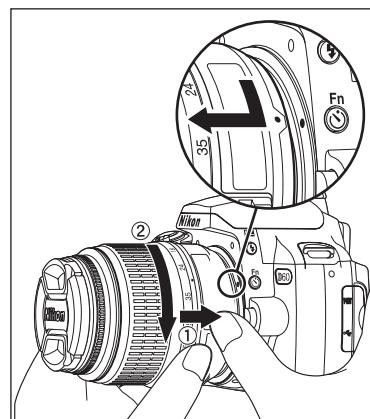
2 レンズとカメラのレンズ着脱指標を合わせながらレンズを差し込み、矢印の方向にカチッと音がするまでレンズを回す

- レンズに A-M 切り換えスイッチまたはフォーカスモード切り換えスイッチがある場合は、A（オートフォーカス）またはM/A（マニュアル優先オートフォーカス）に合わせてください。

オートフォーカスで撮影できるレンズについて

このカメラでピントをオートフォーカスで合わせるには、AF-SまたはAF-Iレンズが必要です。AF-S、AF-Iレンズは、オートフォーカス用のモーターを内蔵したレンズです。AF-S、AF-Iレンズ以外のオートフォーカス（AF）レンズを取り付けても、このカメラではオートフォーカス撮影できません。

レンズについて

この使用説明書では、イラストにAF-S DX NIKKOR 18–55mm f/3.5–5.6G VRを使っています。AF-S DX ズームニッコール ED 18–55mm f/3.5–5.6G IIも手ブレ補正（VR）機能を除き、操作方法は同じです。
その他のレンズをお使いの場合は、レンズの使用説明書をご覧ください。

No.	名称	ページ
1	レンズキャップ	
2	フォーカスリング	61
3	ズームリング	30
4	手ブレ補正スイッチ※	20
5	A-M切り換えスイッチ	18、61
6	CPU信号接点	147
7	裏ぶた	
8	焦点距離目盛	
9	焦点距離目盛指標	
10	レンズ着脱指標	18

※ AF-S DX ズームニッコール ED 18–55mm f/3.5–5.6G IIにはありません。

絞りリングのあるレンズについてのご注意

絞りリングのあるレンズを取り付ける場合は、最小絞り（最大値）にして、ロックしてください。詳しくはレンズの使用説明書をご覧ください。

レンズを取り外すときは

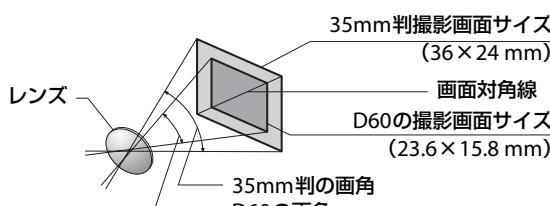
レンズを取り外したり交換したりするときは、カメラの電源がOFFになっていることを確認してください。レンズを取り外すには、レンズ取り外しボタンを押しながら（①）時計回りにレンズを回します（②）。取り外した後は、カメラとレンズにそれぞれのキャップを取り付けてください。

手ブレ補正機能（VR）を使う

AF-S DX NIKKOR 18–55mm f/3.5–5.6G VRには、手ブレ補正機能（VR）があります。このレンズでは、シャッタースピードで約3段分※（焦点距離55mm時）の手ブレを補正します。パンニング（流し撮り）にも対応しています。

※ 当社測定条件によります。また、手ブレ補正効果は、撮影者や撮影条件によって異なります。

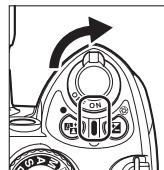
- 手ブレ補正機能を使うときは、手ブレ補正スイッチを［ON］にしてください。
- シャッターボタンを半押しすると、手ブレを補正します。このときファインダー内の画像のブレも補正するため、ピント合わせが容易で、構図が決めやすくなります。
- 手ブレ補正スイッチを［OFF］にすると、手ブレを補正しません。

VR
ON OFF

手ブレ補正使用時のご注意

- パンニング（流し撮り）でカメラの向きを大きく変えた場合、流した方向の手ブレ補正は機能しません。例えば、流し撮りで横方向にパンニングすると、縦方向の手ブレだけが補正され、流し撮りができます。
- 手ブレ補正の原理上、シャッターをきるとファインダー像がわずかに動くことがありますが、異常ではありません。
- 手ブレ補正中にカメラの電源スイッチをOFFにしたり、レンズを取り外したりしないでください。（その状態でレンズを振るとカタカタ音がすることがありますが、故障ではありません。カメラの電源スイッチを再度ONにすれば、音は消えます。）
- 内蔵フラッシュ充電中には、手ブレを補正しません。
- 三脚を使用するときは、手ブレ補正スイッチを［OFF］にしてください。ただし、三脚を使っても雲台を固定しないときや、一脚を使用するときには、スイッチを［ON］にするようおすすめします。

レンズの画角と焦点距離について

D60ではさまざまなニコン一眼レフカメラ用レンズが使用できます。ただし、これらのレンズをD60に装着したときの画角は、レンズに表記されている焦点距離の1.5倍のレンズに相当する画角になります。これは35mm判カメラの撮影画面サイズ（36×24 mm）に対して、D60の撮影画面（約23.6×15.8 mm）が小さいためです。

例：D60に24mmのレンズを装着した場合の画角は、35mm判カメラ換算でおおよそ36mmの焦点距離となります。

日時を設定する

ご購入後はじめてカメラの電源をONにすると、カメラの内蔵時計の日時を設定する画面が表示されます。日時設定が完了するまで、撮影や他の設定はできません。

1 電源をONにする

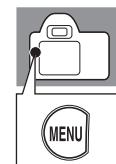
・［日時の設定］画面が表示されます。

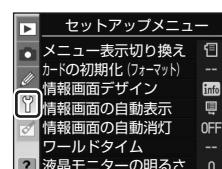
2 日時を合わせる

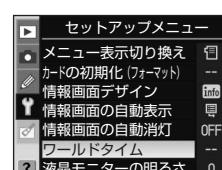
・マルチセレクターの上または下を押してカーソルのある項目を合わせます。

・マルチセレクターの右を押すと、カーソルは年→月→日→時→分→秒に移動します。左を押すと、カーソルは前の項目に移動します。

3 OK ボタンを押して、設定を完了する

・設定が完了すると、撮影モードになり、情報画面が表示されます。

設定した日時を変更するには

セットアップメニューの［ワールドタイム］で変更できます。

1 電源をONにしてMENUボタンを押す

・液晶モニターにメニュー画面が表示されます。メニュー項目がすでに選択されている場合はマルチセレクターの左を押して、メニューのアイコンを黄色で表示してください。

2 （セットアップメニュー）アイコンを選ぶ

・マルチセレクターの右を押すと、セットアップメニューのメニュー項目を選択できるようになります。

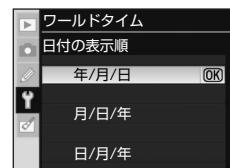
3 ［ワールドタイム］を選ぶ

・マルチセレクターの右を押すと［ワールドタイム］画面が表示されます。

4 ［現在地の設定］、［日時の設定］、［日付の表示順］または［夏時間］を選ぶ

- マルチセレクターの右を押すと各設定画面が表示されます。
- それぞれの項目を設定するたびに、［ワールドタイム］画面に戻ります。
- 夏時間の機能を使うときは、「日時の設定」前に「夏時間」を設定してください。

現在地の設定

マルチセレクターの左または右を押して現在地のタイムゾーン（都市名）を選び、**OK** ボタンを押してください。現在地のタイムゾーンを変更すると、［日時の設定］で設定された日時が、時差に合わせて自動的に更新されます。

日時の設定

［現在地の設定］で選んだタイムゾーンでの日時を設定します。設定方法は「日時を設定する」の手順2（21）と同じです。

日付の表示順

日付の表示順を、［年/月/日］、［月/日/年］、［日/月/年］から選び、**OK** ボタンを押してください。

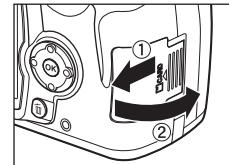
夏時間

現在地で夏時間（サマータイム）が実施されているときは、［ON］を選んで**OK** ボタンを押すだけで、時刻が1時間進みます。夏時間が実施されていないときは［OFF］（初期設定）にしてください。

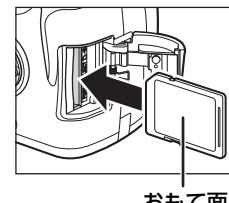
時計用電池についてのご注意

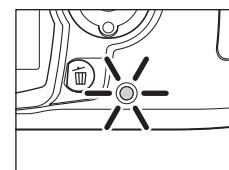
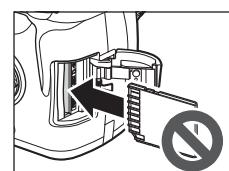
カメラの内蔵時計は、バッテリーとは別の時計用電池で作動します。カメラにバッテリーを入れるか、別売のパワーコネクター EP-5とACアダプター EH-5a（156）を接続すると、時計用電池が充電されます。充電には約3日間かかり、充電すると、約1ヵ月の間時計を動かせます。液晶モニターに［日時未設定］と表示された場合は、内蔵時計の設定が初期化されているため、撮影日時が正しく記録されません。もう一度、日時を設定してください。

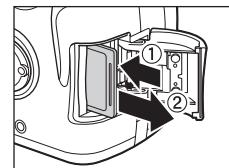
表示言語を変更するには

画面に表示される言語は、セットアップメニュー（117）の［言語（LANG）］（123）で変更できます。

SDカードを入れる

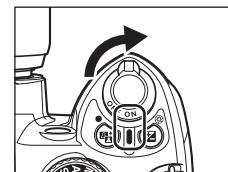
このカメラは、撮影した画像をSDカードに記録します。市販のSDカードを用意してください（「推奨SDカード」：158）。

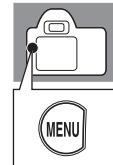
SDカードをカメラに入れる

1 電源をOFFにした状態で、SDカードカバーを開ける

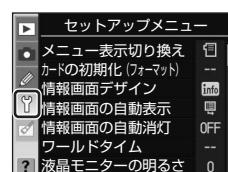
- SDカードを抜き挿しするときは、必ず電源をOFFにしてください。

2 SDカードを入れる

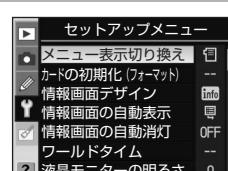
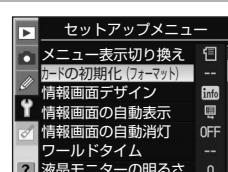
- 右図のように正しい向きで、カチッと音がするまで挿入してください。

- SDカードが正しく挿入されると、SDカードアクセスランプが数秒間点灯します。
- 挿入後、SDカードカバーを閉めてください。
- D60に初めて使うSDカードを入れたときは、「SDカードを初期化（フォーマット）する」（24）に進んでください。

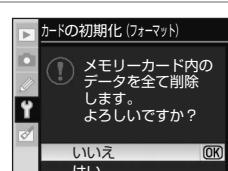
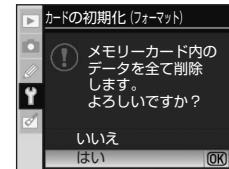
SDカードを取り出すときは

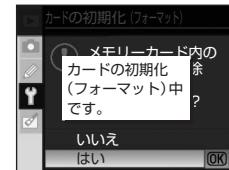
SDカードカバーを開ける前に、SDカードアクセスランプの消灯を確認して、電源をOFFにしてください。

カードを指で軽く奥に押し込んで離すと（①）、カードが押し出されるので、まっすぐ引き抜いてください（②）。

SDカードを初期化（フォーマット）する

D60に初めて使うSDカードは、D60で初期化してからお使いください。**SDカードを初期化すると、カード内のデータはすべて消えてしまいます。**カード内に必要なデータが残っているときは、初期化する前に、パソコンなどに保存してください。

1 電源をONにする

2 MENUボタンを押す

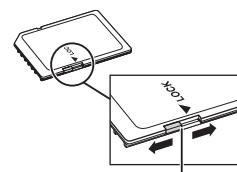
・液晶モニターにメニュー画面が表示されます。メニュー項目がすでに選択されている場合はマルチセレクターの左を押して、メニューのアイコンを黄色で表示してください。

3 （セットアップメニュー）を選ぶ

4 マルチセレクターの右を押す

・セットアップメニューのメニュー項目を選択できるようになります。

5 ［カードの初期化（フォーマット)］を選ぶ

6 OKボタンを押す

・［カードの初期化（フォーマット)］画面が表示されます。

7 ［はい］を選ぶ

8 OKボタンを押す

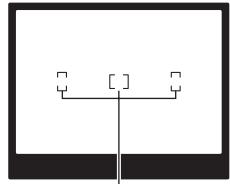
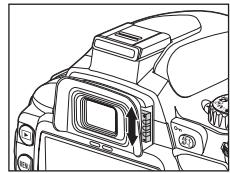
・初期化が始まります。初期化が完了してセットアップメニューが表示されるまでは、電源をOFFにしたり、バッテリーカバーやSDカードカバーを開けたりしないでください。

SDカードについてのご注意

・必ずD60でフォーマット（初期化）してからお使いください。
・フォーマット中や画像の記録・削除中、パソコンとの通信時などに、次のことは行わないでください。記録されているデータの破損やカードの故障の原因となります。
- カードを着脱しないでください
- カメラの電源をOFFにしないでください
- バッテリーを取り出さないでください
- ACアダプターを抜かないでください
・端子部に手を触れたり、金属を接触させたりしないでください。
・無理な力を加えないでください。破損のおそれがあります。
・曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
・熱、水分、直射日光を避けてください。

パソコンでSDカードを初期化した場合のご注意

パソコンで初期化したSDカードをそのままD60で使うと、データの記録速度が低下する場合があります。D60で初期化しなおしてからお使いください。

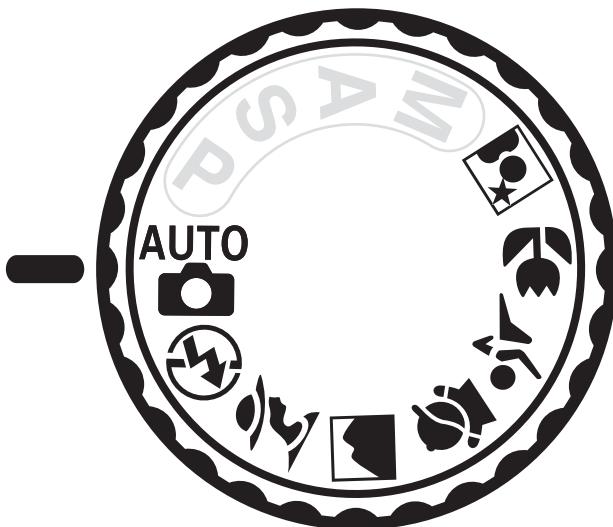
書き込み禁止スイッチについて

SDカードには、書き込み禁止スイッチが付いています。このスイッチを「LOCK」の位置にすると、データの書き込みや削除を禁止して、カード内の画像を保護できます。撮影時や画像を削除するとき、カードを初期化するときは「LOCK」を解除してください。

書き込み禁止スイッチ

ファインダー内の見え方を調節する（視度調節）

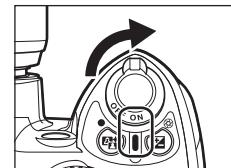
撮影するときは、ファインダーをのぞきながら構図を決めます。あらかじめ、ファインダー内がはっきり見えるように調節してください。

レンズの前キャップを取り外して、視度調節レバーで調節します。

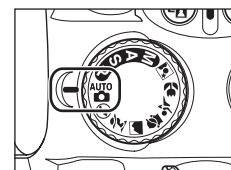
- ファインダーをのぞきながら視度調節レバーを上下に動かし、フォーカスポイントの枠線が最もはっきり見えるように調節してください。
- 爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。

フォーカスポイント

簡単な撮影と再生

この章では、撮影モードダイヤルをAUTO（オート）にセットして、基本的な撮影から再生までを4つのステップで説明します。さらに、シーンにふさわしい写真が簡単に撮影できるデジタルイメージプログラムの特長も説明しています。

- 基本的な撮影～再生の4ステップは、全ての撮影と再生の基本操作です。基本操作としてマスターされることをおすすめします。

AUTO（オート）で撮影する

ここでは、撮影の基本的な手順を、AUTO（オート）撮影モードを使って説明しています。AUTO（オート）撮影モードを使うと、シャッターボタンを押すだけの簡単な操作で、さまざまな状況での撮影を楽しめます。

ステップ1　電源をONにして撮影モードを選ぶ

1 電源をONにする

- レンズの前キャップを外してください。
- 液晶モニターにイメージセンサークリーニング作動中の画面が表示された後、情報画面が表示されます。
- ファインダーをのぞくと液晶モニターは消灯し、ファインダー内下部の表示が点灯します。

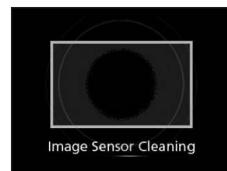
2 撮影モードダイヤルを回して、AUTO（オート）に合わせる

- AUTO（オート）撮影モードになります。

3 バッテリーの残量を確認する

- 液晶モニターの情報画面でバッテリーの残量を確認してください（29）。
- 液晶モニターが消灯したときは、（）ボタンを押すと情報画面が再表示されます。
- バッテリー残量がなくなると、情報画面は表示できません。バッテリーを充電または交換してください。

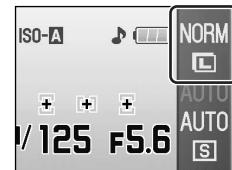
4 SDカードの残量を確認する

- SDカードに記録できるコマ数が、情報画面またはファインダー内下部に表示されます。

- SDカードの残量がなくなると右のように表示され、撮影できなくなります。不要な画像を削除するか（34、96）、別のSDカードに交換してください。

イメージセンサークリーニングについて

カメラの電源をON/OFFするたびに、撮影素子の表面にあるローパスフィルターを振動させてゴミを払い落とすイメージセンサークリーニングが作動します（初期設定）。セットアップメニューの［イメージセンサークリーニング］で、電源スイッチに連動させるかどうかを設定できます（160）。

バッテリーの残量表示

液晶モニター	ファインダー	意味
（3目盛り）	表示なし	バッテリーは充分に残っています。
（2目盛り）	表示なし	バッテリーが減り始めました。
（1目盛り）	（残量少表示）	バッテリーが残り少なくなりました。バッテリー充電または交換の準備をしてください。
（1目盛り）（点滅）	（残量少表示）（点滅）	撮影できません。バッテリーを充電または交換してください。

1000コマ以上補助表示

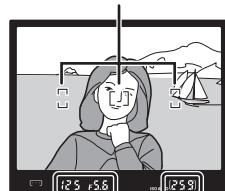
記録可能コマ数が1000コマ以上あるときは、100コマ単位のおよその記録可能コマ数と1000倍を意味する「K」が表示されます。たとえば、1160コマ記録可能な場合は、［1.1K］と表示されます。

画質モードと画像サイズについて

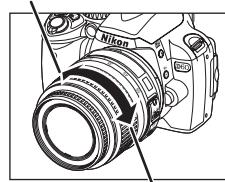
初期設定では、画質モードは［NORMAL］、画像サイズは［L］です。画像の用途などに合わせて変更できます（49）。

ステップ2　カメラを構える

1 カメラをしっかりと構える

カメラの構え方

- 右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。
- わきを軽く締めます。
- 片足を少し前に踏み出すと、上半身が安定します。

2 ファインダーをのぞいて、構図を決める

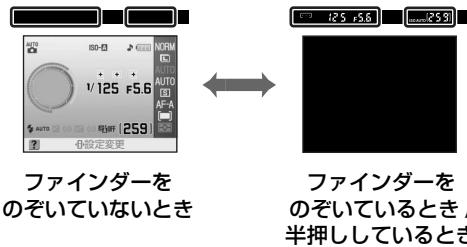
- ファインダーをのぞくと、液晶モニターが消灯し、ファインダー内下部の表示が点灯します。
- 構図を決めるときに、液晶モニターは使えません。
- ファインダーでシャッタースピード、絞り値、記録可能コマ数などの撮影情報を確認できます。ファインダー内下部の表示が消灯したときは、再度、シャッターボタンを半押ししてください。
- ピント合わせを行う3つの領域（フォーカスポイント）の少なくとも1つに、被写体が重なるようにしてください。

ズームレンズの使い方

被写体を大きく写したいときはズームリングを望遠側（焦点距離目盛の大きい数値側）に、広い範囲を写したいときはズームリングを広角側（焦点距離目盛の小さい数値側）に回してください。

ファインダーの視度調節について

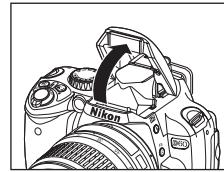
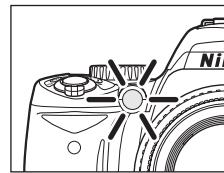
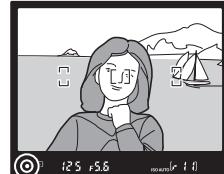
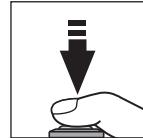
「ファインダー内の見え方を調節する（視度調節）」（26）

露出計のオン/オフと「半押しタイマー」について

このカメラには被写体の明るさを測光する露出計があります。
露出計は主に以下の操作で作動（オン）します。

- 電源をONにしたとき
- 電源ONでシャッターボタンを半押ししたとき
- 電源ONで（）ボタンを押したとき

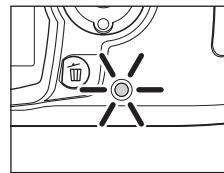
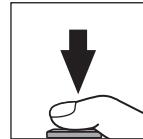
露出計作動中は、ファインダー内下部の表示または情報画面が点灯し、シャッタースピード、絞り値、記録可能コマ数などの撮影情報を確認できます（7、9）。
露出計は、電源スイッチがONになっていても「半押しタイマー」と連動して自動的に停止（オフ）します。「半押しタイマー」はバッテリーの消耗を押さえる機能で、シャッターボタンから指をはなしたまま、カメラを操作しない状態が8秒（初期設定）続くと、「半押しタイマー」が切れて露出計は停止します。「半押しタイマー」の時間は、カスタムメニューの［15 パワーオフ時間］（114）で変更できます。なお、再生/メニューや撮影直後の画像確認など、撮影以外で液晶モニターが点灯しているときも露出計は作動していますが、「パワーオフ時間」で設定した液晶モニター消灯時間に露出計も停止します。

「情報画面の自動消灯」について

撮影時、半押しタイマーがオンのときにファインダーに顔を近づけると、アイセンサーが反応して情報画面が消灯し（初期設定）、バッテリーの消耗を軽減します。ファインダーから顔を離すと、ファインダー内下部の表示が消灯して情報画面が点灯します。セットアップメニューの［情報画面の自動消灯］（123）で情報画面が消灯しないように変更できます。ただし、［情報画面の自動消灯］の設定にかかわらず、半押しタイマーが切れると情報画面は消灯します。

ファインダーを
のぞいていないとき

ファインダーを
のぞいているとき /
半押ししているとき

簡単な撮影と再生

ステップ3　ピントを合わせて撮影する

1 シャッターボタンを半押しする

- フォーカスポイントに重なっている被写体のうち、最もカメラに近い主要被写体に自動的にピントが合います。

- ピントが合うと、「ピピッ」という電子音が鳴り、ファインダー内下部のピント表示●が点灯します。また、ファインダー内で、ピントを合わせたフォーカスポイントが赤く表示されます。
  ファインダー内下部のピント表示●が点滅したときは、ピントが合っていません。構図を変え、もう一度シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせてください。
- 「コラム：オートフォーカスの苦手な被写体」（38）の撮影では、オートフォーカスによるピント合わせができないことがあります。
- シャッターボタンを押している間、連続して撮影できるコマ数（連写可能コマ数）（55）がファインダーに表示されます。連写可能コマ数の先頭には「r」が付きます。
- 暗い場所などでは、AF 補助光ランプが点灯したり、内蔵フラッシュが上がることがあります。

2 シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込む（全押しする）

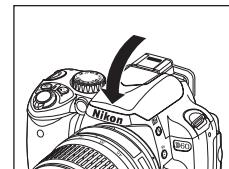
- シャッターがきれ、画像がSDカードに記録されます。

- 画像の記録中は、SDカードアクセスランプが点灯します。
  SDカードアクセスランプが消灯して記録が完了するまで、SDカードカバーやバッテリーカバーを開けたり、ACアダプターを取り外したりしないでください。

- 撮影した画像が液晶モニターに数秒間、再生されます。
- 再生中でもシャッターボタンを半押しすると、すぐに次の撮影ができます。
- 撮影を終了して電源をOFFにするときは、電源スイッチをOFFの位置まで回してください。

簡単な撮影と再生

シャッターボタンの半押しと全押しについて

「シャッターボタン」（13）

電子音について

- ［フォーカスモード］（57）が初期設定の［AF-A］（AF サーボモード自動切り換え）で、被写体が動いているとカメラが判断して、自動的に［AF-C］（コンティニュアスAFサーボ）に切り換わっているときや、［AF-C］に設定されているときは、ピントが合ったときの電子音は鳴りません。
- カスタムメニューの［01 電子音設定］で電子音を鳴らないように設定できます（110）。

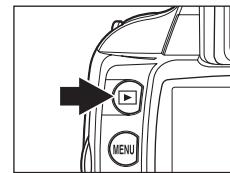
内蔵フラッシュについて

AUTO撮影モードでは、被写体が暗い場合や逆光の場合に、シャッターボタンを半押しすると自動的に内蔵フラッシュが上がります。ファインダー内に⚡が点灯しているときは、シャッターボタンを全押しすると、内蔵フラッシュが発光します。

- フラッシュ撮影時には、画像に影が映り込むことがあるため、レンズフードを取り外してください。
- 内蔵フラッシュが上がっていても、⚡が点灯していないときは、フラッシュの充電中のため撮影できません。⚡が点灯してから撮影してください。
- AUTO 撮影モードなど、フラッシュモードが AUTO（オート）の場合、内蔵フラッシュが上がった後に、被写体が明るくなりフラッシュ撮影の必要がなくなったときは、フラッシュは発光しません。⚡が点灯していないときも撮影できます。
- 撮影モードを（発光禁止オート）に設定すると（36）、内蔵フラッシュが上がらずに撮影できます。
- 内蔵フラッシュやフラッシュモード（発光方式）についての詳細は、「内蔵フラッシュを使う」（64）をご覧ください。
- 内蔵フラッシュの光が充分に届く距離（調光範囲）は、ISO感度や絞り値によって異なります（179）。
- 内蔵フラッシュを使わないときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げて収納してください。

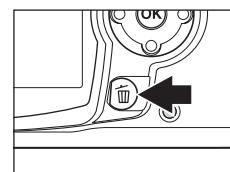
撮影時の設定を変えるには

AUTO撮影モードでは、画質モード（50）や画像サイズ（50）のほかに、シャッターのきり方（レリーズモード）（54）、ピントの合わせ方（57）、ISO感度（53）、アクティブD-ライティング（69）などの設定や変更ができます。

撮影後の画像表示について

カスタムメニューの［07 撮影直後の画像確認］で撮影直後に画像を自動的に再生しないように設定にできます（111）。

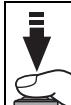
ステップ4　撮影した画像を確認する/削除する

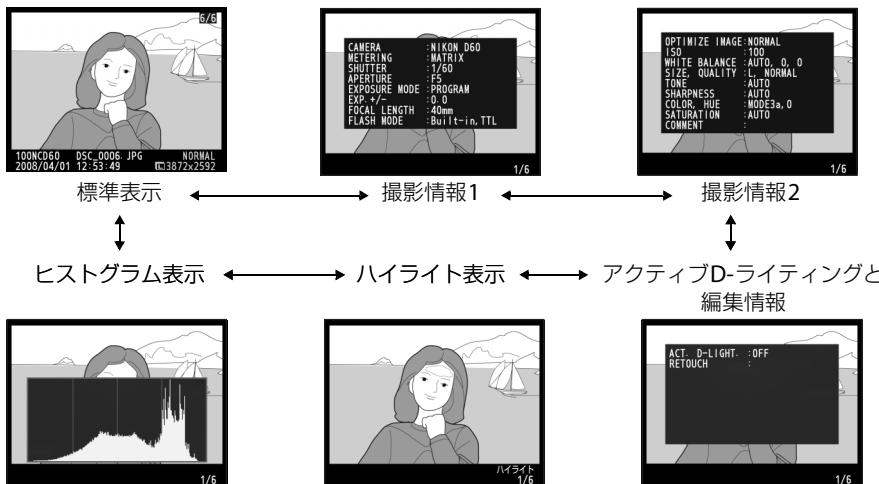
画像を再生する

撮影後、液晶モニターの消灯中や情報画面の表示中などに▶ボタンを押すと、最後に撮影した画像が1コマ表示されます。

- マルチセレクターの左または右を押すと（またはコマンドダイヤルを回すと）、ほかの画像を表示できます。
- マルチセレクターの上または下を押すと、再生中の画像に関する撮影情報などを確認できます（35、73）。
- 撮影に戻るには、シャッターボタンを半押しするか、もう一度▶ボタンを押してください。

画像を削除する

不要な画像は、次の手順で削除できます。

1 削除したい画像を液晶モニターに表示して、🗑ボタンを押す

2 確認画面が表示されたら、もう一度🗑ボタンを押す

- 表示中の画像が削除されて、再生画面に戻ります。
- 削除をやめるときは、▶ボタンを押してください。

1コマ表示で使える機能

機能	ボタン	内容
画像を拡大する	⊕	表示中の画像を拡大表示します（77）。
複数画像を一覧表示する	⊖	サムネイル表示（76）に切り換えます。
画像編集メニューを表示する	OK	撮影した画像の補正などができます（129）。
撮影に戻る	シャッターボタン半押し または ▶	撮影モードに戻ります。

画像情報の表示

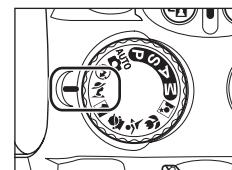
マルチセレクターの上または下を押すと、次のように画像情報の表示が切り換わり、画像についての詳しい情報を見ることができます（73）。

ハイライト部が点滅します。

画像再生について

- 撮影直後に確認として自動再生される画面では、バッテリー残量と記録可能コマ数が大きく表示されます。
- カスタムメニューの［15 パワーオフ時間］で液晶モニターが自動的に消灯するまでの時間を設定できます（114）。

画像をまとめて削除するには

再生メニューの［削除］を使うと、画像をまとめて削除できます（94、96）。

シーンに合わせて撮影する

デジタルイメージプログラムには、AUTO（オート）撮影モードの他に、次の撮影モードがあります。撮影シーンに合わせて撮影モードを選ぶだけで、そのシーンに適した撮影ができます。

ダイヤルの位置	撮影モード	こんなときに
	発光禁止オート	フラッシュを光らせずに撮影したい
	ポートレート	人物を撮影したい
	風景	風景や街並みを撮影したい
	こどもスナップ	子供を撮影したい
	スポーツ	運動会などのスポーツ写真を撮影したい
	クローズアップ	草花や昆虫などを接写したい
	夜景ポートレート	夕景や夜景をバックに人物を撮影したい

撮影の手順

1 撮影モードダイヤルを回して、撮影モードを設定する

2 ファインダーをのぞきながら構図を決めて、シャッターボタンを押して撮影する

各撮影モード（、、、、、、）の特徴

（発光禁止オート）モード

内蔵フラッシュが発光禁止になります。フラッシュ撮影が禁止されている場所での撮影や、フラッシュを光らせずに撮影したい赤ちゃんの撮影などに使います。フラッシュを使わないことで、暗い場所でも被写体を自然な感じに表現します。

- 被写体が暗いときは、AF 補助光が点灯します。
- フォーカスポイントに重なっている被写体のうち、最も手前にある主要被写体に自動的にピントが合います。

（ポートレート）モード

人物の撮影に使います。人物の肌をなめらかで自然な感じに仕上げます。

- 被写体と背景が離れているときや、望遠レンズを使って撮影したときは、背景がぼけて立体感のある画像になります。
- フォーカスポイントに重なっている被写体のうち、最も手前にある主要被写体に自動的にピントが合います。

（風景）モード

自然の風景や街並みを、色鮮やかに撮影したいときに使います。
- 被写体が暗いときでも内蔵フラッシュとAF補助光ランプは点灯しません。
- フォーカスポイントに重なっている被写体のうち、最も手前にある主要被写体に自動的にピントが合います。

（こどもスナップ）モード

子供の撮影に向いています。肌の色を美しく表現すると同時に、服装や背景も鮮やかに仕上げます。
- フォーカスポイントに重なっている被写体のうち、最も手前にある主要被写体に自動的にピントが合います。

（スポーツ）モード

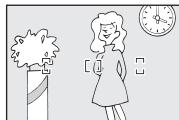
運動会などスポーツ写真の撮影に向いています。動きのある被写体の一瞬の動きを鮮明にとらえ、躍動感のある画像に仕上げます。
- 内蔵フラッシュとAF補助光ランプは点灯しません。
- シャッターボタンを半押ししている間、中央のフォーカスポイントに重なっている被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。中央のフォーカスポイントから被写体が外れてしまった場合でも、他のフォーカスポイントを使ってピントを合わせ続けます。マルチセレクターの左または右を押すと、他のフォーカスポイントを選べます（59）。

（クローズアップ）モード

草花や昆虫などの小さな被写体に近づき、大きく写したいときに使います。
- 手ブレしやすいため、三脚の使用をおすすめします。
- 中央のフォーカスポイントでピントを合わせます。マルチセレクターの左または右を押すと、他のフォーカスポイントを選べます。

（夜景ポートレート）モード

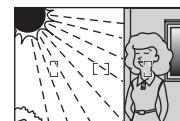
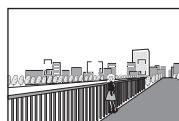
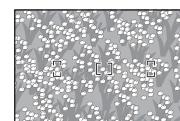
夕景や夜景をバックに、人物を撮影したいときに使います。人物と背景の両方を美しく表現します。
- 手ブレしやすいため、三脚の使用をおすすめします。
- フォーカスポイントに重なっている被写体のうち、最も手前にある主要被写体に自動的にピントが合います。

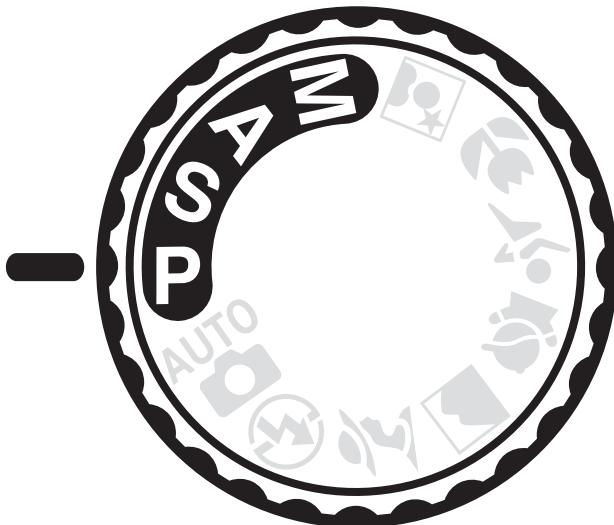
内蔵フラッシュについて

撮影モードが、、、のときは、被写体が暗い場合や逆光の場合に、シャッターボタンを半押しすると、AUTO撮影モードと同様に自動的に内蔵フラッシュが上がって発光します（64）。フラッシュの発光方式（フラッシュモード）は変更できます（65）。

コラム：オートフォーカスの苦手な被写体

次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができず、シャッターがきれないことや、ピントが合わなくてもピント表示●が点灯し、電子音が鳴ってシャッターがきれることがあります。

このような場合は、マニュアルフォーカス（☞61）でピントを合わせるか、同距離にある別の被写体にピントを合わせてフォーカスロック撮影（☞60）してください。

被写体の明暗差がはっきりしない場合
（背景と同じ色の服を着ている人物など）

遠くのものと近くのものが混在する場合
（オリの中の動物など）

連続した繰り返しパターンの被写体
（ビルの窓など）

被写体の明暗差が極端に異なる場合
（太陽を背景にした日陰の人物など）

背景に対してメインの被写体が小さい場合
（遠くの建物を背景に近くの人物を撮影する場合など）

絵柄が細かい場合
（一面の花畑など）

P、S、A、Mモードで撮影する

この章では、プログラムオート（**P**）、シャッタースピード優先オート（**S**）、絞り優先オート（**A**）、マニュアル（**M**）の各撮影モードの使い方を説明します。これらのモードでは、シャッタースピードや絞り値を撮影者自身で選んだり、ホワイトバランス（52）、測光モード（62）、フラッシュ調光補正（68）、露出補正（67）などの設定を変更したりして撮影できるので、デジタルイメージプログラムに比べ、撮影者の作画意図をさらに反映した撮影が可能です。

撮影モードP、S、A、Mを使う

撮影の意図に応じて、シャッタースピードと絞りを自分で設定するか、カメラまかせにするかによって、撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**を使い分けます。

撮影モード	内容
P プログラムオート（41）	シャッタースピードと絞りの両方をカメラが自動的に設定します。シャッターチャンスを逃したくないスナップ撮影などに使います。
S シャッター優先オート（42）	シャッタースピードを自分で設定し、絞りはカメラが自動的に設定します。動きの速い被写体を速いシャッタースピードで撮影したり、遅いシャッタースピードで動きを強調したりするときなどに使います。
A 絞り優先オート（43）	絞りを自分で設定し、シャッタースピードはカメラが自動的に設定します。背景をぼかしたり、手前から奥まで鮮明に写したいときなどに使います。
M マニュアル露出（44）	シャッタースピードと絞りの両方を自分で設定します。長時間露光（バルブ）撮影も、このモードで行います。

シャッタースピードと絞りについて

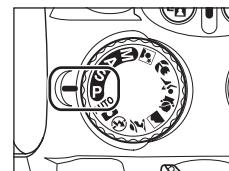
シャッタースピードと絞りを調整して、画像を意図した明るさ（露出）で撮影することを、「露出を合わせる」といいます。同じ露出の画像でも、シャッタースピードと絞りの組み合わせによって、撮影される画像の流動感や背景のぼかし具合などが変わってきます。

速いシャッタースピードのとき
1/1600 秒

絞りを絞り込んだとき（絞り値が大きいとき）
f/36

遅いシャッタースピードのとき
1 秒

絞りを開いたとき（絞り値が小さいとき）
f/3

ISO感度（53、111）を変えると、適正露出を得られるシャッタースピードと絞り値の設定範囲も変化します。

レンズの絞りリングについて

CPUレンズ（Gタイプレンズを除く）の絞りはカメラで設定します。絞りリングは、必ず最小絞り（最大値）にセットしてください。

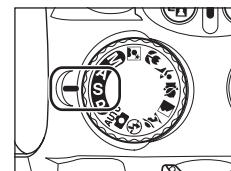
P：プログラムオートでの撮影方法

被写体の明るさに応じて、露出が適正になるようにカメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に設定します。シャッターチャンスを逃したくないスナップなど幅広い撮影に適しています。

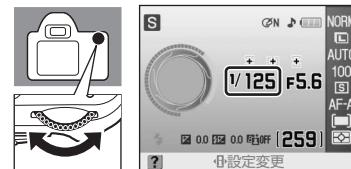
1 撮影モードダイヤルをPに合わせる

2 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

プログラムシフト

撮影モードPで撮影中にコマンドダイヤルを回すと、露出を一定にしたままシャッタースピードと絞りの組み合わせを変更できます。これを「プログラムシフト」といいます。プログラムシフト中はファインダー内下部と情報画面に P*（P*）マークが点灯します。

- 背景をぼかしたい（絞り値を小さく設定したい）場合や動きの速い被写体を撮影したい（速いシャッタースピードを設定したい）場合にはコマンドダイヤルを右に回してください。
- 近くから遠くまでピントの合った写真を撮影したい（絞り値を大きく設定したい）場合や被写体の動きを強調したい（遅いシャッタースピードを設定したい）場合にはコマンドダイヤルを左に回してください。

- プログラムシフトを解除するには、P*（P*）マークが消灯するまでコマンドダイヤルを回してください。電源をOFFにしたときや、他の撮影モードに切り換えたときも、プログラムシフトは解除されます。

S：シャッター優先オートでの撮影方法

シャッタースピードを自分で設定すると、露出が適正になるようにカメラが自動的に絞り値を設定します。動きの速い被写体の撮影や、遅いシャッタースピードで被写体の動きを強調する撮影に適しています（☞40）。

1 撮影モードダイヤルを**S**に合わせる

2 コマンドダイヤルを回して、シャッタースピードを設定する

- ファインダー内下部のシャッタースピード表示が変化します。設定したいシャッタースピード（1/4000秒〜30秒）に合わせてください。
- シャッタースピードは情報画面（⊕（i）ボタンを押して表示します）でも確認できます。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

手ブレを防ぐには

手ブレ（カメラを持つ手が動いて画像がブレること）を防ぐには、一般的にシャッタースピードを「1 ÷（装着しているレンズの焦点距離）」秒より高速側にします。たとえば300mmレンズの場合、シャッタースピードを1/300秒より高速にすると、手ブレをある程度まで防ぐことができます。このほか、次の方法でも手ブレを軽減できます。

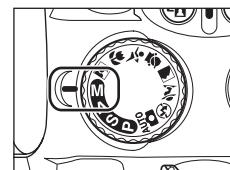
- ISO感度（☞53）を上げて、シャッタースピードを速くする
- 内蔵フラッシュ（☞64）や別売スピードライト（☞150）を使って、シャッタースピードを速くする
- 三脚を使う
- VR（手ブレ補正）レンズを使う（☞20）

A：絞り優先オートでの撮影方法

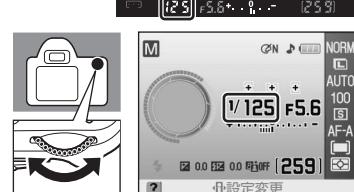
絞りを自分で設定すると、露出が適正になるようにカメラが自動的にシャッタースピードを設定します。絞りを絞り込む（絞り値を大きくする）ことで、近くから遠くまでピントの合った写真を撮影したり、絞りを開く（絞り値を小さくする）ことで、草花や人物の背景をぼかして撮影したりするなど、背景のぼかし方を調節して撮影する場合に適しています（40）。

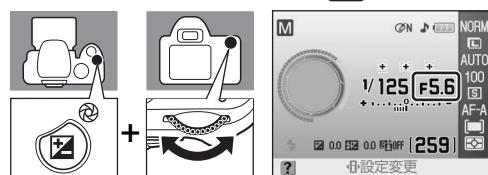
1 撮影モードダイヤルを**A**に合わせる

2 コマンドダイヤルを回して、絞り値を設定する

- ファインダー内下部の絞り値表示が変化します。設定したい絞り値に合わせてください。
- 設定できる最小絞りと開放絞りは、レンズによって異なります。
- 絞り値は情報画面（（））ボタンを押して表示します）でも確認できます。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

P、S、A、M モードで撮影する

M：マニュアル露出での撮影方法

シャッタースピードと絞りの両方を自分で決定します。花火や星空などを長時間露光（バルブ撮影、タイム撮影：☞46）で撮影する場合にもこの撮影モードを使います。

1 撮影モードダイヤルをMに合わせる

2 露出インジケーター（☞45）を確認しながら、シャッタースピードと絞り値を設定する

- コマンドダイヤルを回すと、ファインダー内下部のシャッタースピード表示が変化します。設定したいシャッタースピード（1/4000秒〜30秒またはBulb（ファインダー内はbuLb））に合わせてください。
- Bulbは、長時間露光撮影（☞46）に使います。

シャッタースピードの設定

- ☒（⊛）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ファインダー内下部の絞り値表示が変化します。設定したい絞り値に合わせてください。
- 設定できる開放絞りと最小絞りは、レンズによって異なります。
- 必要に応じてシャッタースピードと絞り値の設定を繰り返して、露出を調整してください。

絞り値の設定

- シャッタースピードと絞り値は情報画面（⊕（ⓘ）ボタンを押して表示します）でも確認できます。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

露出インジケーターについて

設定したシャッタースピードと絞り値の組み合わせによる露出値と、カメラが測光した露出値との差がファインダー内下部と情報画面に表示されます。この露出インジケーターの見方は次のとおりです。

表示	内容
+ . . 0 . . −	適正露出
+ . . 0 . . − （1/3段アンダー）	インジケーターが右に振れているときは画像が適正露出よりも暗いことを意味しています。
+ . . 0 . . − （2段以上オーバー）	インジケーターが左に振れているときは画像が適正露出よりも明るいことを意味しています。

- 被写体が明るすぎて、または暗すぎてカメラの測光範囲を超えた場合は、露出インジケーターが点滅します。
- 長時間露光撮影時（46）と非CPUレンズ使用時（146）は、露出インジケーターは表示されません。
- カスタムメニュー［10 感度自動制御］（111）が［する］の場合、シャッタースピードや絞り値を変更してもISO感度を自動で適正露出に制御するため、露出インジケーターが作動していないように見えることがあります。

長時間露光撮影の方法

長時間露光撮影には、バルブ撮影とタイム撮影の2種類があります。花火や夜景、天体写真の撮影や、自動車のライトの流れを表現したいときなどに使います。長時間露光撮影では、手ブレを抑えるために三脚や別売のリモコン ML-L3が必要です。

バルブ撮影

シャッターボタンを押し続けている間シャッターが開いたままになり、シャッターボタンをはなすとシャッターが閉じます。
バルブ撮影をするには、撮影モードMでシャッタースピードをBulb（ファインダー内表示はbulb）にしてください（44）。

タイム撮影

タイム撮影には、別売りのリモコン ML-L3が必要です。
シャッターボタンを押し続けずに、シャッターを最大30分開いたままにできます。操作方法は以下のとおりです。

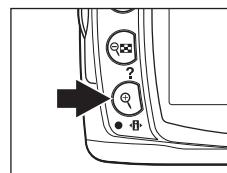
1 撮影モードMでシャッタースピードをBulb（ファインダー内表示はbulb）にする（44）
2 ［レリーズモード］（55）を［2秒リモコン］または［瞬時リモコン］にする
  - シャッタースピードの表示が Time（ファインダー内表示は - -）に変わります。
3 リモコンの送信ボタンを押す
  - 2 秒後または瞬時にシャッターが開きます。
4 もう一度リモコンの送信ボタン押してシャッターを閉じる
  - シャッターは、開いてから 30 分経つと自動的に閉じます。

シャッタースピード：35 **秒、絞り値**：f/25

- 露光時間が長くなると、画像にノイズが発生することがあります。このノイズを低減するには、撮影メニュー［ノイズ低減］（108）を［する］にしてから撮影してください。
- 長時間露光撮影では、撮影中のバッテリー切れを防ぐため、フル充電したバッテリーを使うか、別売のパワーコネクター EP-5とACアダプター EH-5aを組み合わせて（156）お使いになるようおすすめします。

撮影時の設定を変える

この章では、「撮影設定変更画面」を使って、撮影条件や撮影目的に合うように、カメラのいろいろな機能を設定、変更する方法を説明しています。撮影モードによって使用できない機能もありますのでご注意ください。

- この章で説明しているほとんどの機能は、撮影メニュー（100）やカスタムメニュー（109）からでも設定や変更が可能です。

撮影設定の基本操作

液晶モニターの表示を「撮影設定変更画面」にすると、撮影時の主な設定を変更できます。

「撮影設定変更画面」を表示するには、「情報画面」(8)が表示されているときに、(i)ボタンを押します。

- 液晶モニターは、(i)ボタンを押すたびに、「情報画面」→「撮影設定変更画面」→液晶モニター消灯→「情報画面」の順に切り換わります(8)。
- 画像を再生しているときは、▶ボタンを押して再生を終了してください。

操作手順

1 マルチセレクターの上(または右)、下(または左)を押して設定を変更したい項目を選ぶ

- 撮影モードなど、カメラの設定によっては選べない項目があります。

2 OK ボタンを押す

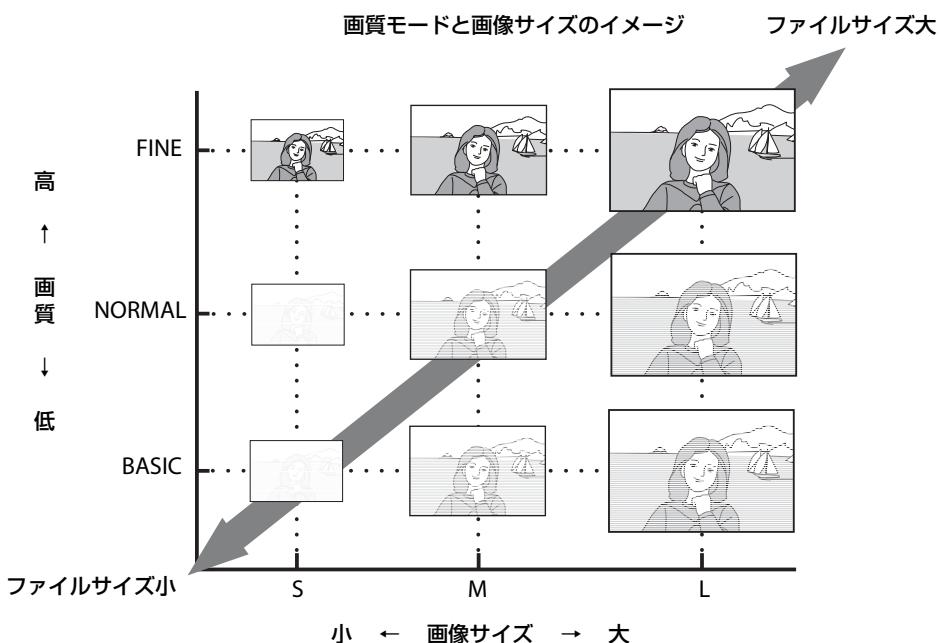
- 手順1で選んだ項目の設定変更画面に移ります。

3 マルチセレクターの上または下を押して設定内容を選ぶ

- 選択中の項目が黄色で強調表示されます。
- マルチセレクターの左を押すと手順 1 の画面に戻ります。
- (i)ボタンを押すと、決定せずに液晶モニターが消灯します。

撮影時の設定を変える

4 OK ボタンを押す

- 手順3で選んだ内容が有効になり、手順1の画面に戻ります。
- 他の項目も変更したいときは、手順1～4を繰り返してください。
- シャッターボタンを半押しするか、🔍（◀i▶）ボタンを押して設定を終了します。

画質や画像のサイズを変更する

SDカードに記録する画像の、画質（画像データの圧縮率）と画像サイズを変更できます。画像の用途や、SDカードの残量に合わせて設定してください。

一般的に、画質が高く、画像サイズが大きいほど、画像データのファイルサイズは大きくなります。より精細な画像を大きくプリントできますが、SDカードに記録できるコマ数は少なくなります。

画質モードと画像サイズのイメージ

ファイルサイズ大

高 ↑ 画質 ↓ 低

FINE

NORMAL

BASIC

ファイルサイズ小

S　M　L

小 ← 画像サイズ → 大

画質モードと画像サイズの撮影設定変更画面では、選択中の画質モードと画像サイズの組み合わせで撮影した場合の、1コマあたりの最大のファイルサイズと、記録できるおおよそのコマ数が表示されます。目安としてご覧ください。記録される平均的な1コマあたりのファイルサイズは、「画質モード・画像サイズと記録・連写可能コマ数」（178）を参照してください。

画質モード

撮影設定変更画面から［画質モード］を選んで設定します（操作手順：48）。

画質モードを次の中から選びます。

画質モード		ファイル形式	説明
RAW	高 ↑ 画質 ↓ 低	NEF	撮像素子の生データを圧縮して記録します。撮影後に画質の劣化を抑えて加工、補整するのに適しています。プリントするときは、画像編集メニューの［簡単レタッチ］（132）や［RAW現像］（140）などでRAW画像から作成したJPEG形式の画像を使うか、パソコンでRAW画像に対応したソフトウェアを使う必要があります。
FINE		JPEG	［NORMAL］よりも精細な画像になります。 画像データは約1/4に圧縮されます。
NORM（初期設定）			通常はこの画質モードで撮影します。 画像データは約1/8に圧縮されます。
BASIC			ファイルサイズが最も小さく、電子メールに添付する場合などに適しています。 画像データは約1/16に圧縮されます。
RAW+B（RAW+BASIC）		NEF+JPEG	RAWとBASICの、2種類の画像を同時に記録します。

画像サイズ

撮影設定変更画面から［画像サイズ］を選んで設定します（操作手順：48）。

画像サイズを次の中から選びます。プリントしたい大きさなどに合わせて設定してください。

画像サイズ		画像ファイルの大きさ	プリント時の大きさ（出力解像度200 dpiの場合）
L（初期設定）	大 ↑ サイズ ↓ 小	3872×2592ピクセル	約49.2×32.9 cm
M		2896×1944ピクセル	約36.8×24.7 cm
S		1936×1296ピクセル	約24.6×16.5 cm

- RAW画像の画像サイズは設定できません。
- RAW画像をパソコンで再生する場合、画像サイズは［L］になります。

画質モード［RAW］/［RAW+B（RAW+BASIC)］について

- 画質モード[RAW+B(RAW+BASIC)]で撮影した画像は、カメラでの再生時には、JPEG 画像(BASIC)だけが表示されます。JPEG 画像をカメラで削除すると、RAW 画像も同時に削除されますのでご注意ください。
- RAW画像をD60以外で再生するには、「RAW現像」を行う必要があります。
- 画像編集メニューの［RAW現像］（140）でRAW現像ができます。［RAW現像］で作成したJPEG画像を使うと、ダイレクトプリントやプリントサービス店でのプリントができます。
- パソコンに転送したRAW画像は、付属のソフトウェアViewNXや別売のCapture NX（156）を使うとRAW現像して再生できます。
- ViewNXは、付属のSoftware Suite CD-ROMでインストールできます。
- Capture NXは必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。お使いのパソコンをインターネットに接続していれば、ソフトウェアの起動時にニコンメッセージセンター（Nikon Message Center）が自動的に更新情報をチェックします。

ファイル名について

このカメラで撮影した画像には、DSC_nnnn.xxxという名前が付けられます。

ファイル名：nnnnには撮影順に、0001～9999の数字が入ります。

拡張子：画質モードによって異なります。
- RAWの場合：「NEF」
- FINE、NORMAL、BASICの場合：「JPG」
- 動画ファイル（99）の場合：「AVI」
- イメージダストオフデータ（127）の場合：「NDF」

- 画質モード［RAW+BASIC］で撮影した場合、同じファイル名で、拡張子が「NEF」(RAW画像)と「JPG」(BASIC画像）の2つのファイルが同時に作成されます。
- 画像編集メニューの［簡単レタッチ］(132)、[D-ライティング］(132)、[赤目補正］(133)、[トリミング］(134)、[モノトーン］(134)、[フィルター効果］(135)、[RAW現像］(140)で作成した画像のファイル名は「CSC_nnnn」、拡張子は「JPG」となります。
- 画像編集メニューの［スモールピクチャー］（136）で作成したスモールピクチャーのファイル名は「SSC_nnnn」、拡張子は「JPG」となります。
- 画像編集メニューの［ストップモーション作成］（141）で作成した動画ファイルのファイル名は「ASC_nnnn」、拡張子は「AVI」となります。
- 撮影メニューの［仕上がり設定］→［カスタマイズ］→［カラー設定］（102）を［モードⅡ(Adobe RGB)］にした場合は、ファイル名がそれぞれ「_DSCnnnn」、「_CSCnnnn」、「_SSCnnnn」となります。ただし、イメージダストオフデータは、カラー設定にかかわらず「DSC_nnnn」となります。

画質モード、画像サイズ

撮影メニュー（100）でも画質モードと画像サイズを設定できます。

11 ⏲/Fnボタンの機能（112）

コマンドダイヤルでも画質モードと画像サイズを設定できます。

ホワイトバランスを設定する

撮影設定変更画面から［ホワイトバランス］を選んで設定します（操作手順：48）。
光源に合わせて、画像が見た目に近い色で撮影することを「ホワイトバランスを合わせる」といいます。初期設定の［AUTO］（オート）でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、光源や天候に合わせてホワイトバランスを変更してください。ホワイトバランスは、撮影モードが**P**、**S**、**A**、**M**のときのみ、次の設定を選べます（撮影モードが、、、、、、、の場合、ホワイトバランスは常に［AUTO］になります）。

AUTO オート（初期設定）

カメラが自動的にホワイトバランスを調整します。ほとんどの場合、この設定のままで撮影できます。

電球

白熱電球の下での撮影に適しています。

蛍光灯

白色蛍光灯の下での撮影に適しています。撮影メニューの［ホワイトバランス］（103）で、さらに細かく蛍光灯の種類を設定できます。

晴天

晴天の屋外での撮影に適しています。

フラッシュ

内蔵フラッシュや別売スピードライトを使って撮影する場合に適しています。

曇天

曇り空の屋外での撮影に適しています。

晴天日陰

晴天の日陰での撮影に適しています。

PRE プリセットマニュアル

自分で選んだ被写体や光源を基準にホワイトバランスを合わせたり、すでに撮影した画像と同じホワイトバランスに合わせたりできます。「プリセットマニュアルを使う」（105）をご覧ください。

MENU ホワイトバランス（103）

撮影メニュー（100）でもホワイトバランスを設定できます。撮影メニューのホワイトバランスでは、蛍光灯の種類の変更や、ホワイトバランスの微調整ができます。

11 /Fnボタンの機能（112）

コマンドダイヤルでもホワイトバランスを設定できます。

ISO感度を設定する

撮影設定変更画面から［ISO感度］を選んで設定します（操作手順：48）。

暗い場所で撮影するときは、シャッタースピードが遅くなり手ブレしやすくなりますが、ISO感度を標準（ISO 100）よりも高くすれば、より速いシャッタースピードで撮影でき、手ブレしにくくなります。ISO感度はISO 100〜1600の間で、1段刻みで設定できます。また、ISO 1600から、さらに約1段感度を上げることもできます（Hi 1：ISO 3200相当）。

設定できるISO感度は、撮影モードによって次のように異なります。

撮影モード	設定できるISO感度
AUTO、、、、、、、	AUTO（オート、初期設定）、100〜1600、Hi 1
P、S、A、M	100（初期設定）〜1600、Hi 1

［AUTO］に設定すると、カメラが自動的に100〜1600の間でISO感度を決めます。

ISO感度［Hi 1］についてのご注意

［Hi 1］で撮影した画像には、ざらつき、色むら、色つきが発生しやすくなります。

ISO感度の設定について

撮影モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**からデジタルイメージプログラムに切り換えると、デジタルイメージプログラムのISO感度の設定は［AUTO］にリセットされます。

ISO感度の自動制御について

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**では、［カスタムメニュー］の［10 感度自動制御］（111）で、ISO感度の自動制御を設定できます。ただし、ISO感度の設定を［Hi 1］にしているときは、感度自動制御は行われません。

関連ページ

高感度撮影時のノイズを低減する → 撮影メニュー「ノイズ低減」（108）

ISO感度とは

フィルムカメラで使うフィルムのISO感度に相当します。一般的に、ISO感度を高くするほど、より高速のシャッタースピードで撮影できます（同じ被写体を同じ絞り値で撮影する場合）。このため、暗い場所での撮影や動いている被写体の撮影などに効果的ですが、撮影した画像が多少ざらつく場合があります。

ISO感度

撮影メニュー（100）でもISO感度を設定できます。

11 /Fnボタンの機能（112）

コマンドダイヤルでもISO感度を設定できます。

シャッターのきり方を選ぶ

レリーズモード

撮影設定変更画面から［レリーズモード］を選んで設定します（操作手順：48）。
シャッターのきり方を次の中から選びます。

S	単写（1コマ撮影）（初期設定）	
	シャッターボタンを押すたびに1コマずつ撮影します。	
連写	連写（連続撮影）	54
	シャッターボタンを押している間､約3コマ/秒（最高）※で連写します。	
10s	セルフタイマー	55
	シャッターボタンを押し込むとタイマーが作動し、約10秒後に撮影します。	
2s	2秒リモコン	55
	リモコンの送信ボタンを押すと、2秒後に撮影します。	
リモコン	瞬時リモコン	55
	リモコンの送信ボタンを押すと、すぐに撮影します。	

※ 連写（連続撮影）速度は、フォーカスモード［MF］、撮影モード**S**または**M**、1/250秒以上の高速シャッタースピードで、その他が初期設定のときの値です。

MENU 04 レリーズモード

カスタムメニュー（109）でもレリーズモードを設定できます。

11 /Fnボタンの機能（112）

初期設定では、/Fnボタンを押すだけでセルフタイマーを設定できます。カスタムメニュー［11 /Fnボタンの機能］を［レリーズモード設定］にすると、/Fnボタンを押しながらコマンドダイヤルを回せば、レリーズモードを変更できます。情報画面のレリーズモード表示を見ながら設定してください。

連写する

1 撮影設定変更画面で［レリーズモード］を選び（48）、（連写）に合わせる

2 撮影する

・シャッターボタンを押している間、連写します。

撮影時の設定を変える

連写について

フラッシュが発光する撮影条件では、レリーズモードを（連写）にしても、連写はできません。撮影モードを（発光禁止オート）にするか、フラッシュモードを変更する（65）など、フラッシュが発光しないようにすれば、連写できるようになります。

連写可能コマ数の表示

シャッターボタンを押している間、連写可能コマ数（連写速度を維持したまま続けて撮影できるコマ数）が、ファインダー内下部に表示されます。右図の場合、連写速度を維持したままで、あと最低11コマ続けて撮影できることを示しています。

- 連写時は、最大100コマまで連続撮影できます。ただし、[r 00] になると、連写速度が低下します。
- 表示される連写可能コマ数は、おおよその目安です。撮影条件によって増減することがあります。平均的な連写可能コマ数は、「画質モード・画像サイズと記録・連写可能コマ数」（178）を参照してください。

セルフタイマーやリモコンを使う

記念写真など、自分も一緒に写りたいときは、セルフタイマーや別売のリモコン（ML-L3）をお使いください。

1 三脚などでカメラを固定する

2 撮影設定変更画面で［レリーズモード］を選び（48）、設定したいレリーズモードに合わせる

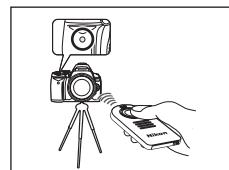
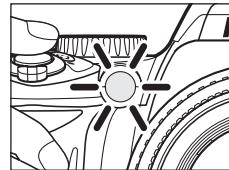
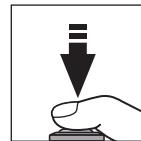
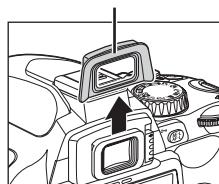
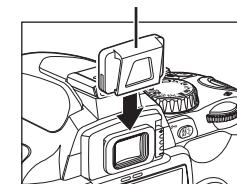
- 初期設定では、/Fnボタンを押すだけでセルフタイマーを設定できます（カスタムメニュー［11/Fnボタンの機能］：112）。

レリーズモード		内容
10s	セルフタイマー	ピントが合ってから10秒後にシャッターがきれます。セルフタイマーの時間は変更できます（114）。
2s	2秒リモコン	ピントが合うと、約2秒後にシャッターがきれます。
	瞬時リモコン	ピントが合うとすぐにシャッターがきれます。

3 構図を決める

- リモコン使用時にオートフォーカスでピントを合わせるときは、ここでカメラのシャッターボタンを押すとピントを合わせておけます（シャッターはきれません）。

4 撮影する

- **セルフタイマー撮影の場合**：シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてから、深く押し込んでください。
  タイマーが作動し、セルフタイマーランプ（AF補助光）が点滅します。撮影2秒前になると点灯に変わります。
  シャッターがきれると、レリーズモードは［単写］または［連写］に戻ります。

- **リモコン撮影の場合**：5 m以内の距離で、リモコンの送信部をカメラのリモコン受光部に向け、送信ボタンを押してください。
  2秒リモコンでは、ピントが合うとセルフタイマーランプが点滅し、約2秒後にシャッターがきれます。
  瞬時リモコンモードでは、ピントが合うとすぐにシャッターがきれ、セルフタイマーランプが点灯します。

アイピースキャップの使い方

カメラから離れて撮影するときは、アイピースキャップをファインダーに取り付けると、ファインダーから余計な光が入って露出が変わることを防ぎます。付属のアイピースキャップDK-5は、接眼目当て DK-20を取り外し、右図のように取り付けます。接眼目当てを取り外すときは、カメラをしっかりと支えてください。各種ファインダー用アクセサリー（155）をとりつけるときも、接眼目当て DK-20を取り外してください。

接眼目当て DK-20

作動中のセルフタイマーを解除するには

タイマー作動中に電源をOFFにすると、セルフタイマーは解除され、レリーズモードは［単写］または［連写］に戻ります。

関連ページ

リモコン撮影時に、カメラがリモコンからの信号を待ち受ける時間を変更する → カスタムメニュー「17 リモコン待機時間」（115）

ピントの合わせ方を選ぶ

オートフォーカスを使う（フォーカスモード）

撮影設定変更画面から［フォーカスモード］を選んで設定します（操作手順：48）。

フォーカスモード（ピントの合わせ方）を次の4種類から選べます。

AF-A　AFサーボモード自動切り換え（初期設定）

下記のAF-SとAF-Cをカメラが自動的に切り換えます。被写体が静止しているとカメラが判断したときはAF-S、動いているとカメラが判断したときはAF-Cになります。

AF-S　シングルAFサーボ※

静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合ったとカメラが判断した時点でフォーカスがロックされます。

AF-C　コンティニュアスAFサーボ※

動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、カメラは被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。

MF　マニュアルフォーカス

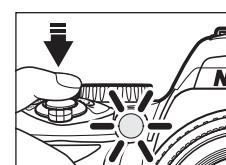
手動でピントを合わせます（61）。

※ 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で選べます。

［AF-C］コンティニュアスAFサーボについてのご注意

［AF-C］は、シャッターチャンスを逃さないために、［AF-S］よりもシャッターのきれるピントの範囲が広くなっています。このため、ファインダー内下部のピント表示●が点灯する前にシャッターがきれることがあります。［AF-A］に設定していて自動的に［AF-C］に切り換わった場合でも、同様の動作をします。

マニュアルフォーカスの設定について

どの撮影モードでフォーカスモードを［MF］（マニュアルフォーカス）に設定しても、すべての撮影モードでマニュアルフォーカスになります。

関連ページ

オートフォーカスの苦手な被写体（38）

AF補助光について

被写体が暗い場合などにシャッターボタンを半押しすると、ピント合わせのために、AF補助光が自動的に点灯します。ただし、フォーカスモードが［AF-C］または［MF］のとき、撮影モードがまたはのときや、中央以外のフォーカスポイントが選択されているとき、カスタムメニュー［09 内蔵AF補助光の照射］（111）が［OFF］のときは点灯しません。

- 使用できるAFレンズの焦点距離は24～200mm、AF補助光が届く距離の目安は約0.5～3 mです。
- AF補助光使用時は、レンズフードを取り外してください。

02 フォーカスモード

カスタムメニュー（109）でもフォーカスモードを切り換えられます。

撮影時の設定を変える

AFエリアモードを変える

撮影設定変更画面から［AFエリアモード］を選んで設定します（操作手順：48）。
このカメラには、3つのフォーカスポイント（ピント合わせを行う領域）があります。オートフォーカスを行うフォーカスポイントの選び方を、次の中から選びます。

至近優先ダイナミックAFモード

いちばん近くにある主要被写体をカメラが自動的に認識し、その被写体を含むフォーカスポイントを使ってピントを合わせます。
- 撮影モード 、、、、、、**P**、**S**、**A**、**M** の初期設定です。

ダイナミックAFモード

自分で選んだフォーカスポイント（59）から被写体が一時的に外れてしまった場合でも、他のフォーカスポイントを使って同じ被写体をとらえ続けます。不規則な動きをする被写体の撮影に効果的です。
- 撮影モード の初期設定です。

シングルポイントAFモード

フォーカスポイントを自分で選び（59）、そのポイントだけを使ってピントを合わせます。静止している被写体の撮影に適しています。
- 撮影モード の初期設定です。

撮影時の設定を変える

AFエリアモードのファインダー内表示について

設定したAFエリアモードは、ファインダー内下部で確認できます。AFエリアモードは、以下のように表示されます。

関連ページ

オートフォーカスの苦手な被写体（38）

AFエリアモードの設定について

- フォーカスモード（57）が［MF］（マニュアルフォーカス）のときは、AF エリアモードは設定できません。
- デジタルイメージプログラムで設定した AF エリアモードは、撮影モードダイヤルを切り換えるとリセットされます。

03 AFエリアモード

カスタムメニュー（109）でもAFエリアモードを切り換えられます。

フォーカスポイントを自分で選ぶ

構図を工夫して撮影したいときなどに、ピント合わせを行う領域（フォーカスポイント）を自分で選べます。

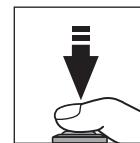
1 撮影設定変更画面で［AFエリアモード］を選ぶ（48）

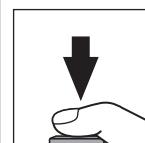
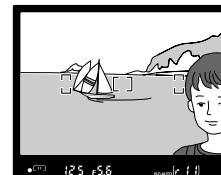
2 ［AFエリアモード］を[ ]（シングルポイントAFモード）か[ ]（ダイナミックAFモード）にする（58）

- 撮影モード AUTO、、、、、、**P**、**S**、**A**、**M**の初期設定は[ ]（至近優先ダイナミックAFモード）なので、設定の変更が必要です。

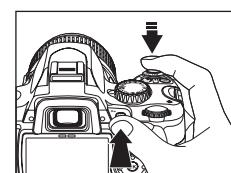
3 ファインダーを見ながらマルチセレクターの左または右を押してフォーカスポイントを選ぶ

- 選んだフォーカスポイントは、選択したときやシャッターボタンを半押ししたときに、ファインダー内で赤く表示されます。
- 選んだフォーカスポイントは情報画面やファインダー内下部にも表示されます。

撮影時の設定を変える

ピントを固定して撮影する（フォーカスロック撮影）

ピントを合わせたい被写体が3つのフォーカスポイントに入らないときは、次のようにピントを固定（フォーカスロック）して撮影します。
フォーカスロック撮影は、［AFエリアモード］（58）を[ ]（シングルポイントAFモード）か[·]（ダイナミックAFモード）に設定するようおすすめします。

1 ピントを合わせたい被写体に、フォーカスポイントを重ね、シャッターボタンを半押しする

- ピントが合うと、ファインダー内下部にピント表示●が点灯します。
- シャッターボタンを半押ししている間は、ピントが固定されます。これを「フォーカスロック」といいます。
- ピント合わせを行うフォーカスポイントを選べます（59）。

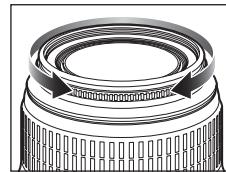
2 フォーカスロックしたままで構図を変え、シャッターボタンを深く押し込んで撮影する

- 被写体との距離は変えないでください。

AE-L/AF-L ボタンを使ったフォーカスロック撮影について

シャッターボタンの半押しを続ける代わりに、AE-L/AF-L ボタンでフォーカスをロックできます。
シャッターボタンを半押ししてピントが合った状態でAE-L/AF-L ボタンを押すと、ピントが固定されます。AE-L/AF-L ボタンを押し続けている間、フォーカスロックされます。

フォーカスロック撮影についてのご注意

撮影モードが（37）のとき、レリーズモード（54）が（連写）のとき、およびフォーカスモード（57）が［AF-C］（コンティニュアスAFサーボ）、または［AF-A］（AFサーボモード自動切り換え）に設定していて自動で［AF-C］に切り換わった場合は、シャッターボタンを使ってフォーカスをロックして撮影できません。AE-L/AF-L ボタンを使ってフォーカスロック撮影をしてください。

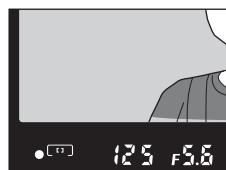
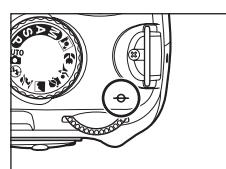
ピントを固定したまま続けて撮影したいときは

- シャッターボタンの半押しでフォーカスロックしたときは、シャッターをきった後、シャッターボタンを半押しの状態に戻し、そのままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。
- AE-L/AF-L ボタンでフォーカスロックしたときは、AE-L/AF-L ボタンを押したままもう一度シャッターボタンを押し込んでください。

12 AE-L/AF-Lボタンの機能（113）

AE-L/AF-L ボタンの機能を変更できます。

ピントを手動（マニュアル）で合わせる

ピントを手動（マニュアル）で合わせたいときや、オートフォーカスではピントが合わないとき、またはオートフォーカスを使用できない場合は、マニュアルでピント合わせができます。

- 撮影設定変更画面で［フォーカスモード］を選び（48）、MF（マニュアルフォーカス）にしてください（57）。
- A-M切り換え方式のレンズを取り付けたときは、レンズ側の設定もMにしてください。M/A（マニュアル優先オートフォーカス）モード機能付きのレンズを取り付けたときは、レンズ側はM/AまたはMのどちらの設定でもマニュアルフォーカスができます。詳しくはレンズの使用説明書をご覧ください。
- ピントは、レンズのフォーカスリングを回して、ファインダー内のメインの被写体が鮮明に見えるように合わせます。

フォーカスエイド

開放絞り値がf/5.6以上の明るいレンズ（絞りの最も小さい数値がf/5.6以下のレンズ）を使ってマニュアルフォーカスで撮影するときは、ファインダー内下部のピント表示●でピントが合っているかどうかを確認できます。

- ピントが合うとピント表示●が点灯します。
- カスタムメニューの［19 フォーカスエイドインジケーター］（116）でマニュアルフォーカス時のピント合わせを助けるインジケーターを表示させる事ができます。

- オートフォーカスの苦手な被写体（38）では、ピントが合っていなくてもピント表示●が点灯することがあります。ファインダースクリーンの像でピントが合っていることを確認してください。

距離基準マーク

距離基準マーク⊖は撮影距離の基準となるマークで、カメラ内の撮像面の位置を示します。マニュアルフォーカスや接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。レンズマウント（レンズ取り付け面）から撮像面までの寸法（フランジバック）は46.5 mmです。

02 フォーカスモード

カスタムメニュー（109）でもフォーカスモードを切り換えられます。

測光方式を変更する

測光モード

撮影設定変更画面から［測光モード］を選んで設定します（操作手順：48）。

カメラが被写体の明るさを測る方式を設定します。測光方式は、撮影モードがP、S、A、Mのときのみ、測光モードで次の設定を選べます（撮影モードが、、、、、、、の場合、測光モードは常にマルチパターン測光になります）。

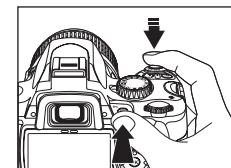
マルチパターン測光（初期設定）	ほとんどの撮影状況に対応できる測光モードです。画面の広い領域を測光して、被写体の輝度（明るさ）分布、色、距離や構図など様々な情報を瞬時に分析するため、見た目に近い画像が得られます。
中央部重点測光	画面の中央部分を重点的に測光します。画面中央にメインの被写体を大きく配置して撮影する場合などに適しています。
スポット測光	フォーカスポイントに重なる部分だけを測光します。逆光時や被写体の明暗差が激しいときなど、狭い範囲の露出を基準にして撮影したい場合に適しています。 ・測光エリアは、フォーカスポイントに連動します。 ・［AF エリアモード］（58）が（至近優先ダイナミック AF モード）のときは、中央のフォーカスポイントに相当する部分を測光します。

測光方式について

- 非CPUレンズをお使いの場合は、測光できません。測光モードも選べません。
- このカメラは、420分割RGBセンサーを搭載しています。
- マルチパターン測光のときは、GタイプまたはDタイプレンズ使用時に、このセンサーから得られる様々な情報を最大限に利用できる「3D-RGBマルチパターン測光Ⅱ」という測光方式になります。その他のCPUレンズ使用時は、距離情報を考慮しない「RGBマルチパターン測光Ⅱ」という測光方式になります。

05 測光モード

カスタムメニュー（109）でも測光モードを切り換えられます。

AEロック撮影

AEロック撮影とは、被写体の特定の部分を測光して露出を決め、そのまま構図を変えて撮影する方法です。露出を合わせたい部分とその周囲とで、極端に明るさが異なる場合などに効果的です。撮影モード**P**、**S**、**A**で使えます。

1 撮影モード**P**、**S**、**A**のいずれかで、［測光モード］を［•］（スポット測光）または［◉］（中央部重点測光）にする

- ［◙］（マルチパターン測光）は充分なAEロックの効果が期待できないため、おすすめできません。

2 露出を合わせたい部分にフォーカスポイントを重ねて、シャッターボタンを半押ししたままAE-L/AF-Lボタンを押す

- 露出が固定（ロック）されます。
- AE-L/AF-Lボタンを押している間は、選んだフォーカスポイント内（［•］（スポット測光）の場合）、またはファインダー中央部（［◉］（中央部重点測光）の場合）を測光して得られた露出でロックされます。そのまま構図を変えても露出は変わりません。
- ファインダー内下部にAEロック表示（EL）が点灯します。
- オートフォーカス撮影時はピントも同時にロックされるので、ピント表示●の点灯もご確認ください。

3 AE-L/AF-Lボタンを押したまま、構図を決めて撮影する

シャッタースピードと絞り値の変更

AEロックしている間もコマンドダイヤルで以下の操作ができます。

撮影モードP	プログラムシフト（⊠41）
撮影モードS	シャッタースピードの変更
撮影モードA	絞り値の変更

AEロックをしている間は、測光モードを変更できません。

12 AE-L/AF-Lボタンの機能（⊠113）

AE-L/AF-Lボタンの機能を変更できます。

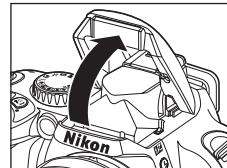
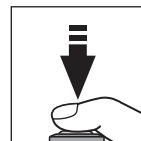
13 半押しAEロック（⊠113）

シャッターボタンでAEロックできます。

撮影時の設定を変える

内蔵フラッシュを使う

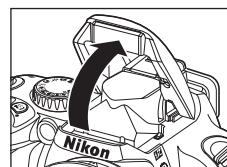
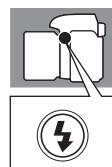
内蔵フラッシュを使って撮影できます。撮影モード、、では、内蔵フラッシュは発光しません。フラッシュモードも変更できません。

撮影モードAUTO、、、、で内蔵フラッシュを使う

1 撮影モードダイヤルで撮影モード（AUTO、、、または）を選ぶ

2 フラッシュモードを確認または変更する（65）

- フラッシュを発光させたくないときは、発光禁止に設定してください。

3 構図を決めて、シャッターボタンを半押しする

- 被写体が暗い場合など、必要に応じて自動的に内蔵フラッシュが上がります。
- 内蔵フラッシュが上がった後も、フラッシュモードを変更できます。
- シャッターボタンを深く押し込んで撮影してください。

4 フラッシュ撮影が終わったら、内蔵フラッシュを収納する

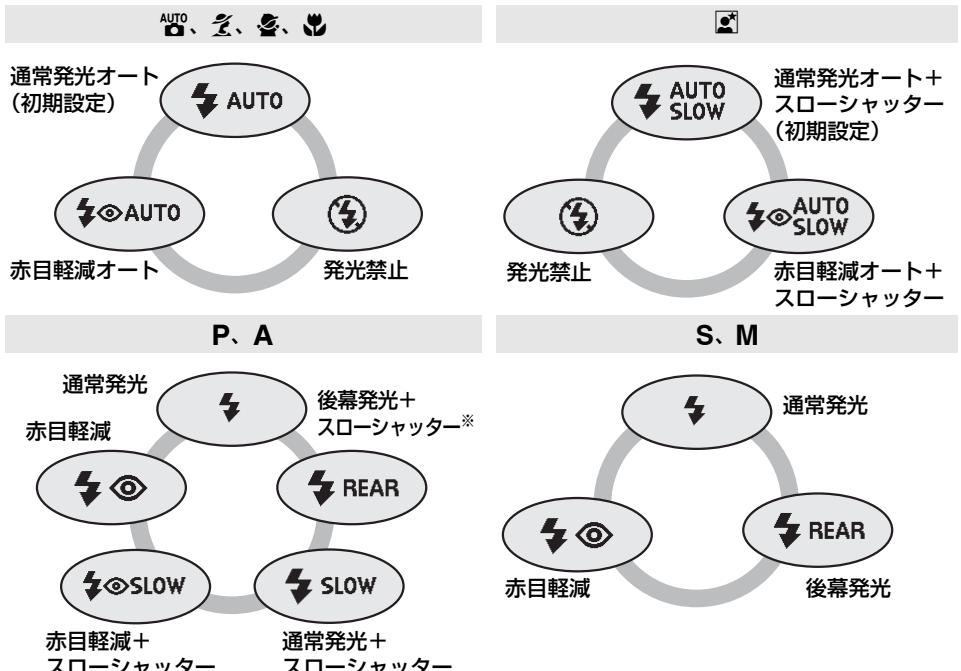
撮影モードP、S、A、Mで内蔵フラッシュを使う

1 撮影モードダイヤルで撮影モード（P、S、AまたはM）を選ぶ

2 ボタンを押して、内蔵フラッシュを上げる

- 内蔵フラッシュを上げると、周囲の明るさなどにかかわらず、フラッシュは常に発光します。発光させたくないときは、内蔵フラッシュを収納してください。

3 フラッシュモードを確認または変更する（65）

4 測光モード（62）や露出を設定し、構図を決めて撮影する

内蔵フラッシュの収納

内蔵フラッシュを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げてください。バッテリーの消耗を防ぐため、フラッシュを使わないときは収納してください。

フラッシュモードを変更する

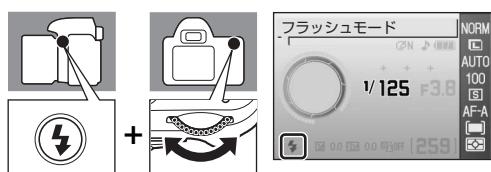
撮影設定変更画面から［フラッシュモード］を選んで設定します（操作手順：48）。

撮影状況に合わせて、フラッシュの発光方式（フラッシュモード）を変更できます。設定できるフラッシュモードは、撮影モードによって異なります。
フラッシュモードは撮影モードによって次のように異なります。

AUTO、、、
- AUTO 通常発光オート（初期設定）
- AUTO 赤目軽減オート
- 発光禁止

****
- AUTO SLOW 通常発光オート＋スローシャッター（初期設定）
- AUTO SLOW 赤目軽減オート＋スローシャッター
- 発光禁止

P、A
- 通常発光
- REAR 後幕発光＋スローシャッター※
- SLOW 通常発光＋スローシャッター
- SLOW 赤目軽減＋スローシャッター
- 赤目軽減

S、M
- 通常発光
- REAR 後幕発光
- 赤目軽減

※ フラッシュモードの設定操作中は、SLOWの文字は表示されません。

フラッシュモードの用語には、それぞれ以下のような意味があります。

- AUTO（オート）：暗いときや逆光のときに、必要に応じて自動的に内蔵フラッシュが上がって発光します。
- （赤目軽減）：フラッシュが発光する前に、AF 補助光ランプが点灯して、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します。人物撮影に適しています。
- SLOW（スローシャッター）：背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードが遅くなります。夜景をバックにした人物撮影などに適しています。
- REAR（後幕発光）：シャッターが閉じる直前にフラッシュが発光します。動いている被写体の後方に流れる光などを表現したい場合などに適しています。この表示が無いフラッシュモードでは、シャッターが開いた直後にフラッシュが発光します。

コマンドダイヤルでの設定方法

フラッシュモードは、ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回しても変更できます。情報画面のフラッシュモード表示を見ながら設定してください。撮影モードP、S、A、Mでは、ボタンを押すと内蔵フラッシュが上がるので、ボタンを押し直してコマンドダイヤルを回してください。

内蔵フラッシュについて

- 内蔵フラッシュを使って撮影するときは、被写体から60 cm 以上離れてください。
- 内蔵フラッシュ撮影が可能なレンズは、焦点距離が18～300mm のCPUレンズと、焦点距離が18 ～200mm の非CPU レンズです。レンズによって、焦点距離や撮影距離に制限があります。詳しくは「使用できるアクセサリー」（149）をご覧ください。フラッシュの光がさえぎられることがあるので、レンズフードは外してください。また、マクロ付きズームレンズのマクロ領域ではお使いになれません。
- 内蔵フラッシュ撮影時は、連写（54）に設定しても、連写はできません。
- 内蔵フラッシュを連続して使うと、発光部を保護するため、一時的に発光が制限され、シャッターがきれなくなる場合があります。少し時間をおくと再び使えるようになります。
- 外付けフラッシュ（スピードライト）については装着できるスピードライト（150）をご覧ください。
- 撮影モードが **P**、**S**、**A**、**M** のときは、［フラッシュ調光補正］（68）で発光量を微調整できます。また、カスタムメニュー［14 内蔵フラッシュ発光］（113）で、内蔵フラッシュの発光量をマニュアル設定できます。

フラッシュモードの設定について

デジタルイメージプログラムで設定したフラッシュモードは、電源をOFFにしたり撮影モードダイヤルを切り換えたりすると初期設定にリセットされます。

後幕発光とは

通常発光時はシャッターが開くと同時にフラッシュが発光します（先幕発光）。後幕発光ではシャッターが閉じる直前にフラッシュが発光するため、動いている被写体の後方に流れる光や軌跡などを表現したい場合などに適しています。

先幕発光

後幕発光

関連ページ

- 「感度自動制御について」（112）
- カスタムメニュー［14 内蔵フラッシュ発光/外付けフラッシュ発光］（113）

露出を補正する

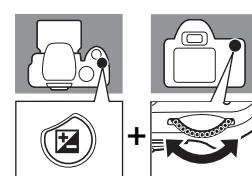
撮影設定変更画面から［露出補正量］を選んで設定します（操作手順：☞48）。

カメラが制御する適正露出値を意図的に変えることを露出補正といいます。画像全体を明るくしたり、暗くしたいときなどに使います。露出補正は、撮影モード**P**、**S**、**A**で使えます。露出を補正するときは、［測光モード］（☞62）を（中央部重点測光）または（スポット測光）にすると効果的です。

- 露出補正値は、1/3 段ステップで± 5 段の範囲で設定できます。被写体を明るくしたい場合は＋側に、暗くしたい場合は－側に補正するのが基本です。
- 設定した補正値は、情報画面で確認できます。
- 露出補正を解除するには、補正値を0.0にしてください。電源をOFFにしても、補正値の設定は解除されません。

－ 1 段補正

露出補正無し

＋ 1 段補正

撮影モードMでの露出補正

露出補正が設定されていても、撮影モード**M**では、手動で設定したシャッタースピードと絞り値で撮影されます。
撮影モード**M**では、露出補正値を0.0以外に設定すると、露出インジケーターの基準値が変わります。

コマンドダイヤルでの設定方法

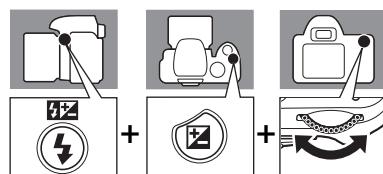
露出補正は、ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回しても設定できます（撮影モード**P**、**S**、**A**のみ）。ファインダー内下部または情報画面の露出補正インジケーターや露出補正値を見ながら設定してください。

－ 0.3 段補正

＋ 2 段補正

フラッシュの発光量を補正する（フラッシュ調光補正）

撮影設定変更画面から［フラッシュ調光補正］を選んで設定します（操作手順：48）。

フラッシュの発光量を補正できます。発光量を多くしてメインの被写体をより明るく照らしたり、発光量を少なくして被写体に光が強く当たりすぎないようにするなど、背景に対する被写体の明るさを調整したいときなどに使います。フラッシュ調光補正は、撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で使えます。

- 調光補正値は、1/3段ステップで＋1段〜－3段の範囲で設定できます。被写体を明るくしたい場合は＋側に、暗くしたい場合は－側に補正するのが基本です。
- 設定した補正値は、情報画面で確認できます。

- 調光補正を解除するには、補正値を0.0にしてください。電源をOFFにしても、補正値の設定は解除されません。
- 別売のスピードライト SB-400、SB-800、SB-600（150）または、ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800（150）をカメラに装着している場合は、スピードライトの発光量を補正します。

コマンドダイヤルでの設定方法

フラッシュの調光補正は、（）ボタンとボタンを同時に押しながらコマンドダイヤルを回しても設定できます。ファインダー内下部または情報画面の調光補正値を見ながら設定してください。

－ 3 段補正

＋ 0.7 段補正

08 フラッシュ調光補正

カスタムメニュー（109）でも調光補正を行えます。

アクティブD-ライティングを使う

撮影設定変更画面から［アクティブD-ライティング］を選んで設定します（操作手順：☞48）。

撮影の前に、あらかじめ［アクティブD-ライティング］を［ON］にしておくと、被写体に応じてカメラが自動でアクティブD-ライティングを行います。

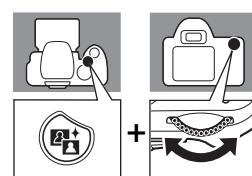
アクティブD-ライティングを行うとハイライトの白とびを抑え、暗部の黒つぶれを軽減する効果があります。見た目のコントラストに近い画像に仕上がります。暗い室内から外の風景を撮影したり、直射日光の強い海辺など明暗差の激しい景色を撮影したりするのに効果的です。

OFF

ON

アクティブD-ライティングについて

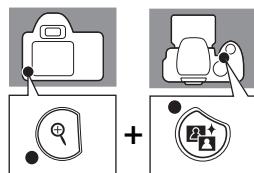
- アクティブD-ライティングで撮影すると、記録に時間がかかります。
- アクティブ D- ライティングを［ON］にすると、カメラが被写体の状況を判断して処理をします。露出をアンダー側に制御して撮影し、階調が適切な明るさになるように、ハイライト部やシャドー部、中間調を再調整して記録します。

アクティブD-ライティング設定時の測光モードについて

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で、アクティブD-ライティングを使って撮影するときは、測光モード（☞62）を［マルチパターン測光］（初期設定）にしてください。

［アクティブD-ライティング］と［D-ライティング］の違い

［アクティブD-ライティング］は、撮影前に階調が適切に調整できるようにアンダー側に露出を制御して撮影します。一方、画像編集メニューの［D-ライティング］（☞132）は、撮影した画像に対して階調を適切に再調整します。

コマンドダイヤルでの設定方法

アクティブD-ライティングは、ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回しても設定できます。ファインダー内下部または情報画面のアクティブD-ライティング表示を見ながら設定してください。

アクティブD-ライティング

撮影メニュー（☞100）でもアクティブD-ライティングを設定できます。

ON

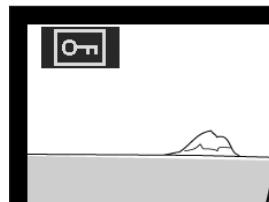
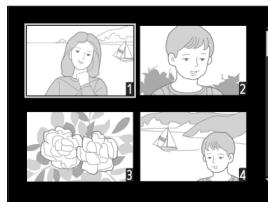
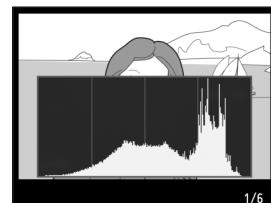
OFF

最初の設定に戻す（ツーボタンリセット）

撮影設定変更画面で変更できる設定とプログラムシフトを初期状態に戻せます。🔍ボタンと[撮影設定変更]ボタン（それぞれのボタンに緑色の●印が付いています）を同時に約2秒間押すと、液晶モニターがいったん消灯してから再点灯し、以下の撮影機能が初期設定状態に戻ります。

項目	初期設定
画質モード（📖50）	NORMAL
画像サイズ（📖50）	サイズL
ホワイトバランス※（📖52）	オート
ISO感度（📖53）	
[オート]、[発光禁止オート]、[ポートレート]、[風景]、[こどもスナップ]、[スポーツ]、[クローズアップ]、[夜景ポートレート]	AUTO（オート）
P、S、A、M	100
レリーズモード（📖54）	単写
フォーカスモード（📖57）	AF-A（AFサーボモード自動切り換え）
AFエリアモード（📖58）	
[オート]、[発光禁止オート]、[ポートレート]、[風景]、[こどもスナップ]、[夜景ポートレート]、P、S、A、M	至近優先ダイナミックAFモード
[スポーツ]	ダイナミックAFモード
[クローズアップ]	シングルポイントAFモード

項目	初期設定
測光モード（📖62）	マルチパターン測光
フラッシュモード（📖64）	
[オート]、[ポートレート]、[こどもスナップ]、[クローズアップ]	通常発光オート
[夜景ポートレート]	通常発光オート＋スローシャッター
P、S、A、M	通常発光
露出補正量（📖67）	OFF（0.0）
フラッシュ調光補正（📖68）	OFF（0.0）
アクティブD-ライティング（📖69）	OFF
プログラムシフト（📖41）	（解除）

※ 撮影メニューのホワイトバランス（📖103）で設定した微調整値も0になり、蛍光灯も白色蛍光灯にリセットされます。

初期設定について

「付録」の「初期設定一覧」（📖176）もご覧ください。

いろいろな再生

この章では、撮影した画像をカメラの液晶モニターで再生するいろいろな方法と、撮影画像を保護するプロテクト設定について説明しています。

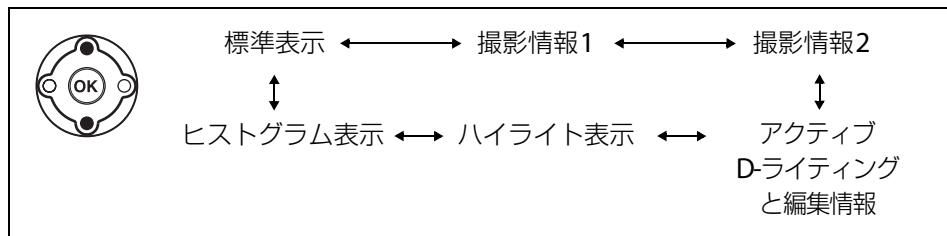
再生中の画像は、「画像編集メニュー」（129）を使って編集し、別の画像として保存できます。複数の画像を組み合わせて動画ファイルを作って再生したり、画像の色調を変えたりして楽しめます。

画像を1コマずつ再生する

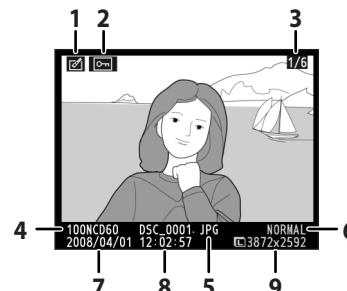
1コマ表示

▶ボタンを押すと、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。

- 縦位置で撮影された画像は、右のように縦位置で再生されます。

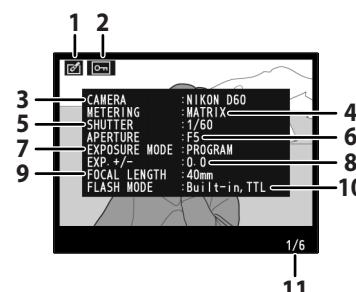
1コマ表示では次の操作ができます。

機能	ボタン	内容
前後の画像を見る	マルチセレクター または コマンドダイヤル	マルチセレクターの左を押す（またはコマンドダイヤルを左に回す）と前の画像を、右を押す（またはコマンドダイヤルを右に回す）と次の画像を表示します。
画像情報の表示	マルチセレクター上下	表示中の画像についての詳しい情報を表示します（73）。
画像を拡大する	拡大ボタン	表示中の画像を拡大表示します（77）。
画像を削除する	削除ボタン	表示中の画像を削除します（34）。
画像を保護する	AE-L AF-L（O-n）	表示中の画像にプロテクト（保護）を設定します（78）。
複数画像を一覧表示する	サムネイルボタン	サムネイル表示（76）に切り換えます。
画像編集メニューを表示する	OK	画像編集メニュー（129）を表示します。 （［ストップモーション作成］（141）で作成した動画のときは、OKボタンを押すと動画再生を開始します。ストップモーション再生中の操作は、「ストップモーション再生」（99）と同じです。）
撮影に戻る	シャッターボタン半押し または ▶	撮影モードに戻ります。
メニューに移る	MENU	メニュー（93）を表示します。

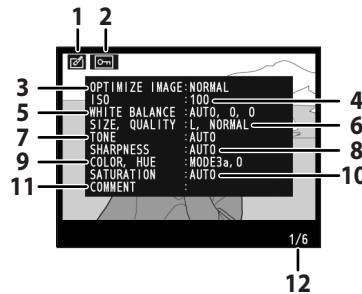
関連ページ

- 縦位置で撮影した画像を横位置で表示するかどうかを設定する→再生メニュー［縦位置自動回転］（98）/セットアップメニュー［縦横位置情報の記録］（128）
- 撮影後の画像を自動表示するかどうかを設定する→カスタムメニュー［07 撮影直後の画像確認］（111）
- バッテリーの消耗を抑えるために、液晶モニターが自動消灯するまでの時間を変更する→カスタムメニュー［15 パワーオフ時間］（114）

画像情報の表示を切り換える

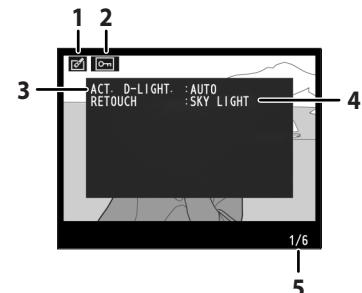
1コマ表示でマルチセレクターの上または下を押すと、次のように表示内容が切り換わり、画像についての詳しい情報を見ることができます。

標準表示 ⟷ 撮影情報1 ⟷ 撮影情報2
↕ 標準表示 ⟷ ヒストグラム表示
↕ 撮影情報2 ⟷ アクティブD-ライティングと編集情報
ヒストグラム表示 ⟷ ハイライト表示 ⟷ アクティブD-ライティングと編集情報

標準表示

撮影情報1

撮影時の各種設定情報を表示します。

撮影情報2

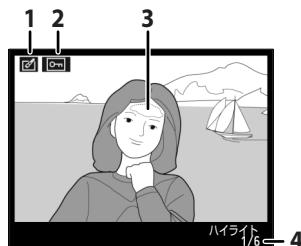
撮影時の各種設定情報を表示します。

1	画像編集の有無	129
2	プロテクト設定の有無	78
3	仕上がり設定	101
4	ISO感度※1	53
5	ホワイトバランス	52、103
	ホワイトバランス微調整	104
6	画像サイズ	50
	画質モード	50
7	階調補正	102
8	輪郭強調	102
9	カラー設定、色合い調整	102
10	彩度設定	102
11	画像コメント※2	124
12	画像の番号/全画像数	

※1 カスタムメニュー［10 感度自動制御］（☒111）が［する］の場合、撮影時にISO感度が自動的に変更されたときは、赤字で表示されます。

※2 36文字まで登録できますが、撮影情報には最初の15文字だけが表示されます。

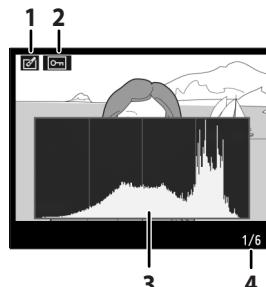
アクティブD-ライティングと編集情報

アクティブD-ライティングの設定と、画像編集の内容を表示します。

1	画像編集の有無	129
2	プロテクト設定の有無	78
3	アクティブD-ライティング※	69
4	画像編集メニュー（☒129）で行った画像編集の内容が一覧表示されます。複数の画像編集が行われた場合は順番に表示されます。	
5	画像の番号/全画像数	

※ アクティブD-ライティングを［ON］にして撮影した場合は、AUTOと表示されます。

いろいろな再生

ハイライト表示

画像の中の非常に明るい部分（ハイライト部分）を点滅表示します。露出補正などで画像の明るさを調整する際の目安になります。

1	画像編集の有無 129
2	プロテクト設定の有無 78
3	画像のハイライト部分が点滅表示されます。
4	画像の番号/全画像数

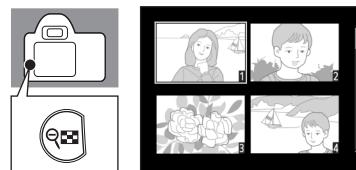
ヒストグラム表示

画像の明るさ（輝度）の分布を表すグラフ（ヒストグラム）を表示します※。横軸は画像の明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を示しています。

1	画像編集の有無 129
2	プロテクト設定の有無 78
3	画像のヒストグラム
4	画像の番号/全画像数

ヒストグラムの見方は次の通りです。

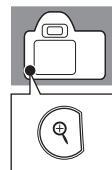
- いろいろな明るさの被写体が写っている画像では、グラフの山が全体的に分布したヒストグラムになります。

- 暗い画像はヒストグラムの分布が左側に寄った形になります。
- 明るい画像はヒストグラムの分布が右側に寄った形になります。

露出補正を＋側にすれば山が右側に寄り、－側にすれば山が左側に寄ります。
屋外などで周りが明るすぎて液晶モニターでは画像の明るさが確認しにくいときでも、ヒストグラムから画像全体の露出傾向を確認できます。

※ D60 のヒストグラム表示は、画像加工アプリケーションで表示されるヒストグラムとは異なることがあります。目安としてお使いください。

いろいろな再生

複数の画像を一覧表示する（サムネイル表示）

再生モードの1コマ表示（72）でボタンを押すと、画像を一覧できる「サムネイル表示」になります。

サムネイル表示では次の操作ができます。

機能	ボタン	内容
表示コマ数を増やす		ボタンを押すと、4コマ表示→9コマ表示になります。
表示コマ数を減らす		ボタンを押すと、9コマ表示→4コマ表示→1コマ表示になります。
1コマ表示に戻す	OK	1コマ表示に戻ります。
画像を選ぶ	または	拡大表示（77）や削除（34）、プロテクト（78）などの対象となる画像を選ぶときに使います。選んだ画像を黄色の枠で表示します。
画像を削除する		選択中の画像を削除します（34）。
画像を保護する	AE-L AF-L（）	選択中の画像にプロテクト（保護）を設定します（78）。
撮影に戻る	または	撮影モードに戻ります。
メニューに移る	MENU	メニュー（93）を表示します。

拡大表示する

再生モードの1コマ表示（☞72）で⊕ボタンを押すと、表示中の画像を拡大表示できます。

拡大できる最大の大きさ（長さ比）は、画像サイズが［L］の場合は約25倍、［M］では約19倍、［S］では約13倍です。

<table>
<tr><th>機能</th><th>ボタン</th><th colspan="2">内容</th></tr>
<tr><td>拡大率を上げる</td><td>⊕</td><td>ボタンを押すたびに、拡大率が上がります。</td><td rowspan="3">拡大表示にすると、画面の右下に画像全体を縮小表示し、拡大表示中の部分を黄色い枠で表示します。数秒すると消えますが、⊕、⊖ボタンまたはマルチセレクターを操作すると表示されます。</td></tr>
<tr><td>拡大率を下げる</td><td>⊖</td><td>ボタンを押すたびに、拡大率が下がります。</td></tr>
<tr><td>画面をスクロール（移動）させる</td><td>マルチセレクター</td><td>画面をスクロールさせて、見たい部分に移動できます。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。</td></tr>
<tr><td>前後の画像を見る</td><td>コマンドダイヤル</td><td colspan="2">コマンドダイヤルを回すと、そのままの拡大率と表示範囲で、前後の画像を表示します。</td></tr>
<tr><td>拡大表示をやめる</td><td>OK</td><td colspan="2">拡大表示をやめ、1コマ表示に戻ります。</td></tr>
<tr><td>画像を削除する</td><td>🗑</td><td colspan="2">表示中の画像を削除します（☞34）。</td></tr>
<tr><td>画像を保護する</td><td>AE-L AF-L（O-n）</td><td colspan="2">表示中の画像にプロテクト（保護）を設定します（☞78）。</td></tr>
<tr><td>撮影に戻る</td><td>シャッターボタン または ▶</td><td colspan="2">撮影モードに戻ります。</td></tr>
<tr><td>メニューに移る</td><td>MENU</td><td colspan="2">メニュー（☞93）を表示します。</td></tr>
</table>

画像を保護する（プロテクト設定）

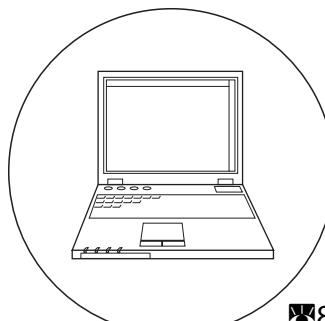
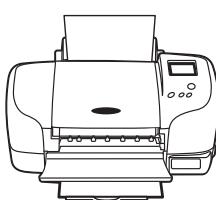
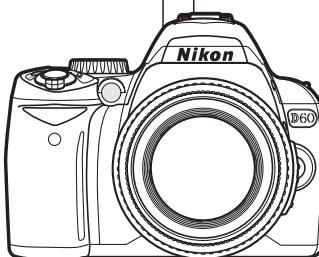
大切な画像を誤って削除してしまうことを防ぐために、画像にプロテクト（保護）を設定できます。プロテクトを設定した画像は、削除ボタンや再生メニューの［削除］では削除できなくなります。

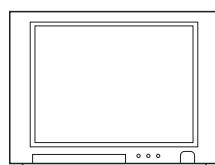
ただし、SDカードを初期化（フォーマット：24）すると、プロテクトを設定した画像も削除されるので、ご注意ください。

1 プロテクトしたい画像を選ぶ

- 再生モードの1コマ表示で、プロテクトしたい画像を液晶モニターに表示するか、サムネイル表示で、プロテクトしたい画像をマルチセレクターで選んでください。

2 AE-L AF-L（O-n）ボタンを押す

- 画像にプロテクトアイコン O-n が表示され、プロテクトが有効になります。
- もう一度 AE-L AF-L（O-n）ボタンを押すと、O-n アイコンが消え、プロテクトが解除されます。

プロテクト画像のファイル属性

プロテクトを設定した画像は、DOSファイルフォーマットの「読み取り専用」属性になります。

パソコンやプリンター、テレビに接続する

付属のUSBケーブルや別売のビデオケーブルを使用して、カメラをパソコンやプリンター、テレビなどの外部機器に接続し、撮影した画像をパソコンに転送して再生、編集したり、プリントにして鑑賞したり、テレビに映して家族で楽しむことなどができます。

80
84
92

パソコンに接続する

付属のUSBケーブルでカメラをパソコンに接続すると、ソフトウェア「Nikon Transfer」を使って、撮影した画像をパソコンに転送して保存できます。

カメラとパソコンを接続する前に

ソフトウェアをインストールする

カメラとパソコンを接続する前に、付属のSoftware Suite CD-ROMを使って、パソコンに「Nikon Transfer」やパソコンに転送した画像を表示する「ViewNX」などのソフトウェアをインストールします。ソフトウェアのインストール方法は、簡単操作ガイドをご覧ください。

カメラを接続できるパソコンのOS

Windows

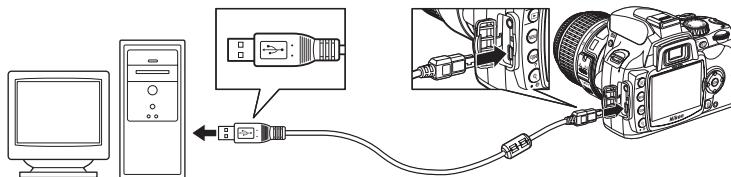
32 bit版のWindows Vista（Home Basic/Home Premium/Business/Enterprise/Ultimate）、Windows XP Service Pack 2（Home Edition/Professional）

- Windows 2000 Professionalをお使いの方は、カードリーダーなどの機器を使って、SDカードの画像をパソコンに転送してください（82）。

Macintosh

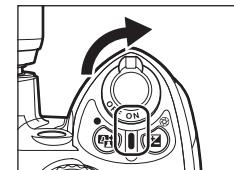
Mac OS X（version 10.3.9、10.4.10）

対応OSに関する最新情報は、当社ホームページのサポート情報でご確認ください。

電源についてのご注意

パソコンと接続するときは、途中で電源が切れないように、充分に残量のあるバッテリーをお使いください。別売のパワーコネクター EP-5とACアダプター EH-5a（156）を使用すると、家庭用コンセント（AC 100V）からD60へ電源を供給できます。

USBケーブルで接続する

1 パソコンを起動する

2 カメラの電源をOFFにする

3 カメラに付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続する

4 カメラの電源をONにする

- Windows Vistaの場合：
  起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面がパソコンに表示されたら、［コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする -Nikon Transfer使用］を選んで、Nikon Transferを起動します。
  常にNikon Transferで画像を転送する場合は、［このデバイスの場合は常に次の動作を行う］にチェックマークを入れてください。
- Windows XPの場合：
  起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面がパソコンに表示されたら、［Nikon Transfer コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする］を選び、［OK］をクリックしてNikon Transferを起動します。
  常にNikon Transferで画像を転送する場合は、［この動作には常にこのプログラムを使う］にチェックマークを入れてください。
- Mac OS Xの場合：
  Nikon Transferのインストールで、［自動起動の設定］を［はい］にした場合は、パソコンでNikon Transferが自動起動します。

5 Nikon Transferを使って画像を転送する

- Nikon Transferの使い方については、Nikon Transferのヘルプをご覧ください。
- 転送が完了すると、ViewNXが起動します。

6 転送が終わったら、カメラの電源をOFFにして、USBケーブルを抜く

ケーブル接続時のご注意

- ケーブルは、端子の挿入方向を確認して無理な力を加えずに、まっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

転送中のご注意

カメラとパソコンが通信している間は、カメラの電源をOFFにしたり、USBケーブルを抜いたりしないでください。

付属ソフトウェアのヘルプを見るには

ヘルプを参照するには、メニューバーの［ヘルプ］→［Nikon Transferヘルプ］（ViewNXの場合は［ViewNXヘルプ］）を選んでください。

別売のCamera Control Pro 2について

- 別売のCamera Control Pro 2（156）で、パソコンからカメラをコントロールできます。
- カメラとパソコンが正しく接続されると、情報画面とファインダー内下部にPCカメラモード表示が表示されます。
- Camera Control Pro 2は、必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。ご使用のパソコンがインターネットに接続していれば、ソフトウェアの起動時にニコンメッセージセンター（Nikon Message Center）が自動的に更新情報をチェックします。

Windows 2000 Professionalをお使いの方へ

カードリーダーなどの機器を使って、SDカードの画像をパソコンに転送してください。詳しくは、「簡単操作ガイド」をご覧ください。

2 GB以上のSDカードやSDHC規格のSDカードをお使いの場合は、カードリーダーなどの機器がそれらのSDカードに対応している必要があります。

- カメラをパソコンに接続しないでください。接続してしまった場合は、パソコンに［新しいハードウェアの検索ウィザードの開始］と表示されます。［キャンセル（中止）］を選んで画面を閉じ、パソコンとの接続を外してください。

画像のプリント方法

画像をプリントするには、次のような方法があります。

a. カメラとプリンターを直接つないでプリントする→**84**

b. SDカードをプリンターのカードスロットに挿入してプリントする

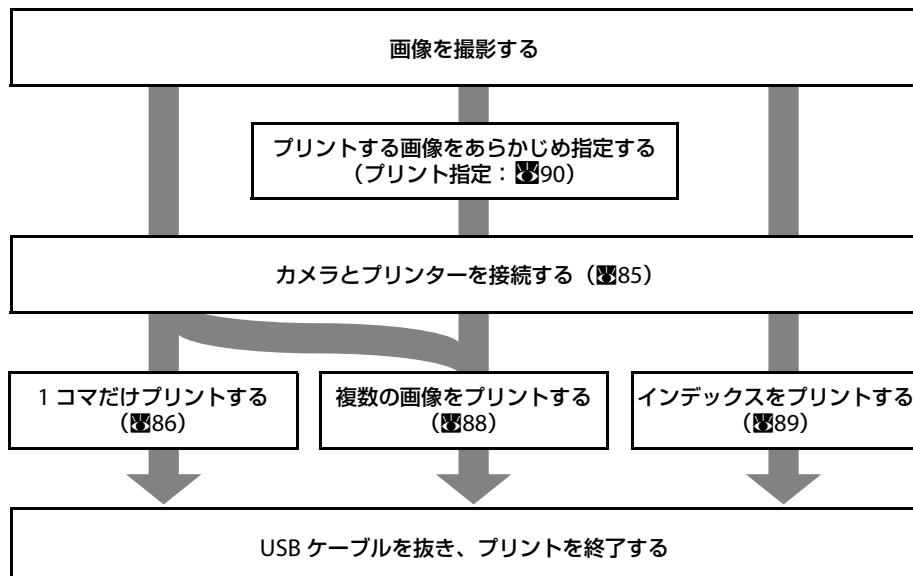
プリンターの使用説明書をご覧ください。

DPOF（186）対応プリンターをお使いの場合は、事前にプリント指定（90）を行い、指定通りにプリントすることができます。

c. SDカードをプリントサービス店に持ち込んでプリントを依頼する

事前にプリント指定（90）を行った場合は、DPOF対応のプリントサービス取扱店にお持ち込みください。

d. カメラの画像をパソコンに転送してからプリントする

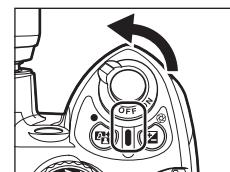
画像の転送方法については「パソコンに接続する」（80）をご覧ください。パソコンでのプリント方法はお使いになるソフトウェアやプリンターの使用説明書をご覧ください。

RAW画像のプリントについて

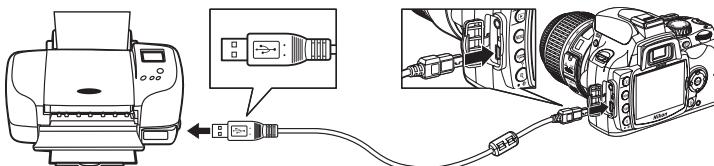
a〜cの方法では、RAW画像（51）はプリントできません。RAW画像は画像編集メニュー（129）の［簡単レタッチ］や［RAW現像］などでRAW画像から作成したJPEG画像を使うか、パソコンに転送してから、ViewNXや別売のCapture NX（156）などのソフトウェアを使って、プリントしてください。

プリンターに接続する

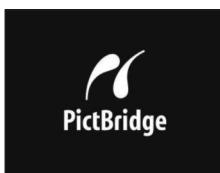
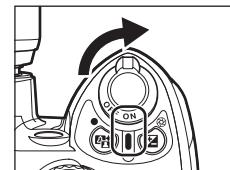
PictBridge（ピクトブリッジ：186）対応プリンターをお使いの場合、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを直接接続してSDカード内の画像をプリントできます。これを「ダイレクトプリント」といいます。
ダイレクトプリントする画像を撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で撮影する場合は、［撮影メニュー］→［仕上がり設定］→［カスタマイズ］→［カラー設定］（102）を初期設定の［モードⅢa（sRGB）］または［モードⅠa（sRGB）］にすることをおすすめします。

RAW画像のプリントについて

RAW画像（51）はそのままでは直接プリントできません。画像編集メニュー（129）の［簡単レタッチ］や［RAW現像］などでRAW画像からJPEG画像を作成すると、JPEG画像をダイレクトプリントできます。

電源についてのご注意

プリンターと接続するときは、途中で電源が切れないように、充分に残量のあるバッテリーをお使いください。別売のパワーコネクター EP-5とACアダプター EH-5a（156）を使用すると、家庭用コンセント（AC 100V）からD60へ電源を供給できます。

USBケーブルで接続する

1 プリンターの電源をONにする

2 カメラの電源をOFFにする

3 カメラに付属のUSBケーブルで、カメラとプリンターを接続する

4 カメラの電源をONにする

- 正しく接続されると、液晶モニターにPictBridgeロゴ画面①が表示された後、PictBridge再生画面②が表示されます。

ケーブル接続時のご注意

ケーブルは、端子の挿入方向を確認して無理な力を加えずに、まっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。

1コマだけプリントする

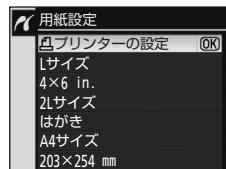
1 PictBridge再生画面（☞85）でマルチセレクターの左または右を押して、プリントしたい画像を選ぶ

- ボタンを押すと6コマ表示に、ボタンを押すと1 コマ表示に切り換わります。
- 1コマ表示でボタンを押すと、拡大表示画面に切り換わります。再生時の拡大表示（☞77）と同様の操作で、細部を確認しながら画像を選べます。

2 **OK** ボタンを押す

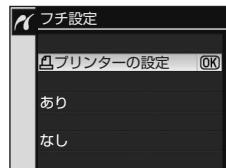
- 右の画面が表示されます。

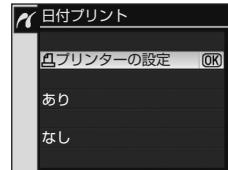
3 ［プリント設定］の項目を設定する

- マルチセレクターの上または下を押して設定したい項目を選び、マルチセレクターの右を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。

用紙設定

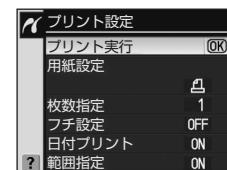
プリントする用紙のサイズを選びます。
［プリンターの設定］（プリンターの設定を優先）、［Lサイズ］、［2Lサイズ］、［はがき］、［100×150 mm］、［4×6 in.］、［203 × 254 mm］、［Letter］、［A3サイズ］、［A4サイズ］のうち、プリンターが対応するサイズのみが表示されます。
OK ボタンを押すと、プリント設定画面に戻ります。

枚数指定

プリントする枚数（99枚まで）を設定します。
OK ボタンを押すと、プリント設定画面に戻ります。

フチ設定

［プリンターの設定］（プリンターの設定を優先）、［あり］（フチありプリント）または［なし］（フチなしプリント）を選びます。
OK ボタンを押すと、プリント設定画面に戻ります。
［フチ設定］は、接続したプリンターがこれらの機能に対応している場合に選べます。

日付プリント

［プリンターの設定］（プリンターの設定を優先）、［あり］（日付を印刷する）または［なし］（日付を印刷しない）を選びます。
OK ボタンを押すと、プリント設定画面に戻ります。

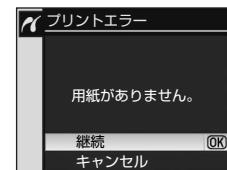
範囲指定

プリント範囲を指定します。［する］を選んでマルチセレクターの右を押すと、右下のような画面が表示されます。ボタンを押すと指定範囲が大きくなり、ボタンを押すと小さくなります。マルチセレクターの上下左右で範囲が移動します。

OK ボタンを押すと範囲が決定し、プリント設定画面に戻ります。

4 ［プリント実行］を選んで**OK**ボタンを押す

- プリントが始まります。プリントが終わると、手順1の画面に戻ります。
- プリント実行中にプリントを中止したいときは、**OK** ボタンを押してください。

［範囲指定］について

狭い範囲を大きくプリントすると、画像が粗くプリントされることがあります。

デート写し込みを使って撮影した画像のご注意

カスタムメニュー［18 デート写し込み設定］（115）で日時を写し込んだ画像をプリントするときは、次のことにご注意ください。
- ［プリント設定］の［日付プリント］を［なし］に設定してください。［あり］でプリントすると日付が二重にプリントされます。
- ［フチ設定］を［なし］にしたときや、範囲指定の設定によっては、日時部分が用紙に収まらないことがあります。

プリント中のエラーについて

プリント中に右のようなエラーメッセージが表示された場合は、プリンターの状況（用紙の有無など）をご確認ください。エラーの原因を取り除いてから、［継続］を選んで**OK** ボタンを押すと、プリントが再開されます。［キャンセル］を選んで**OK** ボタンを押すと、プリントが中止されます。なお、エラーの内容によっては、継続できない場合があります。

プリンターの設定を優先してプリントしたいときは

［用紙設定］、［フチ設定］、［日付プリント］の設定について、プリンターの設定を優先したいときは、それぞれの設定時に［プリンターの設定］を選んでください。

複数の画像をプリントする

複数の画像をプリントするときは、PictBridge再生画面（85）でMENUボタンを押して、右のPictBridgeメニューを表示します。

プリント画像選択

画像を選んでプリントします。

DPOFプリント

再生メニューの［プリント指定］（90）であらかじめ指定しておいた画像をプリントします。

INDEX（インデックス）プリント

すべてのJPEG画像が一覧できる「インデックス」をプリントします。

画像を選んでプリントする

PictBridgeメニュー画面で［プリント画像選択］を選び、マルチセレクターの右を押すと、手順1の画面が表示されます。

1 マルチセレクターの左または右を押してプリントする画像を選ぶ

- ⊕ボタンを押している間、選択中の画像を大きく表示できます。

2 マルチセレクターの上または下を押してプリント枚数（99枚まで）を設定する

- プリントされる画像には、プリントアイコンとプリント枚数が表示されます。
- 選択を解除するには、プリント枚数が1枚の時にマルチセレクターの下を押します。

3 手順1～2を繰り返し、他の画像も同じように設定する

4 OKボタンを押す

- プリント設定画面が表示されます。
- 1コマプリント（86）と同様に［用紙設定］、［フチ設定］、［日付プリント］を設定できます。
- ［プリント実行］を選んでOKボタンを押すと、プリントが始まります。プリントが終わると、PictBridgeメニューに戻ります。

- プリント実行中に、プリントを中止したいときは、OKボタンを押してください。

INDEX（インデックス）プリント

SDカード内のすべてのJPEG画像が一覧できる「インデックス」をプリントできます。

1 PictBridge再生画面（☞85）でMENUボタンを押す

2 [INDEXプリント]を選んでマルチセレクターの右を押す

- 右のような画面が表示されます。

3 OKボタンを押す

- プリント設定画面が表示されます。
- 1コマプリント（☞86）と同様に［用紙設定］、［フチ設定］、［日付プリント］を設定できます。
- ［プリント実行］を選んでOKボタンを押すと、プリントが始まります。プリントが終わると、PictBridgeメニューに戻ります。
- プリント実行中に、プリントを中止したいときは、OKボタンを押してください。
- 用紙サイズによっては、インデックス印刷ができない場合があります（警告画面が表示されます）。
- インデックス印刷できるのは256コマまでです。SDカード内に257コマ以上の画像がある場合は、印刷されない画像があります（確認画面が表示されます）。

SDカードにプリントする画像や枚数をあらかじめ指定する（プリント指定）

SDカードをプリンターのカードスロットに挿入して印刷するときや、プリントサービス店に持ち込んでプリントを依頼するとき、またはダイレクトプリント（84）時に、どの画像を何枚プリントするかをあらかじめSDカードに書き込むことができます（プリンターやプリントサービス店がDPOF規格に対応している必要があります）。

プリント指定の方法は以下の通りです。

1 再生メニュー（96）の［プリント指定（DPOF）］で、［設定］を選ぶ

- メニューの操作方法は「メニューの操作方法」（94）をご覧ください。

2 マルチセレクターの右を押す

- 画像の選択画面が表示されます

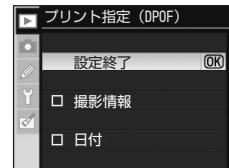
3 マルチセレクターの左または右を押してプリントする画像を選ぶ

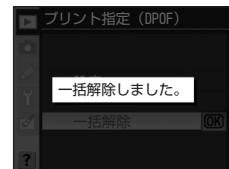
- ボタンを押している間、選択中の画像を大きく表示できます。

4 マルチセレクターの上または下を押してプリント枚数（99枚まで）を設定する

- プリントされる画像には、アイコンとプリント枚数が表示されます。
- 選択を解除するには、プリント枚数が1枚の時にマルチセレクターの下を押します。

5 ほかの画像もプリント指定するときは、手順3～4を繰り返す

- プリントしたい画像すべてにプリント枚数を設定したら、手順6に進んでください。

RAW画像のプリントについて

RAW画像（51）は、そのままでは直接プリントできません。画像編集メニュー（129）の［簡単レタッチ］や［RAW現像］などでRAW画像からJPEG画像を作成すると、JPEG画像をプリント指定できます。

6 OKボタンを押す

- 右の画面が表示されます。
- ［撮影情報］を選んでマルチセレクターの右を押すと、すべての画像に撮影情報（シャッタースピードと絞り値）を印字します。
- ［日付］を選んでマルチセレクターの右を押すと、すべての画像に撮影日を印字します。
- ［設定終了］を選んでOKボタンを押し、設定を有効にします。

プリント指定を一括解除するには

プリント指定で設定した内容をすべて解除できます。手順1の［プリント指定（DPOF）］画面で、［一括解除］を選んでOKボタンを押します。右の［設定終了］画面が表示され、再生メニューに戻ります。

プリント指定した画像をダイレクトプリントするには

1 カメラとプリンターを接続し（85）、Pictbridge再生画面でMENUボタンを押します。

2 ［DPOFプリント］を選び、マルチセレクターの右を押します。

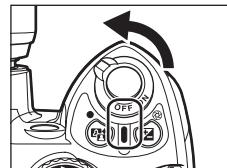
3 「画像を選んでプリントする」（88）の手順に従ってプリントします。

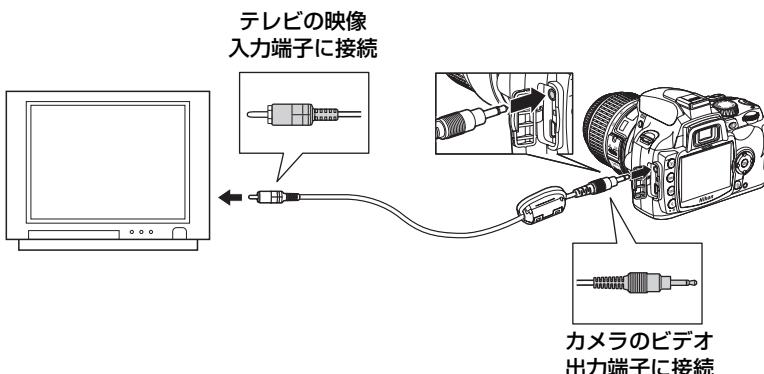
- プリント指定した画像を確認し、必要に応じて画像やプリント枚数を変更できます。

ダイレクトプリント時には、［プリント指定（DPOF）］の［撮影情報］と［日付］の設定は無効になります。ダイレクトプリントで日付をプリントしたい場合は、ダイレクトプリントの［日付プリント］を［あり］にしてください。

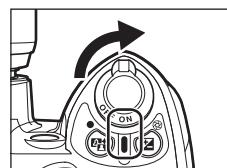
［デート写し込み］について

- カスタムメニューの［18 デート写し込み設定］（115）を使うと、画像に直接日付を写し込んで記録できます。「デート写し込み」した画像は、日付の印字に対応していないプリンターでも日付を入れてプリントできます。
  デート写し込みした画像は、［プリント指定（DPOF）］で日付や撮影情報の印字を設定しても、デート写し込みした日付のみがプリントに表示されます（ダイレクトプリントを除く）。
- カメラをPictBridge対応プリンターに接続して、デート写し込みした画像をプリントするときは、プリント設定時に［日付プリント］を［なし］に設定してください（87）。

プリント指定についてのご注意

- SDカードの残量が充分にないときは、プリント指定ができない場合があります。
- プリント指定を行ったSDカード内のデータを、パソコンなどで削除しないでください。正しくプリントできなくなる場合があります。

テレビに接続して画像を見る

カメラをテレビやビデオなどに接続して、撮影した画像をテレビで見たり、ビデオデッキで録画したりすることができます。接続には、別売のビデオケーブルEG-D100（156）が必要です。

1 カメラの電源をOFFにする

- ビデオケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

2 ビデオケーブルでカメラとテレビを接続する

3 テレビの入力をビデオ入力に切り換える

4 カメラの電源をONにする

- ▶ ボタンを押すと、撮影した画像がテレビの画面に表示されます。
- 画像の再生方法は、カメラの液晶モニターで再生するときと同じです。
- テレビとの接続中は、カメラの液晶モニターは消灯したままになります。

電源についてのご注意

テレビと接続するときは、途中で電源が切れないように、充分に残量のあるバッテリーをお使いください。別売のパワーコネクター EP-5とACアダプター EH-5a（156）を使用すると、家庭用コンセント（AC 100V）からD60へ電源を供給できます。

ケーブル接続時のご注意

ケーブルは、端子の挿入方向を確認して無理な力を加えずに、まっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。

画像がテレビに映らないときは

［セットアップメニュー］→［ビデオ出力］（123）が、お使いのテレビに合っているか確認してください。

メニューを使う（詳細設定と画像編集）

この章では、このカメラの5種類のメニューの操作方法と、各メニューの詳細な内容について説明しています。

メニューの操作方法

MENUボタンを押すと、液晶モニターに次のようなメニューが表示されます。

▶	**再生メニュー**	96
	再生に関する設定を行います。	
📷	**撮影メニュー**	100
	撮影に関する設定を行います。	
✎	**カスタムメニュー**	109
	撮影に関する詳細な設定を行います。	
🔧	**セットアップメニュー**	117
	SDカードの初期化や、カメラに関する基本設定を行います。	
✓	**画像編集メニュー**	129
	撮影した画像を編集（加工や補正）します。	

メニューの操作には、マルチセレクターを使います（基本的な操作手順は、次のページをご覧ください）。

1 MENUボタンを押す

・メニュー画面が表示されます。

2 マルチセレクターの左を押す

・画面左側のメニューアイコンにカーソルが移動し、アイコンが黄色で表示されます。
・メニュー内の項目にカーソルが当っているときは、MENUボタンを押してもメニューアイコンにカーソルを移動できます。

3 5種類のメニューからひとつを選ぶ

・マルチセレクターの上または下を押して、▶（再生メニュー）、📷（撮影メニュー）、✎（カスタムメニュー）、Ÿ（セットアップメニュー）、または☑（画像編集メニュー）を選びます。

4 マルチセレクターの右を押す

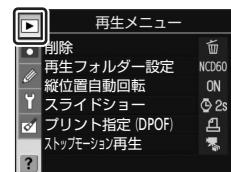
・選択したメニュー内の項目にカーソルが移動します。

5 マルチセレクターの上または下を押して、設定項目を選ぶ

6 マルチセレクターの右を押す

・設定項目の内容が表示されます。

7 マルチセレクターの上または下で設定する内容を選び、OKボタンを押す

・設定が完了し、手順5の画面に戻ります。
・途中で設定をやめたいときはマルチセレクターの左を押してください。
・メニュー表示を終了して、撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。

再生メニュー

再生メニューには、以下の項目があります。

- メニューの操作方法については「メニューの操作方法」（94）をご覧ください。

削除	96
SDカード内の画像を個別に、またはまとめて削除します。	
再生フォルダー設定	97
どのフォルダーの画像を再生するかを設定します。	
縦位置自動回転	98
縦位置で撮影した画像を、再生時に自動的に回転して表示するかどうかを設定します。	
スライドショー	98
SDカード内の画像を1コマずつ順番に自動再生します。	
プリント指定（DPOF）	90
DPOF対応のプリントショップやプリンターでプリントする画像と、枚数などの設定をします。	
ストップモーション再生※	99
画像編集メニューの［ストップモーション作成］（141）で作成した動画ファイルを再生します。	

※ SDカードにストップモーションの動画ファイルが記録されていないときは選べません。

セットアップメニューの［メニュー表示切り換え］（118）を［マイメニュー］にしたときは、マイメニューに登録したメニュー項目だけが表示されます（119）。

削除（画像をまとめて削除する）

画像を削除します。ただし、がついている画像はプロテクト（78）が設定されているため、削除されません。

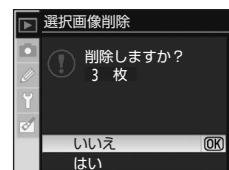
選択画像削除	97
指定した画像だけを削除します。	
全画像削除	
［再生フォルダー設定］で設定したフォルダー内の画像を、すべて削除します。	

大量の画像を削除すると、時間がかかることがあります。

メニューを使う（詳細設定と画像編集）

画像を選んで削除する

1 マルチセレクターの左または右を押して画像を選ぶ

- ボタンを押している間、選択中の画像を大きく表示できます。

2 マルチセレクターの上または下を押して削除する画像を設定する

- 削除される画像には、 アイコンが表示されます。
- 設定を解除するには、アイコンが表示された画像を選んで、マルチセレクターの上または下を押します。
- ほかの画像も削除するときは、手順1～2を繰り返してください。

3 **OK**ボタンを押す

- ［選択画像削除］確認画面が表示されます。
- ［はい］を選び、**OK**ボタンを押します。
  削除をやめるときは［いいえ］を選び、**OK**ボタンを押します。

再生フォルダー設定

画像の再生時に、画像の記録に使われているフォルダー内の画像だけを表示するか、すべての画像を表示するかを設定します。

記録中のフォルダー（初期設定）

画像の記録に使われているフォルダー内の画像だけが再生されます。

全てのフォルダー

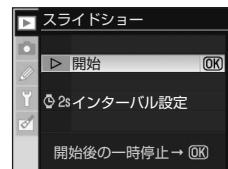
SDカード内の再生可能なすべての画像が再生されます。

再生フォルダー設定についてのご注意

- ［全てのフォルダー］に設定していても、撮影すると自動的に［記録中のフォルダー］に変更されます。すべてのフォルダーの画像を再生するときは、［全てのフォルダー］に設定し直してください。
- 画像を記録するフォルダーはセットアップメニューの［記録フォルダー設定］（125）で設定できます。
- ［記録中のフォルダー］にして、SDカードを交換した後、撮影を行わずに画像を再生すると、液晶モニターに［撮影画像がありません］と表示されます。［全てのフォルダー］に変更すると、SDカード内の画像が再生できます。

縦位置自動回転

縦位置で撮影した画像を、自動的に回転して表示するかどうかを設定します。初期設定は［する］です。
ただし、［する］にしていても、セットアップメニューの［縦横位置情報の記録］（🔍128）を［しない］にして撮影した画像は、すべて横位置で表示されます。

スライドショー

撮影した画像を1コマずつ順番に、連続再生する「スライドショー」を行います。

開始

スライドショーを始めます。

インターバル設定

1コマの画像が表示される時間を変更できます。

スライドショーの再生中は、次の操作ができます。

機能	ボタン	内容
1コマ進む/戻る	マルチセレクター（左右）	右を押すと次の画像に進み、左を押すと1つ前の画像に戻ります。
画像情報を見る	マルチセレクター（上下）	スライドショーの再生中に画像情報（🔍73）が表示され、画像情報画面の切り換えができます。
一時停止	OK	スライドショーを一時停止します。
再生メニューに戻る	MENU	スライドショーを中止して、再生メニューに戻ります。
通常再生に戻る	▶	スライドショーを中止して、再生モードの1コマ表示（🔍72）またはサムネイル表示（🔍76）に戻ります。
撮影に戻る	シャッターボタン または 🔍	撮影モードに戻ります。

スライドショーが終了したときや、**OK**ボタンを押して一時停止にしたときは、右の画面が表示されます。
再開するには、［再開］を選んで**OK**ボタンを押してください。
［終了］を選んで**OK**ボタンを押すと、再生メニューに戻ります。

ストップモーション再生

画像編集メニューの［ストップモーション作成］（141）で作成した動画ファイルを再生します。

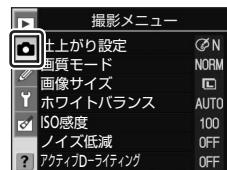
液晶モニターには、作成したストップモーションのサムネイルだけが一覧表示されます。マルチセレクターの左または右を押してファイルを選び、**OK**ボタンを押すと、再生できます。

ストップモーション再生中

一時停止中

再生中にマルチセレクターの左または右を押して、画面下部の操作パネルのボタンを選ぶと、次の操作ができます。

<table>
<tr><th>機能</th><th>ボタン</th><th colspan="2">内容</th></tr>
<tr><td>巻き戻し</td><td>◀◀</td><td colspan="2">OKボタンを押している間、巻き戻します。</td></tr>
<tr><td>早送り</td><td>▶▶</td><td colspan="2">OKボタンを押している間、早送りします。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">一時停止</td><td rowspan="4">❚❚</td><td colspan="2">OKボタンを押すと、一時停止します。※
一時停止中にマルチセレクターで画面下部の操作ボタンを選ぶと、次の操作ができます。</td></tr>
<tr><td>◀❚</td><td>OKボタンを押すと、1コマ戻ります。押し続けると、連続してコマ戻しします。</td></tr>
<tr><td>❚▶</td><td>OKボタンを押すと、1コマ進みます。押し続けると、連続してコマ送りします。</td></tr>
<tr><td>▶</td><td>OKボタンを押すと、再生を再開します。</td></tr>
<tr><td>再生終了</td><td>■</td><td colspan="2">OKボタンを押すと、ストップモーションのサムネイル表示に戻ります。（再生モードの1コマ表示からストップモーションを再生したときは、1コマ表示に戻ります。）</td></tr>
</table>

※ 一時停止中に何も操作しないまま3分経過すると、再生が終了してストップモーション再生開始直前の画面に戻ります。

ストップモーション再生について

SDカードにストップモーションの動画ファイルが記録されていないときは、［ストップモーション再生］を選べません。

撮影メニュー（撮影時の設定）

撮影メニューには以下の項目があります。

・メニューの操作方法については「メニューの操作方法」（94）をご覧ください。

仕上がり設定※ 101、102

画像の仕上がりを、撮影するシーンや好みに合わせて設定します。

画質モード 50

記録する画像のファイル形式や画質を設定します。

画像サイズ 50

記録する画像のサイズ（大きさ）を設定します。

ホワイトバランス※ 52、103、104、105

画像が見た目に近い色で記録されるように、光源に合わせてホワイトバランスを設定します。また、撮影メニューでは、ホワイトバランスの微調整や、蛍光灯の種類も設定できます。

ISO感度 53

ISO感度を設定します。標準（100）より高くすることで、暗い所での撮影に対応できます。

ノイズ低減 108

夜景撮影など、暗い所での低速シャッター撮影時や高感度での撮影時に発生しやすいノイズを低減します。

アクティブD-ライティング 69

ハイライトの白とびを抑え、暗部の黒つぶれを軽減し、見た目のコントラストに近い画像にします。

※ 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で設定できます。

セットアップメニューの［メニュー表示切り換え］（118）を［マイメニュー］にしたときは、マイメニューに登録したメニュー項目だけが表示されます（119）。

仕上がり設定

記録する画像の仕上がり（色の鮮やかさや輪郭の強調度合いなど）を、撮影シーンや好みに合わせて設定します。

仕上がり設定は、次の7種類から選べます。

N 標準（初期設定）

標準的な画像に仕上げます。ほとんどの撮影状況に対応できます。

SO ソフトに

被写体の輪郭をソフトに再現します。人物の肌をなめらかに表現したいときや、撮影後にパソコン上で画像を加工したいときに適しています。

VI 鮮やかに

彩度を高め、赤・緑・青の各色を鮮やかに表現します。ややコントラストが高く、シャープな画像になります。

VI+ より鮮やかに

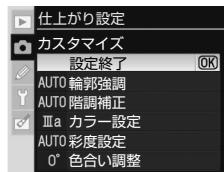
彩度とコントラストを高め、被写体の輪郭を強調した画像になります。

PO ポートレート

人物撮影に適しています。コントラストを抑え、肌の質感や立体感を自然に仕上げます。

BW 白黒

白黒写真を撮影したいときに使います。

カスタマイズ

仕上がりを自分で細かく設定できます（102）。

仕上がり設定について

- 仕上がり設定の効果をより大きく引き出すには、GタイプレンズかDタイプレンズをお使いください。
- 同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって、仕上がり具合は変化します。一連の写真を写すときに同じような仕上がり具合にしたい場合は、［カスタマイズ］を選んで、各項目を［オート］以外に設定してください。
- ［カスタマイズ］以外を選択すると、画像の色空間はsRGBになります。

仕上がり設定をカスタマイズする

［カスタマイズ］を選択して、次の項目をそれぞれ調整してください。各項目の設定後に、［設定終了］を選んで**OK**ボタンを押してください。

輪郭強調

画像の輪郭の強調度合い（シャープネス）を［オート］、［標準］、［弱め］、［やや弱め］、［やや強め］、［強め］、［しない］の中から設定します。
強めにするとくっきりとした画像になり、弱めにするとソフトな画像になります。
初期設定は［オート］です。

階調補正

画像の階調（コントラスト）を［オート］、［標準］、［コントラスト弱め］、［コントラストやや弱め］、［コントラストやや強め］、［コントラスト強め］、［ユーザーカスタム］の中から設定します。
コントラストを強くすると硬調な画像になり、弱くすると軟調な画像になります。かすんだ遠景の撮影などには強めが、晴天時の人物撮影や白とびが気になる場合などは弱めが適しています。
初期設定は［オート］です。
［ユーザーカスタム］は、別売のCamera Control Pro 2（156）で作成したトーンカーブを使うときに設定します。詳しくはCamera Control Pro 2の使用説明書をご覧ください。

カラー設定

画像の色再現を次の中から設定します。

モードⅠa（sRGB）
人物の肌などを、自然な色合いで階調豊かに表現します。初期設定の［モードⅢa］よりもややソフトに仕上がります。sRGB色空間に対応しています。

モードⅡ（Adobe RGB）
画像をパソコンなどで加工する場合に適しています。sRGB よりも色域が広いAdobe RGB色空間に対応しています。

モードⅢa（sRGB）（初期設定）
人物や風景など様々な被写体を、鮮やかな色合いでくっきりと表現します。sRGB色空間に対応しています。

彩度設定

画像の彩度（色の鮮やかさ）を［オート］、［標準］、［弱め］、［強め］の中から設定します。
［弱め］にすると鮮やかさが抑えられ、［強め］にするとより鮮やかになります。
初期設定は［オート］です。

色合い調整

画像の色相を調整します。初期設定の［0°］から、+方向と−方向にそれぞれ3段階（1段階は約3°）で調整できます。肌色を基準にした場合、＋側にすると黄色みが増し、−側にすると赤みが増します。

カラー設定についてのご注意

- カラーマネジメント機能を持たないアプリケーションで画像を開くときやプリントするとき、またはダイレクトプリントや、プリントサービス店にプリントを依頼するときは、[モードⅠa（sRGB)]または［モードⅢa（sRGB)］をおすすめします。
- ［モードⅡ（Adobe RGB)］の画像をAdobe Photoshopなどのカラーマネジメント機能を持ったアプリケーションで開く場合は、色空間をAdobe RGBに設定してください。詳しくは、アプリケーションの説明書をご覧ください。

色空間とは

色を数値化して表現するときに、どの色にどの数値を対応させるかを定めたもので、「カラースペース」ともいいます。一般にはsRGB色空間が利用されています。Adobe RGB色空間は出版・印刷などで使われる場合があります。

色合い調整の意味

色は「彩度（鮮やかさ)」「色相（色合い)」「明度（明るさ)」の3要素で成り立っており、「色合い調整」はこのうち「色相」を変化させるものです。調整の単位が角度で表されているのは、色彩管理などで用いられる「色相環（赤から紫までの色相を環状につなげたもの)」を何度回転させるかで、色相の変化の度合いを示しているためです。

ホワイトバランス

ホワイトバランスを変更します（52)。撮影メニューで設定できるホワイトバランスの種類は、「撮影設定変更画面」での［ホワイトバランス］に加えて、蛍光灯の種類を細かく設定できます。また、ホワイトバランスを微調整できます（104)。微調整の必要がないときは、微調整値を［0］にしてOKボタンで決定してください。

蛍光灯の種類を選ぶ

［蛍光灯］を選ぶと次の項目から選べます。

1 ナトリウム灯混合光
野球場、体育館などのナトリウム灯の混合光を使った撮影に適しています。

2 電球色蛍光灯
電球色蛍光灯下での撮影に適しています。

3 温白色蛍光灯
温白色蛍光灯下での撮影に適しています。

4 白色蛍光灯（初期設定）
白色蛍光灯下での撮影に適しています。

5 昼白色蛍光灯
昼白色蛍光灯下での撮影に適しています。

6 昼光色蛍光灯
昼光色蛍光灯下での撮影に適しています。

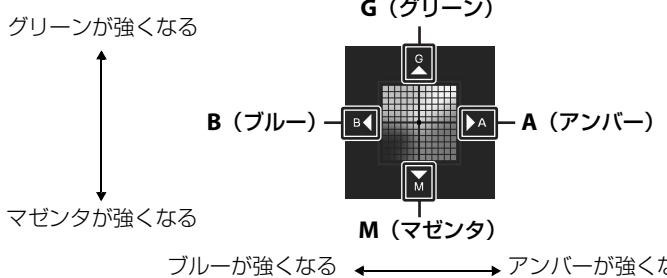
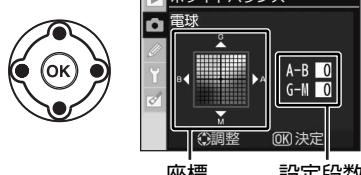
7 高色温度の水銀灯
色温度の高い水銀灯などを使った撮影に適しています。

色温度について

光の色には、赤味を帯びたものや青味を帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なります。そこで、光の色を絶対温度（K：ケルビン）という客観的な数字で表したのが色温度です。色温度が低くなるほど赤味を帯びた光色になり、色温度が高くなるほど青味を帯びた光色になります。
各ホワイトバランスの色温度（微調整値が0のとき）は以下の通りです。写真用カラーメーターで測定した色温度値とカメラの設定色温度は異なる場合があります。

ホワイトバランス		色温度
AUTO	オート	約3500K～8000K
	電球	約3000K
1	ナトリウム灯混合光	約2700K
2	電球色蛍光灯	約3000K
3	温白色蛍光灯	約3700K
4	白色蛍光灯	約4200K
5	昼白色蛍光灯	約5000K

ホワイトバランス		色温度
6	昼光色蛍光灯	約6500K
7	高色温度の水銀灯	約7200K
	晴天	約5200K
	フラッシュ	約5400K
	曇天	約6000K
	晴天日陰	約8000K

ホワイトバランスを微調整する

ホワイトバランスは、［プリセットマニュアル］を除いて、さらに微調整できます。

1 撮影メニューの［ホワイトバランス］で、［プリセットマニュアル］以外のホワイトバランスを選ぶ

- ホワイトバランスを選んでマルチセレクターの右を押すと、微調整画面が表示されます。
- ［蛍光灯］の場合は、該当する蛍光灯の種類を選んで右 を押すと、微調整画面が表示されます。

2 微調整値を設定する

- マルチセレクターを操作すると、A（アンバー）、B（ブルー）、G（グリーン）、M（マゼンタ）の4方向で、各方向6段まで微調整できます。設定した座標上の色に画像を補正します。
- 座標とホワイトバランスの効果の関係は次の図のようになります。

- A（アンバー）、B（ブルー）方向は、色温度の高さを微調整できます。1段は約5ミレッドに相当します。
- G（グリーン）、M（マゼンタ）方向は、色補正用（CC）フィルターと同じような微調整ができます。

3 OKボタンを押す

- 撮影メニューに戻ります。
- ホワイトバランスを微調整すると、情報画面のホワイトバランスアイコンに「✱」が表示されます。

ホワイトバランスの微調整画面について

ホワイトバランスの微調整画面で表示されている色は、色温度方向の目安の色を表しています。微調整画面で設定しても、設定したそのままの色の画像にはならない場合があります。たとえば、ホワイトバランスを（電球）に設定してB（ブルー）方向に微調整しても、青色が強い画像にはなりません。

ミレッド（MIRED）について

色温度の逆数を百万倍（10^6）したものです。色温度は、同じ色温度差でも、色温度の低い場合では色の変化が大きく、色温度の高い場合では、色の変化が小さくなります。たとえば同じ1000ケルビンの違いでも6000ケルビン付近では変化はほとんどありませんが、3000ケルビン付近では1000ケルビンの違いで光色が大きく変わります。ミレッドは、その変化幅をほぼ同じに表現する尺度であり、色温度変換フィルターの単位としても利用されます。

例）色温度の差（K：ケルビン）：ミレッドの差 （M：ミレッド）
4000 K－3000 K＝1000 K ：83 M
7000 K－6000 K＝1000 K ：24 M

プリセットマニュアルを使う

特殊な照明の下で撮影するときなど、［オート］や［電球］などの設定では望ましい結果が得られない場合や、SDカード内の撮影済みの画像と同じホワイトバランスで撮影したいときは、マニュアル操作で事前に取得（プリセット）したホワイトバランスを使えます。プリセットデータとして使えるのは、次の2種類のデータです。

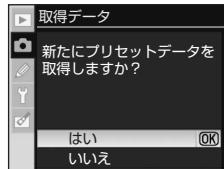
取得データ

カメラで取得したホワイトバランスを、プリセットデータとして使います。

撮影データ

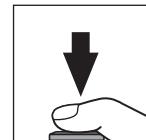
撮影済みの画像と同じホワイトバランスで撮影できます。SDカード内にある撮影済み画像のホワイトバランスを、プリセットデータとして使います。

ホワイトバランスデータをカメラで取得するには

プリセットデータとして保存できる ［取得データ］は1つだけです。
カメラでプリセットデータをマニュアルで取得するたびに、以前保存した［取得データ］は、新しいデータに置き換えられるので、ご注意ください。

1 撮影するときに使う照明と、白またはグレーの被写体を用意する

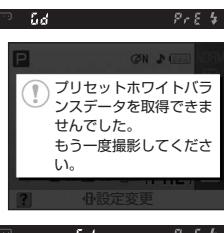
2 ［撮影メニュー］→［ホワイトバランス］→［プリセットマニュアル］を選び、マルチセレクターの右を押す

3 ［取得データ］を選んでマルチセレクターの右を押す

- 右の画面が表示されたら、［はい］を選んでOKボタンを押します。

4 プリセットデータ取得モードになる

- ［撮影時に使う照明の下で、白またはグレーの被写体をファインダーいっぱいにとらえて撮影してください］と表示されたあと、プリセットデータ取得モードに入り、ファインダー内下部に、右のような表示が点滅します。

5 撮影時に使う照明の下で、用意した白（またはグレー）の被写体をファインダーいっぱいにとらえて、シャッターボタンを押す

- ピントが合っていなくても、ホワイトバランスデータは正常に取得されます。

6 情報画面に、［取得に成功しました］と表示されたことを確認する

- これで、撮影時の照明の色に合わせてホワイトバランスが変更されました。

- 右のように表示された場合、データ取得は失敗です。原因として、被写体が明るすぎる、または暗すぎることが考えられます。もう一度手順2からやり直してください。

データ取得についてのご注意

- プリセットデータとして［撮影データ］を使うように設定していても、新しくプリセットデータを取得すると、自動的に［取得データ］を使うように変更されます。
- ホワイトバランスを厳密に合わせたいときは、ホワイトバランス取得用の 18 %標準反射板を使ってプリセットデータを取得してください。
- 適正露出で撮影してください。

その他のプリセットデータの取得方法

以下の方法でも、カメラをホワイトバランスのプリセットデータ取得モードにできます。

- 撮影設定変更画面（52）で［ホワイトバランス］を［プリセットマニュアル］にしてから、OKボタンを押し続けると、手順4のプリセットデータのマニュアル取得モードになります。
- カスタムメニュー［11 /Fnボタンの機能］（112）が［ホワイトバランス設定］になっているときに、［ホワイトバランス］を［プリセットマニュアル］にしてからFnボタンを押し続けると、手順4のプリセットデータのマニュアル取得モードになります。

撮影した画像のホワイトバランスデータを使うには

ホワイトバランスのプリセットデータは、SDカード内にある撮影済み画像（撮影データ）からもマニュアルで取得できます。

プリセットデータとして保存できる ［撮影データ］は1つだけです。

［撮影データ］からプリセットデータをマニュアルで取得するたびに、以前保存した［撮影データ］は、新しいデータに置き換えられるので、ご注意ください。

1 ［撮影メニュー］→［ホワイトバランス］→［プリセットマニュアル］を選び、マルチセレクターの右を押す

2 ［撮影データ］を選んでマルチセレクターの右を押す

- 新たに画像を選ぶときは、［データを選択］を選んでマルチセレクターの右を押し、手順3に進んでください。
- 画面に表示されている画像のホワイトバランスに設定するときは、［表示画像で設定］を選んでマルチセレクターの右を押すと設定が有効になります。

3 マルチセレクターの上または下を押して、使いたい画像が保存されているフォルダーを選ぶ

4 マルチセレクターの右を押す

- 選択したフォルダの画像が表示されます。

5 マルチセレクターの右または左を押して画像を選ぶ

- 🔍ボタンを押している間、選択中の画像を大きく表示できます。
- **OK** ボタンを押すと、設定が有効になり、撮影メニューに戻ります。

☑ 撮影データについてのご注意

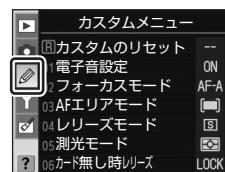
プリセットデータとして設定できるのは、D60で撮影した画像だけです。D60以外のデジタルカメラで撮影した画像も画像選択画面に表示されますが、プリセットデータとしては設定できません。

ノイズ低減

シャッタースピードが約8秒より低速になったり、高感度で撮影すると画像にノイズが入ったりすることがあります。あらかじめ［ノイズ低減］を［する］にしておくと、このノイズを低減できます。

しない（初期設定）

ISO感度が800より高い場合のみ、ノイズを低減します。この場合のノイズ低減効果は、［する］に設定したときよりも弱めになります。

する

シャッタースピードが約8秒より低速になったり、ISO感度が400より高くなると自動的にノイズを低減します。

- ノイズ低減処理が行われると連写速度が遅くなります。また、連写可能コマ数も少なくなります。
- シャッタースピードが低速になったときのノイズ低減処理には、シャッタースピードの約半分から同等の時間がかかります。
- シャッタースピードが低速になった時のノイズ低減処理中は、ファインダー内に Job nr が点滅します。この表示が消えると次の撮影ができます。
- ファインダー内下部に Job nr が点滅している間に電源を OFF にすると、ノイズ低減の処理を行わずに画像を記録して電源が切れます。

カスタムメニュー（さらに詳細な撮影時の設定）

カスタムメニューには、以下の項目があります。

- メニューの操作方法については「メニューの操作方法」（94）をご覧ください。

R カスタムのリセット 110

すべてのカスタムメニューの設定内容を初期設定に戻します。

01 電子音設定 110

電子音について設定します。

02 フォーカスモード 57

ピントの合わせ方を設定します。

03 AFエリアモード 58

ピントを合わせるフォーカスポイントを設定します。

04 レリーズモード 54

連写やセルフタイマーなど、シャッターのきり方を設定します。

05 測光モード※1 62

カメラが被写体の明るさを測る方式を設定します。

06 カード無し時レリーズ 110

SDカード未挿入時のシャッターの作動について設定します。

- セットアップメニューの［メニュー表示切り換え］（118）を［フルメニュー］にすると、以下の項目も表示されます。

07 撮影直後の画像確認 111

撮影直後に、撮影した画像を液晶モニターに表示させるかどうかを設定します。

08 フラッシュ調光補正※1 68

フラッシュの発光量を補正します。

09 内蔵AF補助光の照射※2 111

AF補助光ランプを点灯させるかどうかを設定します。

10 感度自動制御※1 111

ISO感度の自動制御を設定します。

11 ⏲/Fnボタンの機能 112

⏲（Fn）ボタンの役割を設定します。

12 AE-L/AF-Lボタンの機能 113

AE-L/AF-Lボタンの役割を設定します。

13 半押しAEロック 113

シャッターボタンを半押ししたときの、AEロックを設定します。

14 内蔵フラッシュ発光 / 外付けフラッシュ発光※1 113

内蔵フラッシュと別売スピードライト SB-400の発光制御方法を設定します。

15 パワーオフ時間 ☞114

液晶モニターやファインダー内表示が自動的に消灯するまでの時間を設定します。

16 セルフタイマー時間 ☞114

セルフタイマーの時間を設定します。

17 リモコン待機時間 ☞115

リモコン撮影時に、カメラがリモコンからの信号を待ち受ける時間を設定します。

18 デート写し込み設定 ☞115

画像に撮影日時を写し込む設定を行います。

19 フォーカスエイドインジケーター ☞116

撮影モード**M**以外でピントをマニュアルで合わせるときに、ファインダー内の露出インジケーターをピント合わせを助けるインジケーターに切り換えます。

※1 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で設定できます。
※2 撮影モード、以外で設定できます。

セットアップメニューの［メニュー表示切り換え］（☞118）を［マイメニュー］にしたときは、マイメニューに登録したメニュー項目だけが表示されます（☞119）。

R カスタムのリセット

［する］を選ぶと、すべてのカスタムメニューの設定内容が、初期設定に戻ります。「付録」の「初期設定一覧」（☞176）もご覧ください。

01 電子音設定

- ［する］（初期設定）のときは、次の場合に電子音が鳴ります。
  - セルフタイマー（☞55）の作動中
  - 2秒リモコン撮影（☞55）の作動中
  - 瞬時リモコン撮影（☞55）の完了時
  - オートフォーカスのピントが合ったとき（ただし、撮影モードが のときや、［フォーカスモード］（☞57）が［AF-C］のとき、または［AF-A］で被写体が動いているとカメラが判断したときは、電子音は鳴りません）
- ［しない］にすると、電子音は鳴りません。
- ［する］のときは情報画面に♪マークが、［しない］のときはマークが表示されます。

06 カード無し時レリーズ

- ［レリーズ禁止］（初期設定）のときは、カメラにSDカードを入れないとシャッターがきれません。
- ［レリーズ許可］にすると、SDカードを入れなくてもシャッターがきれるようになります。SDカードが入っていないときに撮影した画像は、液晶モニターに表示されますが、画像上に「デモモード」と表示され、SDカードへの保存もプリントもできませんのでご注意ください。

07 撮影直後の画像確認（フルメニューで表示（☞118））

- ［する］（初期設定）のときは、撮影直後に、撮影した画像が液晶モニターに自動的に表示されます。表示時間はカスタムメニュー［15 パワーオフ時間］（☞114）で変更できます。
- ［しない］にすると、画像は自動表示されません。撮影した画像を確認するときは▶ボタンを押してください。

---

09 内蔵AF補助光の照射（フルメニューで表示（☞118））

- ［照射する］（初期設定）のときは、ピント合わせの際に、必要に応じて自動的にAF補助光ランプが点灯します（☞57）。
- ［照射しない］にすると、状況にかかわらず、AF補助光は点灯しません。被写体が暗いときなどは、オートフォーカスでのピント合わせができないことがあります。

---

10 感度自動制御（フルメニューで表示（☞118））

設定したISO感度では適正露出が得られないときに、カメラが自動的にISO感度を変更するかどうかを設定します。
撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で設定できます。

しない（初期設定）

［ISO感度］（☞53）で設定したISO感度に固定されます。

する

通常は［ISO感度］で設定したISO感度で撮影しますが、設定したISO感度では適正露出が得られない場合には、カメラが自動的にISO感度を変更します。フラッシュ撮影時も、フラッシュの発光量が適正となるように感度自動制御が機能します。

制御上限感度

ISO感度が高くなると、低いときに比べて多少ざらついた画像になることがあります。感度自動制御で、ISO感度が高くなり過ぎないように上限感度を設定できます。

低速限界設定

撮影モード**P**または**A**で感度自動制御が働き始めるシャッタースピードを設定できます。ここで選択したシャッタースピードでは露出不足となる場合に、ISO 感度を自動的に変更します。ただし、ISO感度を［制御上限感度］まで上げても露出不足になる場合は、適正露出を得るために、低速限界設定よりもさらにシャッタースピードが低速になります。

［する］にすると、情報画面とファインダー内下部に、右のように表示されます。表示が点灯している場合は、［ISO感度］で設定した感度で撮影されます。点滅している場合は、［ISO感度］で設定した感度では適正露出が得られないため、カメラが感度を変更していることを示しています。ただし、フラッシュ撮影時は感度自動制御が機能しても表示は点滅しません。

感度自動制御によって変更された感度は、再生時の撮影情報表示（73）で確認できます。

感度自動制御について

- 撮影モードがデジタルイメージプログラムのときや［ISO感度］が［Hi 1］のときは、［感度自動制御］は選べません。また、感度自動制御を［する］にしていても、［ISO感度］を［Hi 1］にすると、感度自動制御は行われません。
- フラッシュ撮影時も感度自動制御は機能しますが、次のような場合は手前の被写体の露出がアンダーになることがあります。
  - 低速シャッタースピードでフラッシュ撮影（スローシンクロ）するとき
  - 日中の明るい場所でフラッシュ撮影（日中シンクロ）するとき
  - 背景が明るいとき

  このようなときは、次のように対処すればフラッシュの光が届きやすくなります。
  - 撮影モード**A**などにして絞りを開く
  - スローシンクロを解除する

11 セルフタイマー/Fnボタンの機能（フルメニューで表示（118））

セルフタイマー（Fn）ボタンの役割を変更できます。

セルフタイマー　セルフタイマー設定（初期設定）

セルフタイマー（Fn）ボタンを押すと、セルフタイマー撮影（55）に切り換わります。

レリーズモード　レリーズモード設定※

セルフタイマー（Fn）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、レリーズモード（54）が切り換わります。

QUAL　画質モード/画像サイズ設定※

セルフタイマー（Fn）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、画質モード（50）と画像サイズ（50）の組み合わせが切り換わります。

ISO　ISO感度設定※

セルフタイマー（Fn）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ISO感度（53）が切り換わります。

WB　ホワイトバランス設定※

セルフタイマー（Fn）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ホワイトバランス（52）が切り換わります（撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**のみ）。

※ 撮影情報変更画面と情報画面（セットアップメニューの［情報画面デザイン］（120）が［クラシックデザイン］の場合のみ）で、セルフタイマー（Fn）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回して設定できる機能の表示の隣にFnアイコンが表示されます。

12 AE-L/AF-Lボタンの機能（フルメニューで表示（118））

AE-L/AF-Lボタンの役割を変更できます。

	AE/AF同時ロック（初期設定）
	AE-L/AF-Lボタンを押すと、AEロック（63）とフォーカスロック（60）が同時に行われます。
	AEロックのみ
	AE-L/AF-Lボタンを押すと、AEロック（63）だけが行われます。
	AFロックのみ
	AE-L/AF-Lボタンを押すと、フォーカスロック（60）だけが行われます。
	AEロック維持
	AE-L/AF-Lボタンを押すと、AEロック（63）状態が維持され、もう一度押すと解除されます。
AF	**AF作動**
	AE-L/AF-Lボタンを押すと、オートフォーカスが作動します。シャッターボタンを半押ししても、オートフォーカスは作動しないのでご注意ください。

13 半押しAEロック（フルメニューで表示（118））

- ［しない］（初期設定）のときは、シャッターボタンを半押ししても、AE ロック（63）は行われません。
- ［する］にすると、シャッターボタンを半押ししたときに、AEロックが行われます。

14 内蔵フラッシュ発光/外付けフラッシュ発光（フルメニューで表示（118））

内蔵フラッシュと別売スピードライト SB-400の発光制御方法を設定します。

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で設定できます。

SB-400をカメラに装着しているときは、メニュー名［14 内蔵フラッシュ発光］が［14 外付けフラッシュ発光］に変わり、SB-400の発光制御方法を設定できます。

TTL	**TTLモード（初期設定）**
	発光量が自動的に制御されます。
M	**マニュアル発光モード**
	［Full］（フル発光）のほか、5段階の発光量を選べます。［Full］（フル発光）での内蔵フラッシュのガイドナンバーは約13（ISO 100・m、20℃）です。

［マニュアル発光モード］にすると、情報画面とファインダー内下部でマークが点滅します。

メニューを使う（詳細設定と画像編集）

15 パワーオフ時間（フルメニューで表示（118））

何も操作をしないで一定時間が過ぎると、バッテリーの消耗を抑えるために液晶モニターやファインダー内表示が消灯します。ここでは、液晶モニターが自動的に消灯するまでの時間や半押しタイマーがオフになるまでの時間を変更できます。

情報画面のパワーオフ時間は半押しタイマーに連動します。

SHORT 短め

何も操作しないと、画像の再生時やメニュー表示時には8秒で、撮影直後の画像確認時には4秒で液晶モニターが消灯します。半押しタイマーは4秒でオフになります。

NORM 標準（初期設定）

何も操作しないと、画像の再生時やメニュー表示時には12秒で、撮影直後の画像確認時には4秒で液晶モニターが消灯します。半押しタイマーは8秒でオフになります。

LONG 長め

何も操作しないと、画像の再生時やメニュー表示時には20秒で、撮影直後の画像確認時には20秒で液晶モニターが消灯します。半押しタイマーは1分でオフになります。

カスタマイズ

以下の時間をそれぞれ設定できます。各項目の設定後、［設定終了］を選んで**OK**ボタンを押すと設定が有効になります。

［再生/メニュー表示］：画像の再生時やメニュー表示時に液晶モニターが消灯するまでの時間を［8秒］［12秒］［20秒］［1分］［10分］から選べます。

［撮影直後の画像確認］：撮影直後の画像確認時に液晶モニターが消灯するまでの時間を［4秒］［8秒］［20秒］［1分］［10分］から選べます。

［半押しタイマー］：半押しタイマーがオフになるまでの時間を［4秒］［8秒］［20秒］［1分］［30分］から選べます。

［07 撮影直後の画像確認］（111）が［する］（初期設定）の場合、撮影後の半押しタイマーは、撮影直後の画像確認のパワーオフ時間に連動してオフになり、液晶モニターも消灯します。リモコン撮影（55）時は、カスタムメニュー［17 リモコン待機時間］（115）で設定した時間でパワーオフします。

パワーオフ時間について

- パワーオフ時間が長いほど、バッテリーの消耗が速くなります。
- 別売のパワーコネクターEP-5とACアダプターEH-5a（156）を接続しているときは、［パワーオフ時間］の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになりません。
- パソコンやPictBridge対応のプリンターを接続しているときは（80、83）、［パワーオフ時間］の設定にかかわらず、液晶モニターやファインダー内表示は消灯しません。

16 セルフタイマー時間（フルメニューで表示（118））

セルフタイマー撮影（55）時に、シャッターボタンを押してからシャッターがきれるまでの時間を［2秒］、［5秒］、［10秒］（初期設定）、［20秒］から選べます。

17 リモコン待機時間（フルメニューで表示（118））

リモコン撮影（55）時に、カメラがリモコンからの信号を待ち受ける時間を［1分］（初期設定）、［5分］、［10分］、［15分］から選べます。

- リモコンモードにしてから、リモコン撮影をしないままで受信待機時間が過ぎると、リモコンモードが解除されます。

18 デート写し込み設定（フルメニューで表示（118））

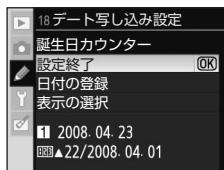
画像に直接日時を写し込みます。

	しない（初期設定）
	日付、時刻のどちらも写し込みません。
DATE	年・月・日
	撮影した画像の右下に、日付を写し込みます。
DATE⊕	年・月・日・時刻
	撮影した画像の右下に、日付と時刻を写し込みます。
123	誕生日カウンター（116）
	お子様の成長記録や植物の観察日記などに便利な機能です。

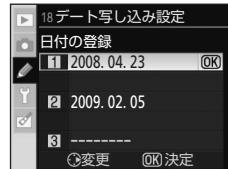
デート写し込み設定をすると、情報画面にDATEが表示されます。

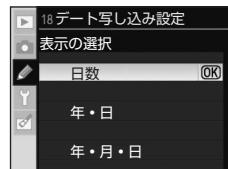
デート写し込みを設定した画像には、次のように日付が写し込まれます。

［縦横位置情報の記録］（128）を［する］にして、縦位置で撮影した場合

デート写し込みについてのご注意

- 一度写し込まれた日時を画像から消したり、撮影した後で日時を写し込んだりすることはできません。
- 年月日の並びは、［日時設定］（21）での設定と同じになります。
- 画質モード（50）が［RAW］または［RAW+B］のときは、日時を写し込みできません。

「デート写し込み」と「プリント指定」について

日付や撮影情報の印刷が可能なDPOF対応のプリンターでプリントするときは、［デート写し込み］で日時を写し込んでいない画像でも、［プリント指定］（90）で撮影日時や撮影情報をプリントするように設定できます。

誕生日カウンターの使い方

撮影日と一緒に、誕生日など特定の日付から撮影日までの日数を写し込めます。誕生日や結婚式までの日数をカウントダウン形式で入れたり、お子様が産まれた日からの経過日数を入れたりするときなどに使います。

日付の登録

初めて誕生日カウンターを設定するときや、1～3のいずれかを選んでマルチセレクターの右を押すと、［誕生日設定］画面が表示されます。「日時を設定する」の手順2（☞21）と同様の操作で日付を設定後、**OK** ボタンを押してください。日付は3種類まで登録できます。他の日付に切り換えるには、1～3のいずれかを選んで、**OK** ボタンを押してください。

表示の選択

日数の表示形式を選んで**OK**ボタンを押してください。

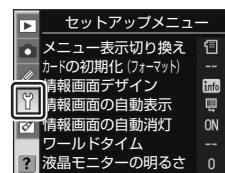
各項目の設定後、［設定終了］を選んで**OK**ボタンを押すと設定が有効になります。誕生日カウンターを使って撮影した画像には、次のように日付が写し込まれます。

誕生日まであと 2 日の場合

記念日から 2 日後の場合

19 フォーカスエイドインジケーター（フルメニューで表示（☞118））

［する］にして、撮影モード**M**以外でマニュアルフォーカス（☞61）にすると、ファインダー内下部の露出インジケーターがフォーカスエイドインジケーターに切り換わります。マニュアルでピントを合わせるときに便利です。

- 開放絞り値がf/5.6以上の明るいレンズで使えます。
- 撮影モード**M**では使えません。

オートフォーカスの苦手な被写体（☞38）では、適切に作動しないことがあります。

表示	内容	表示	内容
0 ▮ ▮	フォーカスポイント内の被写体にピントが合っています。	0 ▮▮▮ ▶	被写体の少し後方にピントが合っています。
0 ◀ ▮▮▮	被写体の少し前方にピントが合っています。	0 ▮▮▮▮▮▮▶	被写体のかなり後方にピントが合っています。
0 ◀▮▮▮▮▮▮	被写体のかなり前方にピントが合っています。	◀▮▮▮▮▮▮ ▮▮▮▮▮▮▶	ピントエラー(ピントを合わせられません)

セットアップメニュー（カメラの基本設定）

セットアップメニューには以下の項目があります。

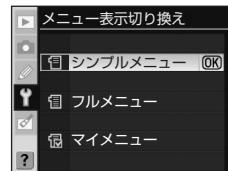
- メニューの操作方法については「メニューの操作方法」（94）をご覧ください。

項目	ページ
メニュー表示切り換え	118
各メニュー画面に表示されるメニュー項目を設定します。	
カードの初期化（フォーマット）	24
SDカードを初期化します。	
情報画面デザイン	120
情報画面のデザインを設定します。	
情報画面の自動表示	122
シャッターボタンの半押しによる、情報画面の自動表示を設定します。	
情報画面の自動消灯	123
アイセンサーの感知による、情報画面の自動消灯を設定します。	
ワールドタイム	21
内蔵時計を合わせます。	
液晶モニターの明るさ	123
液晶モニターの明るさを調節します。	
ビデオ出力	123
テレビとの接続に必要な設定を行います。	
言語（LANG）	123
画面に表示する言語を設定します。	
画像コメント	124
撮影する画像にコメントを登録します。	

［メニュー表示切り換え］（118）を［フルメニュー］にすると、以下の項目も表示されます。

項目	ページ
記録フォルダー設定	125
画像を記録するフォルダーを設定します。	
連番モード	126
ファイルの番号の付け方を設定します。	
イメージセンサークリーニング	126
撮像素子上のローパスフィルター表面に付いたゴミをカメラが自動で取り除きます。	
クリーニングミラーアップ	126
撮像素子上のローパスフィルターの汚れを調べたり、クリーニングしたりするために、ミラーを上げた状態で固定します。	
ファームウェアバージョン	126
ファームウェアの情報を表示します。	

イメージダストオフデータ取得 127

別売のCapture NXの「イメージダストオフ機能」を使うためのデータを取得します。

縦横位置情報の記録 128

撮影時のカメラの縦横位置情報を記録するかどうかを設定します。

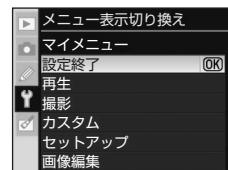
［メニュー表示切り換え］を［マイメニュー］にしたときは、マイメニューに登録したメニュー項目だけが表示されます（119）。

メニュー表示切り換え

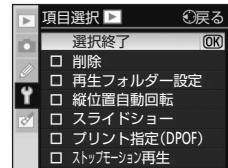
各メニュー画面に表示されるメニュー項目を設定します。

シンプルメニュー（初期設定）

カスタムメニュー（109）とセットアップメニュー（117）には、基本的なメニュー項目だけが表示されます。再生メニュー、撮影メニュー、画像編集メニューにはすべてのメニュー項目が表示されます。

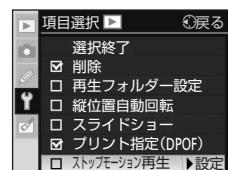
フルメニュー

すべてのメニュー項目が表示されます。

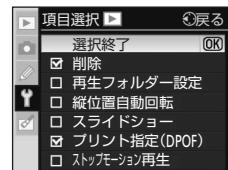
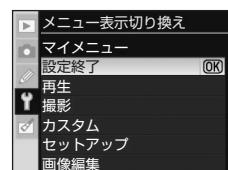
マイメニュー

あらかじめ登録したメニュー項目だけ表示されます。

［マイメニュー］の設定方法

1 ［セットアップメニュー］→［メニュー表示切り換え］→［マイメニュー］を選んでマルチセレクターの右を押す

- 右の画面が表示されます。

2 編集したいメニューを選んでマルチセレクターの右を押す

- 選んだメニューの項目が一覧表示されます。右の画面は、再生メニューを選んだ場合の表示例です。

3 マルチセレクターの上または下を押して、マイメニューに登録するメニュー項目を選ぶ

- チェックボックスをオン☑にした項目がマイメニューに登録され、オフ☐にすると登録されません。オン/オフを切り換えるには、そのメニュー項目を選んで、マルチセレクターの右を押してください。
- セットアップメニューの［メニュー表示切り換え］は、選べません。

4 ［選択終了］を選んで、**OK** ボタンを押す

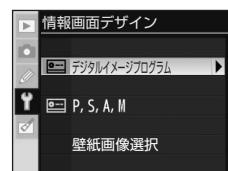
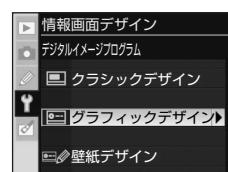
- 手順1の画面に戻ります。
- 手順2〜3を繰り返し、5種類のメニューそれぞれについて、マイメニューに登録する項目を設定します。

5 ［設定終了］を選んで **OK** ボタンを押す

- セットアップメニュー画面に戻ります。

情報画面デザイン

情報画面（8）のデザインを、デジタルイメージプログラム（撮影モードAUTO、、、、、、、）と、撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**のそれぞれで、次のような「クラシックデザイン」、「グラフィックデザイン」、「壁紙デザイン」の3種類から選べます。

クラシックデザイン（121）

グラフィックデザイン（8）

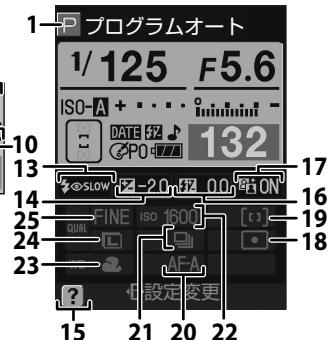
壁紙デザイン（122）

情報画面デザインの設定方法

1 ［デジタルイメージプログラム］または［P, S, A, M］を選んで、マルチセレクターの右を押す

2 画面デザインを選ぶ

3 背景色または文字色を選んで**OK**ボタンを押す

- ［グラフィックデザイン］を選んだときは、背景色を［ホワイト］、［ブラック］または［オレンジ］に変更できます。
- ［クラシックデザイン］を選んだときは、背景色を［ブルー］、［ブラック］または［オレンジ］に変更できます。
- ［壁紙デザイン］を選んだときは、文字色を［黒文字］または［白文字］に変更できます。

クラシックデザインについて

「クラシックデザイン」の表示内容は以下のとおりです。

カメラを横に構えたとき

カメラを縦に構えたとき

No.	項目	ページ
1	撮影モード	6
2	シャッタースピード	40～46
3	ISO AUTOマーク	111
4	デート写し込み設定表示	115
5	フォーカスポイント表示	26、30、58、59、60
	AFエリアモード表示	58
6	仕上がり設定表示	101
7	バッテリー残量表示	28
8	電子音表示	110
9	記録可能コマ数	28、178
	ホワイトバランスプリセットデータ取得モード表示	106
	PCカメラモード表示	81
10	マニュアル発光設定マーク	113
	外付けスピードライト調光補正マーク	150
11	露出インジケーター	45
	露出補正インジケーター	67
12	絞り値	40～46
13	フラッシュモード	65
14	露出補正値	67
15	ヘルプあり表示	13
16	調光補正値	68
17	アクティブD-ライティング	69
18	測光モード	62
19	AFエリアモード	58
20	フォーカスモード	57
21	レリーズモード	54
22	ISO感度	53
23	ホワイトバランスモード	52、103、104
24	画像サイズ	50
25	画質モード	50

壁紙デザインについて

「壁紙デザイン」の表示内容は「グラフィックデザイン」と同じです。撮影した画像を情報画面の壁紙に設定できます。ただし、絞りイメージ、シャッタースピードイメージや撮影モードダイヤルのグラフィック表示（⊠9）は表示されません。

「壁紙デザイン」で使う画像は以下の手順で設定してください。

1 ［情報画面デザイン］（⊠120：手順1）の項目から［壁紙画像選択］を選び、マルチセレクターの右を押す

- SDカードに記録されている画像が表示されます。

2 マルチセレクターの左または右を押して画像を選ぶ

- ⊕ボタンを押している間、選択中の画像を大きく表示できます。

3 **OK**ボタンを押す

- 設定が有効になり、セットアップメニューに戻ります。
- ［壁紙画像選択］で画像を設定すると、選択した画像は壁紙用の画像に変換され、カメラ内に保存されます。
- カメラ内に保存できる壁紙データはひとつだけです。［壁紙画像選択］で画像を設定すると、ご購入時や変更前に設定されていた壁紙データはカメラ内から削除され、新しく設定した画像に置き替わります。
- 壁紙用の画像は、SDカードにコピーしたり、カメラで再生したりすることができません。また、壁紙用の画像を他の画像に変更した場合、SDカードから削除された画像は再び設定できません。

情報画面の自動表示

- ［自動表示する］（初期設定）にすると、シャッターボタンを半押しして指をはなすだけで、液晶モニターに情報画面を表示できます。また、カスタムメニュー［07 撮影直後の画像確認］を［しない］に設定すると、撮影直後も情報画面が表示されます。撮影設定を確認する機会が多いときに便利です。
- ［自動表示しない］にすると、シャッターボタンの半押しでは情報画面を表示しません。
- 撮影モードがデジタルイメージプログラム（撮影モード AUTO、⊛、⊛、⊛、⊛、⊛、⊛、⊛）と、撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**のそれぞれについて設定することができます。
- この設定にかかわらず、シャッターボタンを押している間、液晶モニターは消灯します。

情報画面の自動消灯

する（初期設定）

情報画面の表示中にファインダーに顔を近づけると、アイセンサーが反応し、情報画面の表示を消灯して、ファインダー内下部の表示を点灯します。情報画面の表示中は、ファインダー内下部の表示は点灯しません。

しない

アイセンサーの機能をオフにし、情報画面の表示中もファインダー内下部表示を点灯します。

液晶モニターの明るさ

液晶モニターの明るさを設定します。

液晶の明るさ設定

液晶モニターの明るさを[－3]～[＋3]の7段階で調整できます。
初期設定は[0]です。

自動減光の設定

［する］（初期設定）に設定すると、バッテリーの消耗を抑えるため、情報画面の表示中に、時間経過とともに液晶モニターが暗くなります。

ビデオ出力

テレビやビデオなどに接続する場合のビデオ出力方式を［NTSC］または［PAL］から選びます。通常、日本国内では［NTSC］（初期設定）にします。［PAL］はPAL方式のテレビやビデオとの接続に使います。［PAL］にすると、画面がちらつくことがあります。

言語（LANG）

メニューやメッセージの表示言語を、以下の15種類から選べます。

De	Deutsch	ドイツ語
En	English	英語
Es	Español	スペイン語
Fi	Suomi	フィンランド語
Fr	Français	フランス語
It	Italiano	イタリア語
Nl	Nederlands	オランダ語
Pl	Polski	ポーランド語
Pt	Português	ポルトガル語
Ru	Русский	ロシア語
Sv	Svenska	スウェーデン語
繁	中文(繁體)	繁体中国語
简	中文(简体)	簡体中国語
日	日本語	日本語
한	한글	韓国語

画像コメント

あらかじめコメントを登録しておき、撮影する画像に添付できます。添付されたコメントは、ViewNXや別売のCapture NX（156）の撮影情報表示エリアに表示されます。

設定終了

変更を記憶してセットアップメニュー画面に戻ります。

コメント入力

画像コメントの入力画面が表示されます。英数字でコメントを入力し、ボタンを押すと、コメントが登録されます。

キーボードエリア
マルチセレクターで文字を選び、**OK**ボタンを押すと、コメントエリアに文字が入力されます。

コメントエリア
入力した文字が表示されます。コマンドダイヤルを回すと、カーソルが左右に移動します。

- コメントエリアのカーソルがある位置に、入力した文字が挿入されます。
- 入力できるのは 36 文字までです。37 文字以上入力すると、コメントエリアからあふれた文字が削除されます。
- 文字を削除したいときは、削除する文字の上にカーソルを移動し、ボタンを押します。その文字が削除され、後ろの文字が繰り上がります。
- コメントの登録をキャンセルしたいときは、**MENU** ボタンを押してください。

コメント添付

登録したコメントを画像に添付したい時は、［コメント添付］を選んでマルチセレクターの右を押し、チェックボックスをオン☑にします。［設定終了］を選んで**OK**ボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像にはすべてコメントが添付されます。

記録フォルダー設定（フルメニューで表示（118））

SDカード内にフォルダーを新規作成して、記録するフォルダーを選べます。

- 記録するフォルダー名は、3ケタの数字（フォルダー番号）と5ケタの英数字（フォルダーグループ名）で構成されています（例：100NCD60）。フォルダー番号は、自動的に付けられ、フォルダーグループ名は、自分で新規作成できます。

記録フォルダー選択

フォルダーグループを新規作成すると、画像を記録するフォルダーグループを選べます。

※ 記録フォルダーに設定したフォルダーグループは、［空フォルダー削除］で削除したり、SDカードを交換したりした場合でもそのまま表示されます。このフォルダーグループを選んだままで撮影すると、同じ名称のフォルダーグループが、再び作成されます。

新規作成

新しいフォルダーグループを作成してフォルダーグループ名（英数字）を付けます。ボタンを押すと、新規作成されます。

- グループ名エリアのカーソルがある位置に、入力した文字が挿入されます。
- 入力できるのは 5 文字までです。6 文字以上入力すると、グループ名エリアからあふれた文字が削除されます。
- 文字を削除したいときは、削除する文字の上にカーソルを移動し、ボタンを押します。その文字が削除され、後ろの文字が繰り上がります。
- フォルダーグループの新規作成やグループ名の変更を中止したいときは、MENU ボタンを押して、メニューに戻ってください。

フォルダー名変更

フォルダーグループ名の一覧から名称を変更したいフォルダーグループを選び、フォルダー名編集画面でフォルダーグループ名を変更できます。編集画面の操作方法は、新規作成時と同じです。初期設定のフォルダー名は変更できません。

空フォルダー削除

画像が1コマも記録されていないフォルダーグループがすべて削除されます。

フォルダー名について

- 使用中のフォルダー内の画像ファイルが999コマに達するか、ファイル番号が9999に達したときに撮影すると、同じグループ名でフォルダー番号が更新されたフォルダーが自動的に作成されます。
- 同じグループ名のフォルダーが複数ある場合、［記録フォルダー選択］でそのグループを選ぶと、同じグループ名でフォルダー番号が最大のフォルダーに記録されます。たとえば、101NCD60、102NCD60というフォルダーがある場合、［記録フォルダー選択］で［NCD60］を選ぶと、102NCD60に画像が記録されます。

連番モード（フルメニューで表示（☞118））

ファイル番号のつけ方を設定できます。

OFF（初期設定）

SDカードや画像を記録するフォルダーを変更するたびに、ファイル番号が「0001」に戻ります。

ON

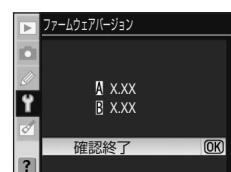
SDカードを交換したり、画像を記録するフォルダーを変更したりしても、以前からの続きのファイル番号を付けられます。
- ON から OFF に戻してもカメラはファイル番号を記憶しています。もう一度 ON に切り換えても、以前記憶した番号から連番がつきます。
- ファイル番号が 9999 に達したときに撮影すると、自動的に新規フォルダーが作成され、連番モードの設定にかかわらずファイル番号が 0001 番に戻ります。

リセット

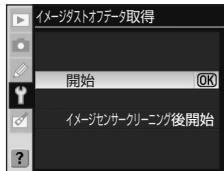
カメラが記憶しているファイル番号をリセットします。リセット後に撮影すると、新しいフォルダーが作成され、「0001」からの連番でファイル番号が付けられます。

ファイル番号について

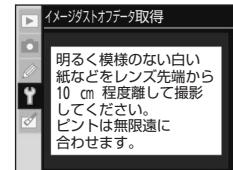
フォルダー番号が999に達しているときに、ファイル番号が9999に達するか、このフォルダー内のファイル数が999個に達した場合は、それ以上フォルダーを作成することができず、シャッターがきれません。また、液晶モニターには「メモリーカード空き容量不足」の警告メッセージが表示され、ファインダー内下部にFuLが点滅表示されます。この場合は、［連番モード］を［リセット］した後、SDカードをフォーマットするか、交換してください。

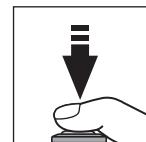
イメージセンサークリーニング（フルメニューで表示（☞118））

撮影素子上のローパスフィルター表面に付いたゴミをカメラが自動で取り除きます。詳しくは「ローパスフィルターを自動で掃除する（イメージセンサークリーニング）」（☞160）をご覧ください。

クリーニングミラーアップ（フルメニューで表示（☞118））

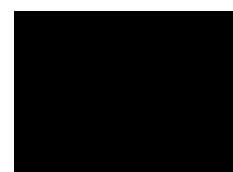
撮像素子上のローパスフィルターの汚れを調べたり、クリーニングしたりするために、ミラーを上げた状態で固定します。詳しくは「ローパスフィルターをブロアーで掃除する」（☞162）をご覧ください。

ファームウェアバージョン（フルメニューで表示（☞118））

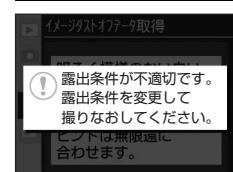
カメラを制御する「ファームウェア」のバージョンを表示します。

イメージダストオフデータ取得（フルメニューで表示（☞118））

別売のCapture NX（☞156）の「イメージダストオフ機能」を使うためのデータを取得します。「イメージダストオフ機能」とは、カメラのローパスフィルターに付いたゴミの写り込みを、RAW画像から取り除く機能です。詳しくは、別売のCapture NXの使用説明書をご覧ください。

イメージダストオフデータの取得方法

1 ［開始］または［イメージセンサークリーニング後開始］を選んで**OK**ボタンを押す

- 撮影後にイメージダストオフデータを取得するときは、［開始］を選んでください。右の画面が表示されます。
- イメージダストオフデータを取得してから撮影するときは、［イメージセンサークリーニング後 開始］を選んでください。イメージセンサークリーニング（☞160）を実行してから、右の画面になります。

- ファインダー内下部に、イメージダストオフデータ取得モード表示が表示されます。
- データ取得を中止したいときは、MENUボタンを押してください。

2 レンズ先端から10 cm程度離れた、明るく白い無地の被写体を画面いっぱいにとらえ、シャッターボタンを半押しする

- オートフォーカスのときは、カメラが自動的に無限遠にピントを合わせます。
- マニュアルフォーカスのときは、手動で無限遠に合わせてください。

3 シャッターボタンを押し込んで撮影する

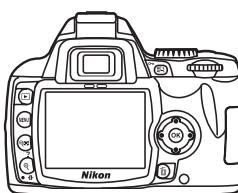
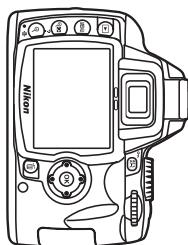
- シャッターボタンを押すと、液晶モニターが消灯します。

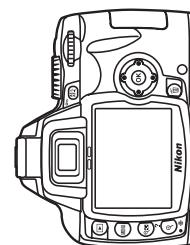
- 被写体が明るすぎたり暗すぎたりしたために、データが取得できなかった場合は、右の画面が表示され、手順1の状態に戻ります。被写体の明るさを変えて、もう一度撮影してください。

☑ イメージセンサークリーニングについてのご注意

撮影とイメージダストオフデータ取得の間にイメージセンサークリーニングが行われると、撮影時とデータ取得時でローパスフィルター上のゴミの位置が変わってしまい、ゴミの写り込みを取り除けません。このカメラは、電源をON/OFFするとイメージセンサークリーニングを行います（初期設定）。イメージダストオフデータを取得する場合は、セットアップメニュー［イメージセンサークリーニング］の［電源スイッチに連動］（☞161）を［実行しない］にすることをおすすめします。

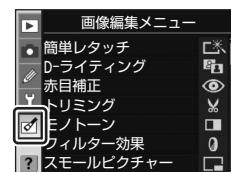
イメージダストオフデータ取得について

- 非CPUレンズをお使いの場合は、［イメージダストオフデータ取得］は選べません。
- お使いになるCPUレンズは、焦点距離が50mm以上のものをおすすめします（146）。
- ズームレンズは望遠側にしてください。
- 取得したイメージダストオフデータは、データ取得後にレンズや絞り値を変更して撮影した画像にも適用できます。
- イメージダストオフデータを画像処理ソフトウェアなどで開くことはできません。
- イメージダストオフデータをカメラで再生すると、右の画面が表示されます。ヒストグラム、ハイライトは表示できません。

縦横位置情報の記録（フルメニューで表示（118））

撮影時のカメラの縦横位置情報（姿勢）を画像に記録するかどうかを設定します。

- ［する］（初期設定）のときは、液晶モニターやViewNX、別売のCapture NX（156）で画像を再生するときに、記録した縦横位置情報を利用して、自動的に画像を回転表示します。

  記録されるカメラの姿勢情報は、以下の3種類です。

横位置

縦位置
時計回りに 90°回転

縦位置
反時計回りに 90°回転

  レリーズモード（54）を（連写）にしたときは、最初の1コマを撮影した縦横位置が記録されます。連写中に構図を変えても、縦横位置情報には反映されません。

  カメラを上向き・下向きにして撮影すると、縦横位置情報を正しく得られないことがあります。

- ［しない］にすると、再生時には常に横位置で表示されます。

画像編集メニュー（撮影した画像の編集）

［画像編集メニュー］では、SDカード内の撮影済み画像に、様々な特殊効果を加えたり、RAW画像をRAW現像してJPEG画像を作成したりして、編集を行うことができます。画像を編集すると、元の画像とは別に、新しい画像として記録されます。画像編集メニューには、以下の項目があります。

- メニューの操作方法については「メニューの操作方法」（94）をご覧ください。

簡単レタッチ 132

コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を簡単に作成できます。

D-ライティング 132

撮影後に逆光やフラッシュの光量不足などで暗くなった被写体を明るく補正します。

赤目補正 133

「赤目現象」のために人物の瞳の部分が赤くなってしまった画像を補正します。

トリミング 134

画像の必要な部分だけを切り抜きます。

モノトーン 134

モノトーンの画像（1色の明暗だけで表現された画像）を作成します。

フィルター効果 135

画像全体の色調を演出できます。

スモールピクチャー 136

SDカード内の画像から、サイズを小さくした別の画像を作ります。

画像合成 138

2コマのRAW画像を合成して、1コマの画像にします。

RAW現像 140

画質モード［RAW］または［RAW+B］（51）で記録したRAW画像を、カメラでRAW現像してJPEG画像を作成します。

ストップモーション作成 141

SDカード内の画像から動画ファイルを作成します。

編集前後の画像表示 143

画像編集で作成した画像を、編集前の画像と並べて表示して、画像編集の効果を確認できます。このメニュー項目は、編集前または編集後の画像を1コマ表示して**OK**ボタンを押したときのみ表示されます。

セットアップメニューの［メニュー表示切り換え］（118）を［マイメニュー］にしたときは、マイメニューに登録したメニュー項目だけが表示されます（119）。

画像編集について

- 画像編集によって作成した画像に、さらに画像編集を行うこともできますが、画像が粗くなったり、退色したりする場合があります。ただし、以下の画像編集は行えません。
  - 同じ画像編集を繰り返し行うこと
  - ［簡単レタッチ］で作成した画像に対して［D-ライティング］の画像編集を行うこと
  - ［D-ライティング］で作成した画像に対して［簡単レタッチ］の画像編集を行うこと
  - ［トリミング］、［スモールピクチャー］で作成した画像に対してさらに画像編集を行うこと
  - ［モノトーン］で作成した画像に対して、さらに［簡単レタッチ］、［D- ライティング］、［赤目補正］、［クロススクリーン］以外の［フィルター効果］の画像編集を行うこと
  - ［クロススクリーン］以外の［フィルター効果］で作成した画像に対して、別の［クロスフィルター］以外の［フィルター効果］の画像編集を行うこと
  - ［RAW現像］の［仕上がり設定］を［白黒］にしてRAW現像した画像に対して、［簡単レタッチ］、［D- ライティング］、［赤目補正］、［モノトーン］、［クロススクリーン］以外の［フィルター効果］の画像編集を行うこと
- 撮影メニュー［仕上がり設定］（☞101）を［白黒］にして撮影した画像に対して、［簡単レタッチ］、［D- ライティング］、［赤目補正］、［モノトーン］、［クロススクリーン］以外の［フィルター効果］の画像編集を行うことはできません。
- D60以外で撮影または編集した画像やパソコンで編集した画像は、D60では再生または編集できないことがあります。
- 画像編集中に何も操作しないまま 12 秒（初期設定）経過すると、液晶モニターが消灯し、編集中の画像は保存されません。カスタムメニューの［15 パワーオフ時間］（☞114）を［長め］に設定するか、［カスタマイズ］を選んで［再生/メニュー表示］の時間を長く設定することをおすすめします。

画像編集の基本操作

1 画像編集メニューを表示して、メニュー項目を選ぶ（☞94）

2 マルチセレクターの右を押す

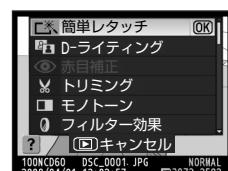
- 画像の選択画面が表示されます。

3 マルチセレクターの左または右を押して画像を選ぶ

- ボタンを押している間、選んだ画像を大きく表示できます。

4 OKボタンを押す

・機能ごとの操作画面が表示されます。各編集機能の説明をご覧ください。
・画像編集を途中でやめるときは、▶ボタンを押してください。再生モードの1コマ表示に戻ります。

再生中の画像を編集するには

再生モードで画像を選んでからOKボタンを押しても、画像編集ができます（[画像合成］を除く）。

1 再生モードの1コマ表示（72）で編集したい画像を選ぶ

2 OKボタンを押す

・画像編集の項目が表示されます。

3 マルチセレクターの上または下でメニュー項目を選ぶ

・［画像合成］は表示されません。

4 マルチセレクターの右を押す

・機能ごとの操作画面が表示されます。各編集機能の説明をご覧ください。
・画像編集を途中でやめるときは、▶ボタンを押してください。再生モードの1コマ表示に戻ります。

簡単レタッチ

コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を簡単に作成できます。

カメラがD-ライティングの機能を使って、画像の暗い部分を明るく補正したり、コントラストと彩度（色の鮮やかさ）を高めたりします。

マルチセレクターを上または下に押すと、効果の度合いを［強め］、［標準］、［弱め］の3段階から選べます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画面で確認できます。

OKボタンを押すと、編集した画像が記録され、再生モードの1コマ表示になります。

画質モードと画像サイズについて

作成した画像は、元画像と同じ画質モードと画像サイズで記録されます。ただし、元画像の画質モードが［RAW］または［RAW+BASIC］のときは、画質モード［FINE］、画像サイズ［L］のJPEG画像が作成されます。

D-ライティング（画像の暗い部分を明るく補正する）

D-ライティングでは、画像の暗い部分だけを明るく補正できます。逆光で撮影したために顔の部分だけが暗くなってしまった画像や、フラッシュの光量不足で暗くなってしまった画像などに効果的です。

D- ライティング前

D- ライティング後

- プレビュー画像を見ながら、マルチセレクターで効果の度合いを［強め］、［標準］、［弱め］の3段階から選びます。
- **OK**ボタンを押すと編集した画像が記録され、再生モードの1コマ表示になります。

画質モードと画像サイズについて

作成した画像は、元画像と同じ画質モードと画像サイズで記録されます。ただし、元画像の画質モードが［RAW］または［RAW+BASIC］のときは、画質モード［FINE］、画像サイズ［L］のJPEG画像が作成されます。

赤目補正

フラッシュ撮影時の「赤目現象」によって、人物の瞳の部分が赤くなってしまった画像を補正できます。編集画面では、プレビュー画像が表示され、以下の操作ができます。

- 赤目補正はフラッシュを使用して撮影した画像のみで行えます。
- カメラが赤目現象を検出できない画像は補正できません。
- 画像によっては、望ましい結果が得られないことがあります。また、ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。画像を保存する前に、プレビュー画像で効果をよく確認してください。

<table>
<tr><th>機能</th><th>ボタン</th><th colspan="2">内容</th></tr>
<tr><td>拡大率を上げる</td><td>⊕</td><td>⊕ボタンを押すごとにプレビュー画像の拡大率が上がります。</td><td rowspan="3">プレビュー画像の拡大表示中にこれらの操作を行うと、画面の右下に画像全体が縮小表示され、拡大表示中の部分が黄色い枠で囲んで示されます。数秒すると消えますが、再度操作すると表示されます。</td></tr>
<tr><td>拡大率を下げる</td><td>⊖</td><td>プレビュー画像の拡大再生中は、⊖ボタンを押すごとに拡大率が下がります。</td></tr>
<tr><td>画面をスクロール（移動）させる</td><td>マルチセレクター</td><td>プレビュー画像の拡大再生中は、画面をスクロールさせて、見たい部分に移動できます。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。</td></tr>
<tr><td>拡大表示を終了する</td><td>OK</td><td colspan="2">拡大表示中にOKボタンを押すと、拡大表示を終了します。</td></tr>
<tr><td>画像を保存する</td><td>OK</td><td colspan="2">補正した画像が記録され、再生モードの1 コマ表示になります。</td></tr>
</table>

画質モードと画像サイズについて

作成した画像は、元画像と同じ画質モードと画像サイズで記録されます。ただし、元画像の画質モードが［RAW］または［RAW+BASIC］のときは、画質モード［FINE］、画像サイズ［L］のJPEG画像が作成されます。

トリミング（画像の一部を切り抜く）

画像の必要な部分だけを切り抜きます。
トリミング画像の切り抜く部分のプレビューが表示され、以下の操作ができます。

機能	ボタン	内容
切り抜く範囲を狭くする	⊕	⊕ボタンを押すごとにトリミングで切り抜く範囲は狭くなります。
切り抜く範囲を広くする	⊖	⊖ボタンを押すごとにトリミングで切り抜く範囲は広くなります。
画面をスクロール（移動）させる	マルチセレクター	トリミングで切り抜く範囲を移動します。画面をスクロールさせて、切り抜きたい部分をプレビュー画像に表示します。
トリミングを実行して画像を保存する	**OK**	トリミングした画像が記録され、再生モードの1コマ表示になります。

トリミング画像の画質モードと画像サイズについて

トリミング画像の画質モード（50）は、元画像の画質モードが［RAW］、［RAW+BASIC］のときは［FINE］になり、［FINE］、［NORMAL］、［BASIC］のときは元画像と同じ画質モードになります。画像サイズ（50）は切り抜く範囲に応じて、以下の中から自動的に決定されます。

・2560 × 1920　・1920 × 1440　・1280 × 960　・960 × 720　・640 × 480

モノトーン

［モノトーン］を選ぶと、以下の色調を選べます。

白黒

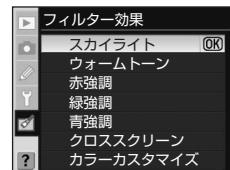
モノクロになります。

セピア

セピア色（褐色）のモノトーンになります。

クール

ブルー系のモノトーンになります。

- ［セピア］または［クール］を選んだときは、マルチセレクターを上または下を押して色の濃さを調整できます。調整した色の濃さはプレビュー画像に反映されます。
- **OK**ボタンを押すと編集した画像が記録され、再生モードの1コマ表示になります。

画質モードと画像サイズについて

作成した画像は、元画像と同じ画質モードと画像サイズで記録されます。ただし、元画像の画質モードが［RAW］または［RAW+BASIC］のときは、画質モード［FINE］、画像サイズ［L］のJPEG画像が作成されます。

フィルター効果

以下のフィルター効果を選べます。

スカイライト

スカイライトフィルターと同様に、画像の青みを抑える効果があります。

ウォームトーン

画像を暖色にする効果があります。

赤強調

赤色が強調されます。

緑強調

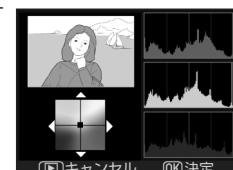
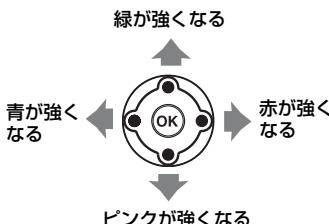
緑色が強調されます。

青強調

青色が強調されます。

クロススクリーン

クロススクリーンフィルターと同様に、輝度の高い部分からクロス状に光の線を出す効果があります。次の項目を設定します。

- ［光線の本数］：光線の本数を 3 種類から設定します。
- ［クロスの量］：クロスフィルターがかかる光源の量を 3 段階から設定します。
- ［光線の傾き］：光線の傾きを 3 種類から設定します。
- ［光線の長さ］：光線の長さを 3 段階から設定します。

設定後、［確認］を選んで**OK**ボタンを押すと、画面左のプレビュー上で作成を行います。［保存］を選んで**OK**ボタンを押すと、現在の設定値で編集を行った画像が記録され、再生モードの1コマ表示になります。

カラーカスタマイズ

右のような画面が表示され、マルチセレクターの上下左右を押すたびに、画像全体の色調が以下のように変わります。

色調を操作すると、プレビュー画像と画像右側のR（赤色）、G（緑色）、B（青色）に分かれたヒストグラム（☞75）に反映されます。

OKボタンを押すと編集した画像が記録され、再生モードの1コマ表示になります。

画質モードと画像サイズについて

作成した画像は、元画像と同じ画質モードと画像サイズで記録されます。ただし、元画像の画質モードが［RAW］または［RAW+BASIC］のときは、画質モード［FINE］、画像サイズ［L］のJPEG画像が作成されます。

スモールピクチャー（小さいサイズの画像を作成する）

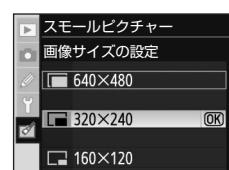
小さいサイズの画像を作成します。画質モードは［FINE］になります。次のサイズから選べます。

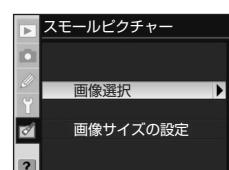
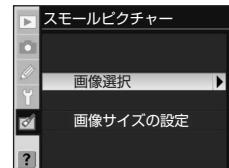
	640×480
	テレビでの表示に適しています。
	320×240
	ホームページでの使用に適しています。
	160×120
	電子メールへの添付に適しています。

再生モードの1コマ表示で画像を選んでからスモールピクチャーを作成する手順は、「再生中の画像を編集するには」（131）と同様の操作ですが、MENUボタンを押して画像編集メニューを選ぶと、複数の画像のスモールピクチャーを作成できます。

画像編集メニューで［スモールピクチャー］を選ぶと、手順1の画面が表示されます。

複数の画像のスモールピクチャーを作成するには、以下の手順に従ってください。

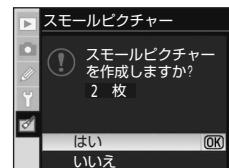
1 ［画像サイズの設定］を選ぶ

2 マルチセレクターの右を押す

・画像サイズの選択画面が表示されます。

3 作成したいサイズを選ぶ

4 OKボタンを押す

・サイズが決定し、右の画面が表示されます。

5 ［画像選択］を選ぶ

6 マルチセレクターの右を押す

- 画像選択画面が表示されます。

7 マルチセレクターの左または右を押して画像を選び、マルチセレクターの上または下を押して を表示させる

- 選択を解除したいときは、マルチセレクターの上または下を押してください。
- ボタンを押している間、選択中の画像が1コマ表示されます。

8 **OK** ボタンを押す

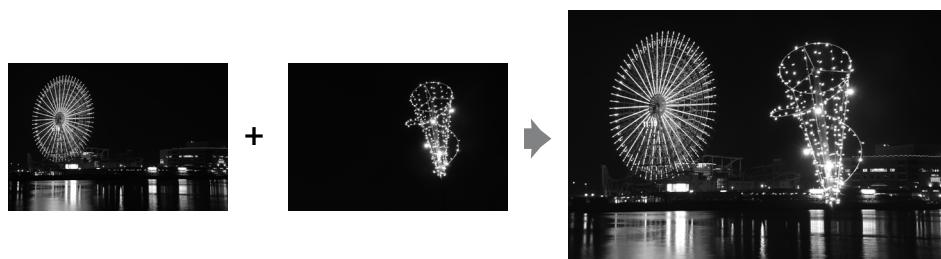
- 確認画面が表示されます。

9 ［はい］を選んで**OK**ボタンを押す

- スモールピクチャーが記録され、再生モードの1コマ表示になります。
- 画像を選び直したいときは、［いいえ］を選んで**OK**ボタンを押してください。手順7の画面に戻ります。
- **MENU**ボタンを押すと、保存せずに画像編集メニューに戻ります。

デート写し込みを使って撮影した画像のご注意

カスタムメニュー［18 デート写し込み設定］（115）で日時を写し込んだ画像をスモールピクチャーにすると、日時が読みにくくなることがあります。

スモールピクチャーについて

- スモールピクチャーは再生モードの1コマ表示、サムネイル表示や、画像選択画面で、グレーの枠付きで表示されます。
- スモールピクチャーは拡大表示できません。

画像合成（別の画像を重ねる）

SDカードに記録されているRAW画像2コマを重ね合わせて1コマの画像に合成できます。

- 画像編集メニューで［画像合成］を選ぶ前に、撮影設定変更画面（🔍48）または撮影メニュー（🔍100）で画質モード（🔍50）と画像サイズ（🔍50）を設定してください。画像合成で作成される画像は、合成時の撮影設定変更画面または撮影メニューの画質モードと画像サイズで保存されます。
  また、画質モード［RAW］で保存すると、さらに別のRAW画像と合成できます。

+
1 画像編集メニューで［画像合成］を選んで、マルチセレクターの右を押す

- 右のような画面が表示され、［画像 1］欄がハイライト表示されます。

2 **OK**ボタンを押す

- SDカードに記録されているRAW画像が一覧表示されます。

3 マルチセレクターの左または右を押して合成する画像の1コマ目を選ぶ

- 🔍ボタンを押している間、選んだ画像を大きく表示できます。

4 **OK**ボタンを押す

- 選んだ画像が1コマ目に設定され、［画像1］欄にプレビューが表示されます。

5 マルチセレクターの上または下を押して［画像1］のゲインを設定する

- 合成画像の明るさが適正になるように、ゲイン（出力）を設定します。
- ゲインは0.1～2.0の範囲で設定できます。
- 各数値は初期設定の 1.0（補正なし）を基準にした比率です。たとえば0.5にするとゲインは約半分になります。
- ［プレビュー］欄で、合成後のイメージを確認できます。

6 マルチセレクターの右または左を押して［画像2］を選ぶ

- **OK** ボタンを押すと、再度RAW画像が一覧表示されます。
- 手順3～5と同様の操作で2コマ目の画像を選び、ゲインを設定してください。

7 マルチセレクターの左または右を押して［プレビュー］欄に移動する

- ［合成］を選んで**OK** ボタンを押すと、プレビュー画像が表示されます。手順8に進んでください。
- ［保存］を選んで**OK** ボタンを押すと、合成画像の確認をせずに、合成画像が保存されます。

8 画像を確認して、OK ボタンを押す

- 合成画像が保存され、再生モードの1コマ表示になります。

画像合成について

- 合成できる画像は、D60 で撮影した RAW 画像だけです。機種の異なるカメラや RAW 以外の画質モードで撮影した画像は、画像のサムネイル一覧に表示されません。
- 合成画像のホワイトバランス、仕上がり設定、撮影データ（撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正値、焦点距離、縦横位置情報など）は、［画像1］で選んだ画像の内容を引き継ぎます。

RAW現像（パソコンを使わずにRAW現像する）

画質モード［RAW］または［RAW+B］（51）で記録したRAW画像を、カメラでRAW現像してJPEG画像を作成できます。

1 ［RAW現像］を選んでマルチセレクターの右を押す

- RAW画像がサムネイル表示されます。

2 マルチセレクターの左または右を押して、RAW画像を選ぶ

- 画像を選んだら、**OK**ボタンを押します。

3 ［画質モード］、［画像サイズ］、［ホワイトバランス］、［露出補正］、［仕上がり設定］をそれぞれ設定する

［**画質モード**］：画質モードを［FINE］［NORM］［BASIC］の中から選べます（50）。

［**画像サイズ**］：画像サイズを［L］［M］［S］の中から選べます（50）。

［**ホワイトバランス**］：ホワイトバランスを設定できます。
- ホワイトバランスの種類について→52
- 蛍光灯の種類について→103
- 微調整の操作方法について→104：手順2

［プリセットマニュアル］で撮影したRAW画像は、RAW現像で［プリセットマニュアル］の微調整もできます。

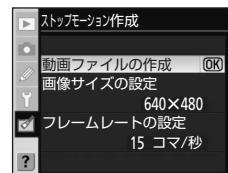
［**露出補正**］：明るさを－3～＋3までの範囲で設定できます。

［**仕上がり設定**］：仕上がり設定を設定できます（101）。

- 設定が完了したら、［現像］を選びます。

4 **OK**ボタンを押す

- RAW現像後のJPEG画像が保存され、再生モードの1コマ表示になります。
- RAW現像をやめるときは、MENUボタンまたは▶ボタンを押します。

RAW現像についてのご注意

- D60でRAW現像できる画像は、D60で撮影したRAW画像だけです。
- ［ホワイトバランス］を［プリセットマニュアル］以外で撮影した画像では、RAW現像の［ホワイトバランス］の［プリセットマニュアル］は選べません。
- ［画像合成］で編集した画像には、［ホワイトバランス］を選べません。
- ［アクティブD-ライティング］を［ON］にして撮影した画像には、［露出補正］を選べません。
- 撮影モードAUTO、、、、、、、、で撮影した画像には、［ホワイトバランス］と［仕上がり設定］を選べません。

ストップモーション作成

D60で撮影した画像をつなげて、動画として記録します。

動画ファイルの作成

ストップモーションに使用する画像を選んで、動画ファイルを作成します。

画像サイズの設定

動画ファイルの画像サイズを［640×480］、［320×240］、［160×120］から選びます。

フレームレートの設定

1秒あたりのコマ数を［15 コマ/秒］、［10 コマ/秒］、［6 コマ/秒］、［3 コマ/秒］から選びます。

ストップモーションの作成方法

1 ［ストップモーション］画面で［動画ファイルの作成］を選び**OK**ボタンを押す

- 右の画面が表示されます。

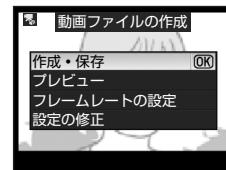
2 マルチセレクターの左または右を押して、先頭画像を選ぶ

- ストップモーションの1コマ目にする画像を選んでください。
- マルチセレクターを押し続けると、高速でサムネイルを移動します。
- 選択後、**OK**ボタンを押してください。

3 マルチセレクターの左または右を押して、終了画像を選ぶ

- マルチセレクターを押し続けると、高速でサムネイルを移動します。
- 先頭画像と終了画像の間の画像には左上に✔が表示されます。
- ストップモーションで使用できる画像は最大100コマです。

4 **OK**ボタンを押す

- そのまま作成したり、プレビューを見たりするときは、手順6に進んでください。
- ストップモーションに入れたくない画像があるときや、先頭画像、終了画像を修正したいときは、［修正］を選んで**OK**ボタンを押し、手順5に進んでください。

5 ［先頭画像］、［中間画像］、［終了画像］の中から修正したい項目を選び、**OK**ボタンを押す

- ［先頭画像］を選んだときは、手順2と同様の操作でもう一度先頭画像を選んでください。決定すると手順4の画面に戻ります。
- ［終了画像］を選んだときは、手順3と同様の操作でもう一度終了画像を選んでください。決定すると手順4の画面に戻ります。
- ［中間画像］を選ぶと、ストップモーションに入れたくない画像を除くことができます。除きたい画像を選んでマルチセレクターの上または下を押してください。画像の✔が消えます。設定が終わったら**OK**ボタンを押してください。手順4の画面に戻ります。
- 修正せずに作成するときは［修正しない］を選んで**OK**ボタンを押してください。

6 ［作成］を選んで**OK**ボタンを押す

- 右の画面で、［作成・保存］を選んで**OK**ボタンを押すと、動画ファイルを作成して保存します。保存が終了すると、先頭画像が再生モードで1コマ表示されます。
- ［プレビュー］を選ぶと、保存する前に、設定した内容でストップモーションを再生できます。プレビュー中は、保存後のストップモーション再生と同様に一時停止、巻き戻しや早送りができます（99）。
- ［フレームレートの設定］を選ぶと、1秒あたりのコマ数を変更できます。
- ［設定の修正］を選ぶと、手順5に戻ります。

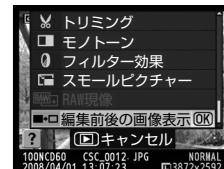
ストップモーションについてのご注意

D60以外で撮影した画像や、［トリミング］や［スモールピクチャー］で作成した画像は選択できません。

ストップモーションを再生するには

- 作成したストップモーションの動画ファイルには、再生モードの1コマ表示、サムネイル表示でが表示されます。1コマ表示で**OK**ボタンを押すか、再生メニューの［ストップモーション再生］を使って再生できます（99）。
- ストップモーションで作成した動画のファイル名については「ファイル名について」（51）をご覧ください。

編集前後の画像表示（編集結果を見比べる）

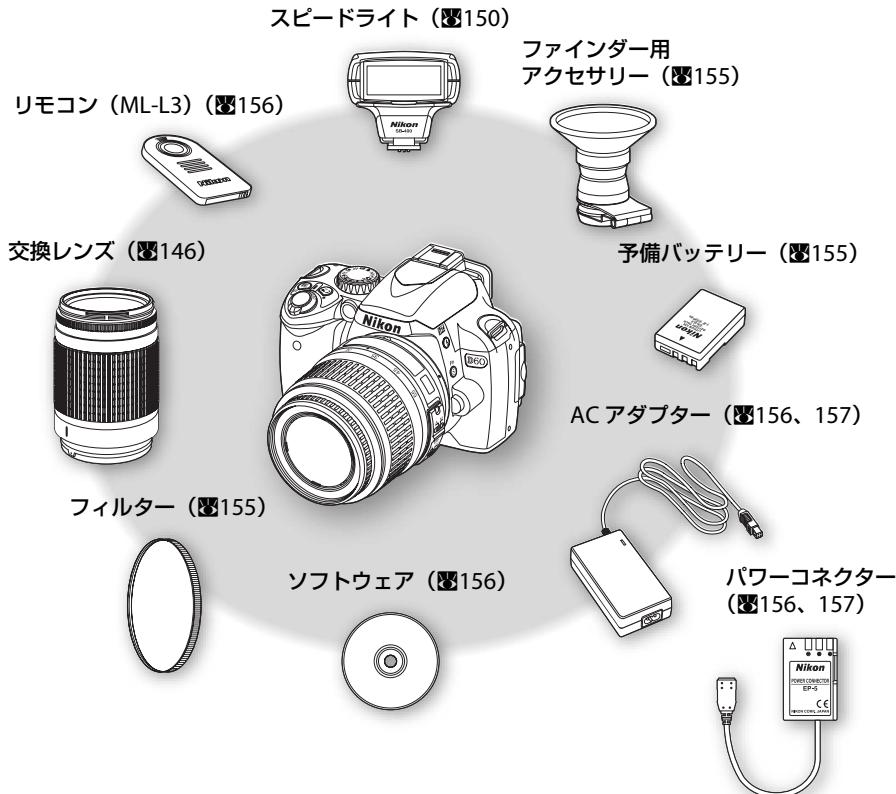
画像編集で作成した画像を、編集前の画像と並べて表示して、画像編集の効果を確認できます。このメニュー項目は、編集元または編集後の画像を1コマ表示して**OK**ボタンを押したときのみ表示されます（131）。

1 再生モードの 1 コマ表示で編集前の画像または編集後の画像を選び、**OK**ボタンを押す

- 画像編集の項目が表示されます。

2 マルチセレクターの上または下で［編集前後の画像表示］を選ぶ

- 画像編集で作成した画像と画像編集の元画像以外では選べません。

3 **OK**ボタンを押す

- 編集前の画像を左側、編集後の画像を右側に表示します。
- 画像編集の内容は、2つの画像の上に表示されます。
- 画像を囲んでいる黄色い枠上の矢印（▲▼◀▶）の方向にマルチセレクターを押すと、編集前や編集後の画像を切り換えられます。
  - マルチセレクターの左または右を押すと、編集前/編集後の画像を切り換えられます。
  - 同一の元画像から作成した複数の編集画像があるときは、編集後の画像を選んでから、マルチセレクターの上または下を押すと、別の編集画像に切り換えられます。
  - 画像合成の元画像を選ぶと、マルチセレクターの上または下を押して2コマの元画像を切り換えられます。
- Qボタンを押している間、選択中の画像が1コマ表示されます。
- **OK**ボタンを押すと、通常再生に戻り、黄色い枠で選択していた画像を1コマ表示します。

使用できるアクセサリー

この章では、D60と一緒にお使いいただけるアクセサリーと、お使いになる際の注意事項について説明しています。

・ D60に使用できる別売アクセサリーについての最新情報は、最新のカタログや当社のホームページなどでご確認ください。

アクセサリーについてのご注意

D60には、ニコン製のアクセサリーをお使いいただくことをおすすめします。他社製アクセサリーは、カメラの故障や不具合の原因となることがあります。他社製アクセサリー使用によるカメラの不具合については、保証の対象となりませんので、ご了承ください。

取り付けできるレンズ

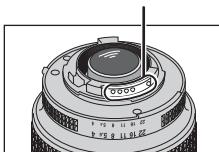
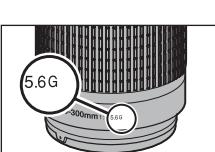
	モード／レンズ	フォーカスモード			撮影モード		測光モード		
							マルチパターン測光		中央部重点測光/スポット測光
		オートフォーカス	フォーカスエイド	マニュアル	M以外	M	3D-RGB	RGB	
CPUレンズ※1	AF-Iレンズ、AF-Sレンズ※2	○	○	○	○	○	○	×	○※3
	Gタイプ、DタイプのAFレンズ※2	×	○	○	○	○	○	×	○※3
	PCマイクロ85mm f/2.8D※4	×	○※5	○	×	○	○	×	○※3
	AF-S/AF-Iテレコンバーター※6	○※7	○※7	○	○	○	○	×	○※3
	Gタイプ・Dタイプ以外のAFレンズ（F3AF用を除く）	×	○※8	○	○	○	×	○	○※3
	AI-Pレンズ	×	○※9	○	○	○	×	○	○※3
非CPUレンズなど※10	AI-S、AI、AI改造レンズ、シリーズEレンズ※11	×	○※9	○	×	○※12	×	×	×
	メディカル120mm f/4	×	○	○	×	○※13	×	×	×
	レフレックスレンズ	×	×	○	×	○※12	×	×	×
	PCレンズ	×	○※5	○	×	○※12	×	×	×
	AI-S、AI テレコンバーター	×	○※7	○	×	○※12	×	×	×
	ベローズアタッチメント PB-6※14	×	○※7	○	×	○※12	×	×	×
	オート接写リング（PK-11A、12、13、PN-11）	×	○※7	○	×	○※12	×	×	×

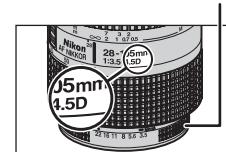
※1　IXレンズは装着できません。
※2　このカメラはVRレンズのVR（手ブレ補正）機能に対応しています。
※3　スポット測光エリアは、フォーカスポイントに連動します（☞62）。
※4　カメラの測光モードおよび調光制御機能は、アオリ操作（シフトまたはティルト）をしているとき、または開放絞り以外に絞りが設定されているときには、正しく機能しません。
※5　アオリ操作をしていない場合のみ可能。
※6　AF-Sレンズ、AF-Iレンズ専用（☞148）。
※7　合成絞り値がf/5.6 以上明るい場合に使用可能。
※8　AF80–200mm f/2.8S、AF35–70mm f/2.8S、AF28–85mm f/3.5–4.5S <New>、AF28–85mm f/3.5–4.5Sレンズを使って、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスのピント表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスでファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせてください。

※9　開放絞りがf/5.6以上明るいレンズのみ使用可能。
※10 一部、装着できないレンズがあります（☞147）。
※11 AI ED 80–200mm f/2.8Sの三脚座を回転するとカメラと干渉するため、回転方向に制限があります。AI ED 200–400mm f/4Sをカメラに装着したままでのフィルター交換はできません。
※12 露出インジケーターは使用できません。
※13 露出モードが**M**でシャッタースピードが1/125 秒以下のときに使えます。露出インジケーターは使用できません。
※14 縦位置にして装着してください（装着後、横位置に戻すことは可能です）。

・ 複写装置 PF-4にはカメラアダプター PA-4を併用すると装着できます。

使用できないレンズ
次の非CPUレンズは使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。
・ AFテレコンバーター TC-16AS
・ AI改造をしていないレンズ（AI方式以前の連動爪を使用するタイプ）
・ フォーカシングユニット AU-1を必要とするレンズ（400mm f/4.5、600mm f/5.6、800mm f/8、1200mm f/11）
・ フィッシュアイ（6mm f/5.6、7.5mm f/5.6、8mm f/8、OP10mm f/5.6）
・ 2.1cm f/4
・ 接写リング K2
・ ED180–600mm f/8（製品No.174041～174180）
・ ED360–1200mm f/11 （製品 No.174031～174127）
・ 200–600mm f/9.5（製品 No.280001～300490）
・ F3AF用（AF80mm f/2.8S、AF ED 200mm f/3.5S、テレコンバーター TC-16S）
・ PC 28mm f/4（製品 No.180900以前の製品）
・ PC 35mm f/2.8（製品 No.851001～906200）
・ 旧PC 35 mm f/3.5
・ 旧レフレックス1000mm f/6.3
・ レフレックス1000mm f/11（製品 No.142361～143000）
・ レフレックス2000mm f/11（製品 No.200111～200310）

オートフォーカスで撮影できるレンズについて
このカメラでピントをオートフォーカスで合わせるには、AF-SレンズまたはAF-Iレンズが必要です。AF-S、AF-Iレンズは、オートフォーカス用のモーターを内蔵したレンズです。AF-SやAF-I 以外のオートフォーカス（AF）レンズを取り付けても、このカメラではオートフォーカス撮影できません。

レンズの開放F値とは
レンズの明るさを示す数値で、そのレンズで最も絞りを開いたときの絞り値を意味します。レンズ名称の最後のほうに「f/2.8」「f/3.5–5.6」などと記されています。

CPUレンズ、Gタイプレンズ、Dタイプレンズの見分け方
CPUレンズにはCPU 信号接点があります。Gタイプレンズには「G」マークが、Dタイプレンズには「D」マークが付いています。G タイプレンズには、絞りリングがありません。

CPU 信号接点

CPU レンズ

G タイプレンズ

絞りリング

D タイプレンズ

AF-S/AF-Iテレコンバーターについて

AF-S/AF-Iテレコンバーターは、AF-SレンズとAF-Iレンズ専用のテレコンバーターです。使用できるレンズは、以下のとおりです。

AF-S VR ED 70–200mm f/2.8G
AF-S ED 80–200mm f/2.8D
AF-S VR マイクロED 105mm f/2.8G※1
AF-S VR ED 200mm f/2G
AF-S VR ED 200–400mm f/4G※2
AF-S VR ED 300mm f/2.8G
AF-S ED 300mm f/2.8D II
AF-S ED 300mm f/2.8D
AF-I ED 300mm f/2.8D
AF-S ED 300mm f/4D※2
AF-S NIKKOR 400mm f/2.8G ED VR
AF-S ED 400mm f/2.8D II
AF-S ED 400mm f/2.8D
AF-I ED 400mm f/2.8D
AF-S NIKKOR 500mm f/4G ED VR※2
AF-S ED 500mm f/4D II※2
AF-S ED 500mm f/4D※2
AF-I ED 500mm f/4D※2
AF-S NIKKOR 600mm f/4G ED VR※2
AF-S ED 600mm f/4D II※2
AF-S ED 600mm f/4D※2
AF-I ED 600mm f/4D※2

※1 AF撮影はできません。
※2 AF-Sテレコンバーター TC-17E II/TC-20E II との組み合わせでは、AF撮影はできません。

CPUレンズの絞りリングについて

CPUレンズ（Gタイプレンズを除く）の絞りリングは、必ず最小絞り（最大値）にセットしてください。

非CPUレンズについてのご注意

非CPUレンズは、撮影モードMのみで使えます。絞りの設定や確認はレンズの絞りリングで行ってください。カメラの露出計は使えません。i-TTLモードでのフラッシュ撮影などの機能は使えません。

AF補助光撮影に制限のあるレンズについてのご注意

AF補助光を使ってのオートフォーカス撮影ができるレンズの焦点距離は24～200mm、AF補助光が届く距離の目安は約0.5～3 mです。
ただし、次のレンズではAF補助光を使ってのオートフォーカス撮影はできません。

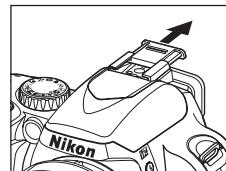
- AF-S NIKKOR 14–24mm f/2.8G ED
- AF-S VR ED 70–200mm f/2.8G
- AF-S ED 80–200mm f/2.8D
- AF-S VR ED 200mm f/2G
- AF-S VR ED 200–400mm f/4G
- AF-S VR ED 300mm f/2.8G

また、以下のレンズでは、撮影距離1 m以内でAF補助光がレンズによってさえぎられる場合があります。この場合、AF補助光を使ってのオートフォーカス撮影はできません。

- AF-S ED 17–35mm f/2.8D
- AF-S DX ED 17–55mm f/2.8G
- AF-S DX VR ED 18–200mm f/3.5–5.6G
- AF-S NIKKOR 24–70mm f/2.8G ED
- AF-S VR ED 24–120mm f/3.5–5.6G
- AF-S ED 28–70mm f/2.8D
- AF-S VR Micro ED 105mm f/2.8G

赤目軽減についてのご注意

レンズの種類によっては、AF補助光ランプの光がさえぎられ、フラッシュ撮影時に充分な赤目軽減効果（65）が得られない場合があります。

✔ 内蔵フラッシュ撮影に制限のあるレンズについてのご注意

内蔵フラッシュ撮影が可能なCPU レンズは、焦点距離が18mmから300mm までのレンズです（🔍66）。ただし、以下のCPUレンズではフラッシュの光がさえぎられる（ケラレる）ため、内蔵フラッシュ撮影が可能な焦点距離や撮影距離に制限があります。

レンズ	内蔵フラッシュ撮影が可能な条件	
	焦点距離	撮影距離
AF-S DX ED 12–24mm f/4G	20mm	3 m以上
	24mm	1 m以上
AF-S DX NIKKOR 16–85mm f/3.5–5.6G ED VR	24mm以上	制限なし
AF-S ED 17–35mm f/2.8D	24mm	2 m以上
	28mm	1 m以上
	35mm	制限なし
AF-S DX ED 17–55mm f/2.8G	28mm	1.5 m以上
	35mm	1 m以上
	45mm	制限なし
AF ED 18–35mm f/3.5–4.5D	24mm	1 m以上
	28mm以上	制限なし
AF-S DX ED 18–70mm f/3.5–4.5G	18mm	1 m以上
	24mm以上	制限なし
AF-S DX ED 18–135mm f/3.5–5.6G	18mm	1 m以上
	24mm以上	制限なし
AF-S DX VR ED 18–200mm f/3.5–5.6G	24mm	1 m以上
	35mm以上	制限なし
AF 20–35mm f/2.8D	24mm	2.5 m以上
	28mm	1 m以上
	35mm	制限なし
AF-S NIKKOR 24–70mm f/2.8G ED	35mm	1.5 m以上
	50mm	1 m以上
AF-S VR ED 24–120mm f/3.5–5.6G	24mm	1 m以上
	28mm以上	制限なし
AF-S ED 28–70mm f/2.8D	35mm	1.5 m以上
	50mm以上	制限なし
AF-S VR ED 200–400mm f/4G	250mm	2.5 m以上
	350mm	2 m以上

・ AF-S NIKKOR 14–24mm f/2.8G ED 使用時は、すべての撮影距離でケラレが発生します。

使用できる外付けフラッシュ（スピードライト）

内蔵フラッシュの代わりに別売のスピードライトを使えます。装着するときは、アクセサリーシューカバーを取り外してください。スピードライト SB-400、SB-800、SB-600、SB-80DX、SB-28DX、SB-28、SB-27、SB-23、SB-22S、SB-29Sなどを、アクセサリーシューに差し込むだけでコードレスで接続できます。また、セーフティロック機構（ロック穴）を備えているので、セーフティロックピン付きのスピードライト（SB-800、SB-600など）を取り付けると、スピードライトが不用意に外れることを防止できます。なお、スピードライト装着時は、内蔵フラッシュは発光しません。

D60は「ニコン クリエイティブライティングシステム（CLS）※」に対応しています。スピードライト SB-400、SB-600、SB-800などと組み合わせることで、i-TTL 調光、発光色温度情報の伝達など、さまざまな機能が利用できます。また、別売のスピードライト SB-800やワイヤレススピードライトコマンダー SU-800を装着すると、離れた場所にあるスピードライト SB-600、SB-R200や別のSB-800を遠隔操作で発光できます。詳しくは各スピードライトやワイヤレススピードライトコマンダーの使用説明書をご覧ください。

※ CLSは、ニコン製のスピードライトとカメラの組み合わせで実現する、最新のスピードライト制御システムです。スピードライトの発光量に応じた発光色温度情報をカメラに伝達してホワイトバランスを適正に調整する「発光色温度情報伝達」など、様々な機能が利用できます。

ニコンスピードライト SB-400

- ガイドナンバー21（ISO 100・m、20℃）の高性能スピードライトです。
- フラッシュヘッドが上方向90°までの範囲で回転し、バウンス撮影ができます。

ニコンスピードライト SB-800

- ガイドナンバー38（照射角35mm時、ISO 100・m、20℃）の高性能スピードライトです。
- フラッシュヘッドが上方向90°から下方向7°、左方向180°から右方向90°の範囲で回転し、バウンス撮影や近接撮影ができます。
- レンズの焦点距離に応じて照射角を変化させるオートズーム機能（24–105mm）を備えています。また、内蔵ワイドパネルを使用すると、照射角が14mm、17mmになります。
- 周囲が暗い場合でも操作しやすいように、液晶表示パネルと各操作スイッチにイルミネーターを備えています。
- SB-800のカスタム設定により、各機能の設定が効率よく行えます。

ニコンスピードライト SB-600

- ガイドナンバー30（照射角35mm時、ISO 100·m、20℃）の高性能スピードライトです。
- フラッシュヘッドが上方向90°、左方向180°から右方向90°の範囲で回転し、バウンス撮影や近接撮影ができます。
- レンズの焦点距離に応じて照射角を変化させるオートズーム機能（24–85mm）を備えています。また、内蔵ワイドパネルを使用すると、14mmの照射角度になります。
- 周囲が暗い場合でも操作しやすいように、表示パネルおよび操作スイッチにイルミネーターを備えています。
- SB-600のカスタム設定により、各機能の設定が効率よく行えます。

ニコンワイヤレスリモートスピードライト SB-R200

- ガイドナンバー 10（ISO 100 · m、20℃）のリモート発光用スピードライトです。
- D60でSB-R200を使うには、コマンダー機能のあるスピードライト SB-800またはワイヤレススピードライトコマンダー SU-800が必要です。
- アタッチメントリング SX-1やアダプターリングを使ってレンズ先端に装着したり、スピードライトスタンド AS-20でカメラから離して設置したり、手持ちで照明したりするなど、i-TTL調光による多彩な近接（クローズアップ）撮影やリモート撮影が可能です。

ニコンワイヤレススピードライトコマンダー SU-800

CLS対応カメラに装着してSB-800、SB-600、SB-R200の発光制御を行うコマンダーで、ライティングをリモート（補助灯）のみで行うコマンダー撮影が行えます（SU-800には発光機能はありません）。

ガイドナンバーとは

フラッシュの光量を示す値で、大きいほど光が遠くまで届きます。「ガイドナンバー＝絞り値×撮影距離（m）」（ISO感度が100の場合）という関係があります。SB-400はガイドナンバーが21（ISO感度100、20℃）なので、ISO 感度が100で絞り値がf/5.6 なら、21 ÷ 5.6 =約3.7 mまでフラッシュの光が届くことになります。また、実効ガイドナンバーはISO感度が2倍になると約1.4倍（√2倍）になります。たとえば、D60 でISO 感度200でSB-400 を使用すると、絞り値がf/5.6なら21 ÷ 5.6 × 1.4 =約5.3 mまで光が届きます（18mm レンズの画角をカバーする照射角、ISO感度200、20℃の場合）。

別売のスピードライト SB-400、SB-800、SB-600、SB-R200を使用する場合、スピードライトとレンズの組み合わせによって次の機能が使用できます。

スピードライト / 発光モード/機能		1灯のみで使用			アドバンストワイヤレスライティング				
					主灯/コマンダーとして使用		補助灯として使用		
		SB-400	SB-800	SB-600	SB-800	SU-800※1	SB-800	SB-600	SB-R200
i-TTL※2	i-TTL-BL調光	○※3,4	○※3	○※3	○※5	○	○	○	○
	スタンダードi-TTL調光	○	○	○	—	—	—	—	—
AA	絞り連動外部自動調光※2	—	○※5	—	○※6	○※6	○※6	—	—
A	外部自動調光	—	○※5	—	○※6	—	○※6	—	—
GN	距離優先マニュアル発光	—	○	—	—	—	—	—	—
M	マニュアル発光	○※4	○	○	○	○	○	○	○
RPT	リピーティングフラッシュ	—	○	—	○	○	○	○	—
マルチエリアアクティブ補助光※2		—	○	○	○	○	—	—	—
発光色温度情報伝達		○	○	○	○	—	—	—	—
REAR	後幕シンクロ	○	○	○	○	○	○	○	○
	赤目軽減発光	○	○	○	○	—	—	—	—
オートズーム		—	○	○	○	—	—	—	—
感度自動制御（カスタムメニュー10）		○	○	○	—	—	—	—	—

※1 SU-800 本体に発光機能はありません。表中の○は、SU-800がコマンダーとして補助灯を制御できる機能です。
※2 非CPUレンズ装着時は使えません。
※3 スポット測光時は設定できません。スタンダードi-TTL調光になります。
※4 カメラ側で設定できます（113）。
※5 AAモードとAモードの選択は、SB-800のカスタム設定で行います。ただしAAモード設定時でも、非CPUレンズ装着時は、自動的にAモードになります。
※6 SB-800のカスタム設定にかかわらず、優先的にAAモードになります。ただし非CPUレンズ装着時は、自動的にA モードになります。

以下のスピードライトで撮影する時は、外部自動調光（A）あるいはマニュアル発光撮影となります。これらのスピードライトをお使いの場合、スピードライトの充電状態はスピードライト側で確認してください。なお、シャッタースピードは1/200秒以下の低速でお使いください。

スピードライト			SB-80DX SB-28DX	SB-50DX※1	SB-28 SB-26 SB-25 SB-24	SB-30 SB-27※2 SB-22S SB-22 SB-20 SB-16B SB-15	SB-23 SB-29※3 SB-21B※3 SB-29S※3
機能	A	外部自動調光	○	—	○	○	—
	M	マニュアル発光	○	○	○	○	○
	[マルチフラッシュ]	マルチフラッシュ	○	—	○	—	—
	REAR※4	後幕シンクロ	○	○	○	○	○

※1 撮影モードを**P**、**S**、**A**、**M**に設定し、内蔵フラッシュを収納した状態にして内蔵フラッシュが光らないようにしてください。内蔵フラッシュが自動的に上がって光ることがあるため、撮影モードのデジタルイメージプログラムは、使用しないでください。

※2 SB-27はD60と組み合わせると自動的にTTLモードに設定されますが、TTLモードでは使えません。SB-27を強制Aモードに設定しなおしてください。

※3 SB-29・21B・29SでオートフォーカスができるレンズはAF-S VR マイクロニッコール ED 105mm F2.8Gレンズのみです。

※4 カメラ側のフラッシュモードで設定してください。

ISO感度の自動制御について

SB-400、SB-800、SB-600を装着時も、カスタムメニュー［10 感度自動制御］を［する］にしたときや、デジタルイメージプログラムでISO感度を［AUTO］（オート）にしたときは、フラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。ただし［10 感度自動制御］を［する］にしていても、手前の被写体が露出アンダーになることがあります（111）。

撮影モード[オート]、[ポートレート]、[風景]、[こどもスナップ]、[スポーツ]、[クローズアップ]、[夜景ポートレート]でのスピードライト使用について

スピードライト装着時は、内蔵フラッシュは発光しません。

- フラッシュモード（65）のAUTO（オート：自動発光）機能は解除され、常に外付けのスピードライトが発光します。フラッシュモードの発光禁止は、通常発光に変わります。
- 撮影モード[風景]、[スポーツ]でスピードライトを使うと、フラッシュモードは、通常発光になります。赤目軽減にも変更できます。
- スピードライトSB-800、SB-600または、ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800装着時に外付けスピードライト側で調光補正をしたときは、情報画面の上部に[外付けスピードライト調光補正マーク]（外付けスピードライト調光補正）マークが点灯します。
- 撮影モードダイヤルを[発光禁止]に合わせると、スピードライトも発光禁止になります。

他社製フラッシュについてのご注意

他社製のフラッシュ（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリーシュー部の接点をショートさせてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラやフラッシュのシンクロ回路を破損することがあります。

ホットシューアダプター AS-15

別売のホットシューアダプターAS-15を装着すると、シンクロターミナルが使えます。

スピードライト使用時のご注意

- 詳しくはスピードライトの使用説明書をご覧ください。
  ニコンクリエイティブライティングシステム対応のスピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、「クリエイティブライティングシステム対応デジタル一眼レフ」に該当する箇所をお読みください。なお、D60はSB-80DX、SB-28DX、SB-50DXの使用説明書に記載されているデジタル一眼レフカメラには該当しません。
- 同調シャッタースピードは1/200秒以下（低速側）です。
- i-TTL や外部自動調光モードで、フル発光により露出アンダーになる可能性のある場合には、発光直後にファインダー内下部の⚡が約3秒間点滅し、露出アンダー警告を行います。
- i-TTLモード時のISO感度連動範囲はISO 100～1600です。
- ISO感度を1600より高くしたときは、距離や絞りによっては適切な発光量にならない場合があります。
- スピードライト SB-400、SB-800、SB-600使用時に、赤目軽減発光を行うフラッシュモードのときは、スピードライト側で赤目軽減発光します。
- スピードライト SB-800、SB-600、SU-800（クローズアップ機能設定時除く）との組み合わせで被写体が暗い場合は、カメラのAF補助光（57）が発光せず、スピードライトまたはスピードライトコマンダーのAF補助光が発光します。
- SB-800、SB-600以外のスピードライトの組み合わせでは、オートパワーズーム機能は使用できません。
- 撮影モードによっては、ISO感度（53）の設定によって、カメラが自動で設定する開放側の限界絞りが、以下のように制御されます。

撮影モードAUTO、、、、、、P：

ISO感度	100	200	400	800	1600
開放側の限界絞り（f/）	4	4.8	5.6	6.7	8

撮影モード：

ISO感度	100	200	400	800	1600
開放側の限界絞り（f/）	5.6	6.7	8	9.5	11

※ 感度1段に対して絞りは1/2段変化します。制御される絞りよりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

- i-TTLモード時に、調光コードSC-17、SC-28、SC-29を使ってカメラからスピードライトを離して撮影する場合、i-TTL-BL調光では適正露出を得られない場合があります。この場合は、スタンダードi-TTL調光に切り換えて撮影してください。また、あらかじめテスト撮影を行ってください。
- i-TTL モード時に、発光面に内蔵パネル以外の部材（拡散板など）を装着しないでください。カメラ内の演算に誤差が生じ、適正露光にならない場合があります。

その他のアクセサリー

ファインダー用アクセサリー

ファインダー用アクセサリーをお使いになる場合は、接眼目当てを外して取り付けてください。接眼目当ての外し方は、「アイピースキャップの使い方」(56)をご覧ください。

- **接眼補助レンズ**
  遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部に差し込むだけで簡単に交換できます。−5、−4、−3、−2、0、+0.5、+1、+2、+3m^{-1}の9種類があります(いずれもD60の視度調節レバーが基準位置(−1 m^{-1})の場合の値です)。D60の視度調節機能(−1.7~+0.5 m^{-1})を超える視度補正が必要なときにお使いください。視度補正の効果は個人差が大きいので、店頭で実際に取り付けてお選びください。なお、接眼補助レンズをお使いになるときは、接眼目当ては装着できません。
- **マグニファイヤー DG-2**
  ファインダー中央部の像を拡大します。接写や複写、超望遠レンズでの撮影など、より厳密なピント合わせが必要なときに使います。装着には、別売のアイピースアダプターが必要です。
  マグニファイヤー DG-2を装着すると、カメラのアイセンサーが適切に反応しないため、必要に応じて、セットアップメニューの[情報画面の自動消灯](123)を[しない]にしてください。
- **アイピースアダプター DK-22**
  上記DG-2をD60に取り付けるためのアダプターです。
- **角窓用変倍アングルファインダー DR-6**
  カメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向(水平方向に向けたカメラの真上など)からファインダー内の画像を確認できます。
  角窓用変倍アングルファインダー DR-6を装着すると、カメラのアイセンサーが適切に反応しないため、必要に応じて、セットアップメニューの[情報画面の自動消灯](123)を[しない]にしてください。

フィルター

- ニコンフィルターには、大きく分けてねじ込み式、組み込み式、後部交換式の 3 方式があります。他社製の特殊フィルターなどをお使いの場合は、オートフォーカスやフォーカスエイドができない場合がありますのでご注意ください。
- カメラ測光系の特性上、従来の偏光フィルター(Polar)はお使いになれません。円偏光フィルター(C-PL)をお使いください。
- フィルターをレンズ保護のために常に装着しておくときは、L37C、または NC フィルターをおすすめします。
- 逆光撮影や、輝度の高い光源を画面に入れて撮影するときは、フィルターによって画像上にゴーストが発生する恐れがあります。このような場合は、フィルターを外して撮影することをおすすめします。
- 露出倍数のかかるフィルター(Y48、O56、R60、X0、X1、C-PL(円偏光フィルター)、ND4S、ND8S、A2、A12、B2、B8、B12)では、[測光モード](62)を[中央部重点測光]にして撮影することをおすすめします。[マルチパターン測光]では、充分な効果が得られない場合があります。詳しくは、フィルターの使用説明書をご覧ください。

バッテリー

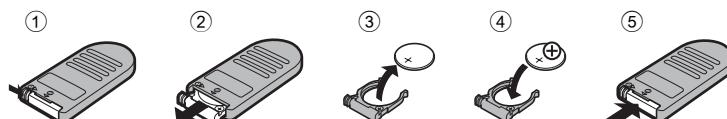
- **Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL9**
  付属のバッテリーと同じものを、予備バッテリーとしてお求めいただけます。

パワーコネクター/ACアダプター

- **パワーコネクター** EP-5
- **AC アダプター** EH-5a ※
  ACアダプターを使用すると、長時間カメラを使用するときに安定して電源を供給できます。D60は、カメラ本体とACアダプターを接続するためにパワーコネクターEP-5が必要です。EH-5aの代わりにACアダプター EH-5も使えます。カメラとパワーコネクター、ACアダプターを接続する方法については、「カメラとパワーコネクター、ACアダプターの接続方法」（157）をご覧ください。

  ※ 日本国内専用電源コード（AC 100V対応）付属。日本国外でお使いになるには、別売の電源コードが必要です。

ボディキャップ BF-1A

レンズを取り外したカメラボディーに取り付けることにより、ミラーやファインダースクリーンなどへのゴミやホコリの付着を防ぎ、カメラ内部を保護します。

ビデオケーブル

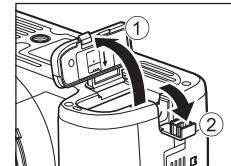
- **ビデオケーブル** EG-D100
  ビデオケーブルでカメラをテレビやビデオに接続することによって、撮影した画像をテレビで見ることや、ビデオデッキで録画することができます。

リモコン ML-L3

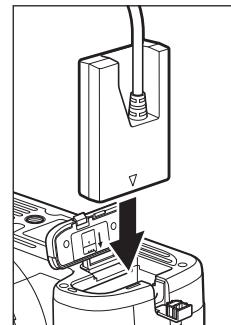
ワイヤレスでシャッターをきることができ、記念写真などに便利です。また、手ブレを防止するケーブルレリーズの代わりとしても利用できます。

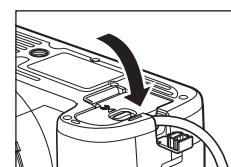
リモコン用電池（3V CR2025型リチウム電池）の交換方法

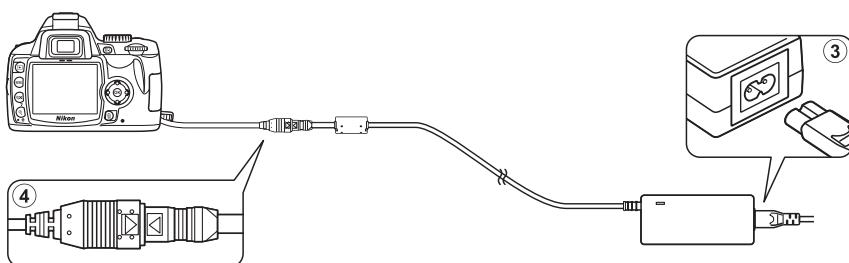
①
②
③
④
⑤
ニコンデジタルカメラ専用ソフトウェア

- Capture NX
  画像を詳細に編集できる、画像編集用ソフトウェアです。ホワイトバランス調整やカラーコントロールポイントなど様々な機能を備えています。必ず最新版※にバージョンアップしてお使いください。
- Camera Control Pro 2
  パソコンからカメラをコントロールして撮影することができるソフトウェアです。撮影した画像はパソコンのハードディスクへ直接保存できます。必ず最新版※にバージョンアップしてお使いください。

  ※ ご使用のパソコンがインターネットに接続されていれば、ソフトウェアの起動時にニコンメッセージセンター（Nikon Message Center）が自動的に更新情報をチェックします。

D60に使用できる別売アクセサリーについての最新情報は、最新のカタログや当社のホームページなどでご確認ください。

カメラとパワーコネクター、ACアダプターの接続方法

カメラとパワーコネクター、ACアダプターを接続する前に、カメラ本体の電源がOFFになっていることを確認してください。

1 カメラのバッテリーカバー（①）とパワーコネクターカバー（②）を開ける

2 パワーコネクター EP-5を入れる

- パワーコネクターは、接点の向きに注意しながら入れてください。

3 カメラのバッテリーカバーを閉じる

- パワーコネクターのコードがパワーコネクターカバーを開けた部分から出るように注意して、バッテリーカバーを閉じます。

4 パワーコネクターとACアダプターを接続する

- 電源コードのACプラグを、EH-5aのACプラグ差し込み口に差し込みます（③）。
- パワーコネクター EP-5 の DC プラグコネクターに EH-5a の DC プラグを差し込みます（④）。
- パワーコネクター EP-5とACアダプター EH-5a使用時には、液晶モニター上のバッテリー残量表示が [AC電源マーク] に変わります。

推奨SDカード

以下のSDメモリーカードの動作を確認しています。

- 以下の容量のSDカードであれば、内部データ転送速度にかかわらず使用できます。

ニコン製	1 GB
SanDisk製	64 MB、128 MB、256 MB、512 MB、1 GB、2 GB※1、4 GB※2
東芝製	64 MB、128 MB、256 MB、512 MB、1 GB、2 GB※1、4 GB※2
Panasonic製	64 MB、128 MB、256 MB、512 MB、1 GB、2 GB※1、4 GB※2、8 GB※2
LEXAR MEDIA社製	128 MB、256 MB、512 MB、1 GB プラチナⅡシリーズ：512 MB、1 GB、2 GB※1、4 GB※2 プロフェッショナルシリーズ：1 GB、2 GB※1

※1 カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器が2 GBのSDカードに対応している必要があります。

※2 SDHC規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDHC規格に対応している必要があります。

- 上記カードの機能、動作の詳細については、各カードメーカーにお問い合わせください。最新の動作確認済みSDカードについては、当社ホームページのサポート情報をご覧ください。

より長く快適にお使いいただくために

カメラとレンズのお手入れ

保管について

長期間カメラをお使いにならないときは、必ずバッテリーを取り出しください。バッテリーを取り出す前に、電源がOFFになっていることをご確認ください。

カメラを保管するときは、以下のような場所は避けてください。

- 換気の悪い場所や湿度が60 %を超える場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の周辺
- 温度が50℃以上、または－10℃以下の場所

クリーニングについて

カメラ本体

ほこりや糸くずをブロアーで払い、柔らかい乾いた布で軽く拭きます。海辺でカメラを使った後は、砂や塩を真水で湿らせた布で軽く拭き取り、よく乾かします。
ご注意：カメラ内部にゴミやほこり、砂などが入りこむと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

レンズ・ミラー・ファインダー

ほこりや糸くずは、ブロアーで払います。スプレー缶式のブロアーの場合は、缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズ・ミラー・ファインダーを傷つける恐れがあります）。指紋や油脂などの汚れは、柔らかい布にレンズクリーナーを少量付けて、ガラスを傷つけないように注意して拭きます。

液晶モニター

ほこりや糸くずは、ブロアーで払います。指紋や油脂などの汚れは、表面を柔らかい布かセーム革で軽く拭き取ります。強く拭くと、破損や故障の原因となることがあるのでご注意ください。

☑ 液晶モニターが破損したときのご注意

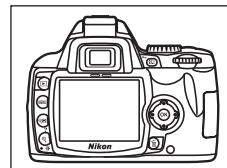
液晶モニターが破損した場合は、ガラスの破片でけがをしないようにご注意ください。また、中の液晶が皮膚や口、目に付かないようにご注意ください。

☑ 定期点検、オーバーホールのおすすめ

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールされることをおすすめします（有料）。

- とくに業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

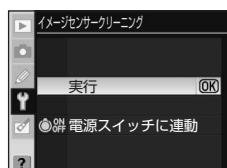
ローパスフィルターのお手入れ

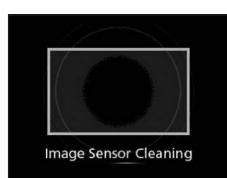
ローパスフィルターを自動で掃除する（イメージセンサークリーニング）

レンズを取り付けるときなどに、撮像素子の表面にあるローパスフィルターにゴミやほこりが付くと、画像に影が写り込むことがあります。イメージセンサークリーニングを作動させると、ローパスフィルターを振動させてゴミを払い落とすことができます。

イメージセンサークリーニングは、メニューから操作する方法と、電源のON/OFF時に自動的に行う方法があります。

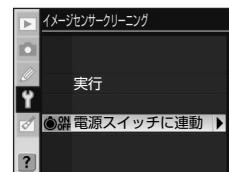
セットアップメニューの［イメージセンサークリーニング］から操作する

1 カメラを右図のように正位置に置く

- 効果的にゴミを払い落とせるように、正位置（カメラを横位置で構えるときの向き）にしてイメージセンサークリーニングを行ってください。

2 セットアップメニューの［イメージセンサークリーニング］を選ぶ

- ［イメージセンサークリーニング］を選んでマルチセレクターの右を押すと、［イメージセンサークリーニング］画面が表示されます。

3 ［実行］を選ぶ

- ［実行］を選んで**OK**ボタンを押すと、イメージセンサークリーニングを開始します。

- イメージセンサークリーニング実行中は、右の画面が表示されます。

イメージセンサークリーニングについてのご注意

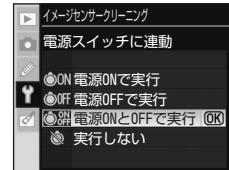
- イメージセンサークリーニング作動中に次の操作をすると、イメージセンサークリーニングは中断します。
  - シャッターボタン半押しまたは全押しする
  - ⚡ボタン、セルフタイマーボタン、AE/AFロックボタン、露出補正ボタンを押す
- 完全にゴミを取り除けないことがあります。そのときは、ローパスフィルターを市販のブロアーで掃除する（162）か、またはニコンサービス機関にご相談ください。
- イメージセンサークリーニングを連続して行うと、内部の回路を保護するため、一時的に作動しなくなる場合があります。少し時間をおくと再び作動するようになります。

電源のON/OFF時にイメージセンサークリーニングする

1 ［イメージセンサークリーニング］画面で［電源スイッチに連動］を選ぶ

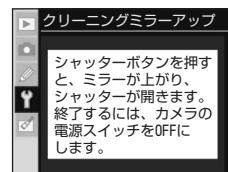
- ［電源スイッチに連動］を選んでマルチセレクターの右を押すと、［電源スイッチに連動］画面が表示されます。

2 次の項目から選んで、OKボタンを押す

ON	**電源ONで実行**
	電源ONと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
OFF	**電源OFFで実行**
	電源OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
ON OFF	**電源ON とOFFで実行(初期設定)**
	電源ON、OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
	実行しない
	電源ON、OFFしてもイメージセンサークリーニングは作動しません。

ローパスフィルターをブロアーで掃除する

イメージセンサークリーニング（160）でゴミやほこりをとりきれないときは、ローパスフィルターを次の手順でクリーニングできます。ただし、非常に傷つきやすいため、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。

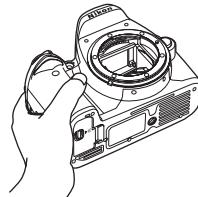
作業中のバッテリー切れを防ぐため、フル充電したバッテリーを使用するか、別売のパワーコネクター EP-5とACアダプター EH-5aを組み合わせて（156）お使いください。

1 電源をOFFにしてレンズを取り外す

- レンズをカメラから取り外したら、カメラの電源をONにしてください。

2 セットアップメニューの［クリーニングミラーアップ］を選ぶ

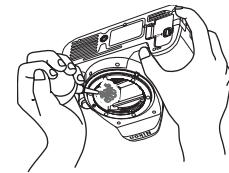
- バッテリー残量表示が以下の場合、このメニュー項目は選べません。

3 ［する］を選んでOKボタンを押す

- 右のようなメッセージが表示されます。
- ローパスフィルターの掃除をせずに元に戻すには、カメラの電源をOFFにします。

4 シャッターボタンを押し込む

- ミラーが上がり、シャッターが開いた状態になります。

5 ローパスフィルターに光が当たるようにカメラを持ち、ゴミが付いていないかどうかを点検する

- ゴミやほこりが付いていない場合は、手順7に進んでください。

作業中のシャッター幕の破損を防ぐために

カメラのシャッター幕は非常に破損しやすい部品です。シャッター幕は、カメラに電源の供給がなくなると、自動的に閉じる構造になっています。作業中に不意にシャッター幕が閉じて破損することを防ぐために、以下の点にご注意ください。

- 作業中に電源をOFFにしないでください。
- 作業中にバッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- ミラーアップ中にバッテリーの残量が少なくなった場合、電子音が鳴り、AF 補助光が点滅してお知らせします。約2分経過するとシャッター幕が閉じてミラーが下がるので、ただちに作業を終了してください。

6 ローパスフィルターに付いたゴミをブロアーで払う

- **ブラシの付いていないブロアーをお使いください。**ブラシでローパスフィルターの表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーで取り除けない汚れがある場合は、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。絶対に、**手でこすったり、布で拭き取ったりしないでください。**

7 電源をOFFにし、付属のボディーキャップをつける

- ミラーが下がり、シャッター幕が閉じます。

✔ ローパスフィルター上のゴミ付着について

ニコンデジタルカメラは撮像素子上のローパスフィルターに付着するゴミについて、当社の品質基準に基づいて製造しています。しかし、このカメラはレンズ交換方式のため、レンズ交換の際にカメラ内にゴミが入り込むことがあり、撮影条件によっては、撮像素子上のローパスフィルターに付着したゴミが写り込む場合があります。カメラ内へのゴミの侵入を防止するため、ほこりの多い場所でのレンズ交換は避け、レンズを外してカメラを保管するときは、必ず付属のボディーキャップを装着してください。その際、ボディーキャップのゴミも必ず除去してください。ローパスフィルターに付着したゴミを、イメージセンサークリーニングで取り除ききれないときは、前述の手順でクリーニングしていただくか、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。なお、ゴミの写り込みは、別売のCapture NXや画像加工アプリケーションなどで修正できます。

カメラと付属品の取り扱い上のご注意

カメラとレンズ

●強いショックを与えないでください

カメラやレンズを落としたり、ぶつけたりしないようにご注意ください。強い衝撃や振動を加えると、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。また、フードを持ってカメラを持ち上げないでください。

●水にぬらさないでください

カメラは水にぬらさないようにご注意ください。カメラ内部に水滴が入ると部品がさびついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

●急激な温度変化を与えないでください

極端に温度差のある場所（寒いところから急激に暖かいところや、その逆になるところ）にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからお使いください。

●強い電波や磁気の発生する場所で撮影しないでください

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲や、強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが正常に機能しない場合があります。

●長時間、太陽に向けて撮影または放置しないでください

太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色・焼きつきを起こす恐れがあります。また、その際撮影された画像に、真っ白くにじみが生じることがあります。

●カメラ本体のお手入れについて

カメラ本体のお手入れの際は、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。

●ミラーやレンズの手入れ方法について

ミラーやレンズは傷が付きやすいので、ゴミやホコリが付いているときは、ブロアーで軽く吹き払う程度にしてください。なお、スプレー缶方式のブロアーの場合、スプレー缶を傾けずにご使用ください（中の液体が気化されずに吹き出し、ミラーやレンズを傷つける場合があります）。レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。レンズ表面の汚れや傷を防ぐためには、NCフィルターをお使いいただけます。また、レンズフードも役立ちます。

●ローパスフィルターの手入れ方法について

ローパスフィルターのクリーニングの方法については☞160、162をご覧ください。

●レンズの信号接点について

レンズの信号接点を汚さないようにご注意ください。

●シャッター幕に触れないでください

シャッター幕は非常に薄いため、押さえたり、突いたり、ブロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。傷や変形、破損などの原因となります。

●風通しのよい場所に保管してください

カビや故障などを防ぐため、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。ナフタリンや樟脳の入ったタンスの中、磁気を発生する器具のそば、極度に高温となる夏季の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

●長期間使用しないときは、バッテリーを取り出し、乾燥剤と一緒に保管してください

カメラを長期間使用しないときは、バッテリーの液漏れなどからカメラを保護するために、必ずカメラからバッテリーを取り出しておいてください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れておくとより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れると、変質することがありますので避けてください。バッテリーは高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸うと効力がなくなるので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがあるので、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

●バッテリーやACアダプターを取り外すときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください

カメラの電源がONの状態で、バッテリーの取り出しやACアダプターの取り外しを行うと、故障の原因となります。特に撮影中や記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

●レンズをソフトケースに入れるときは、必ずレンズキャップと裏ぶたを取り付けてください。

レンズが傷つくのを防ぐため、レンズをソフトケースに入れるときは、必ずレンズキャップと裏ぶたを取り付けてください。フードを逆さ向きにしてレンズに取り付けた状態でも収納可能です。

●液晶モニターについて

- 液晶モニターの特性上、常時点灯あるいは非点灯の画素が一部存在することがありますが、故障ではありません。予めご了承ください。また、記録される画像には影響ありません。
- 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくい場合があります。
- 液晶モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。液晶モニターの故障やトラブルの原因になります。もしホコリやゴミ等が付着した場合は、ブロアーで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、液晶モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがあるので充分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。

バッテリー

●接点の汚れについて

バッテリーの接点が汚れている場合は、乾いた布などで拭いてください。

●バッテリーに関する使用上のご注意

バッテリーの使用方法を誤ると液漏れにより製品が腐食したり、バッテリーが破裂したりするおそれがあります。次の使用上の注意をお守りください。

- バッテリーはカメラの電源をOFFにしてから入れてください。
- バッテリーを長時間使用した後は、バッテリーが発熱していることがあるのでご注意ください。
- 必ず指定のバッテリーをお使いください。
- バッテリーを火の中に投入したり、ショートさせたり、分解したりしないでください。
- カメラから取り外したバッテリーには、必ず端子カバーを付けてください。

●撮影の前にバッテリーをあらかじめ充電してください

撮影の際は、バッテリーの充電を行ってください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されていないので、ご注意ください。

●予備バッテリーを用意してください

撮影の際は、充電された予備のバッテリーをご用意ください。特に、海外の地域によってはバッテリーの入手が困難な場合があるので、ご注意ください。

●低温時には充分に充電されたバッテリーを使用し、予備のバッテリーを用意してください

低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しない場合があります。低温時には充分に充電されたバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使える場合があります。

●バッテリーの残量について

電池残量がなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源のON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響をおよぼすおそれがあります。電池残量がなくなったバッテリーは、充電してご使用ください。

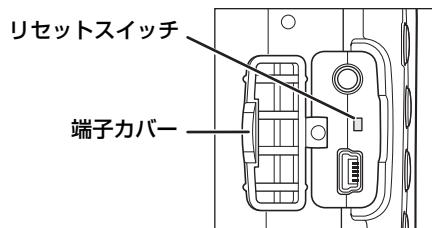
●バッテリーのリサイクルについて

充電を繰り返して劣化し使用できなくなったバッテリーは廃棄せず、再利用のためリサイクルにご協力ください。端子にテープなどを貼り付けて絶縁させてから、ニコンサービス機関やリサイクル協力店へご持参ください。

付録

故障かな？と思ったら

カメラの動作がおかしいときは、ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせになる前に、以下の項目をご確認ください。

表示関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	🔲
ファインダー内がはっきり見えない	視度調節レバーで調節してください。調節後も見え方が不充分な場合は、別売の接眼補助レンズをお使いください。	26、155
ファインダー内や情報画面、液晶モニターの表示が、すぐに消えてしまう	カスタムメニュー［15 パワーオフ時間］で、表示が消えるまでの時間を設定することができます。	114
情報画面が点灯しない	• シャッターボタンを半押しして指を離しても、情報画面が表示されないときは、セットアップメニュー［情報画面の自動表示］が［自動表示しない］になっています。 • シャッターボタンの半押し中は、情報画面は表示されません。 • アイセンサーによる［情報画面の自動消灯］が作動しています。 • カスタムメニュー［07 撮影直後の画像確認］が［する］の場合、画像確認後に何も操作をしないと情報画面を表示せずに液晶モニターは消灯します。 • バッテリー残量がありません。	122 30 123 111 16
カメラが作動しない	下記の「デジタルカメラの特性についてのご注意」をご覧ください。	—
ファインダー内の表示が薄い、表示が遅い	低温や高温のときは液晶表示の濃度が変わったり、応答速度が遅くなったりする場合があります。	—
ファインダー内表示が点灯しない	アイセンサーによる［情報画面の自動消灯］が［する］のときは、情報画面表示中にファインダー内表示を消灯します。［情報画面の自動消灯］を［しない］にすると、情報画面表示中にファインダー内表示も点灯します。	123

デジタルカメラの特性についてのご注意

きわめてまれに、外部から強力な静電気が電子回路に侵入したことによって、カメラが作動しなくなることがあります。この場合は、電源をOFFにしてバッテリーを入れ直し（ACアダプター使用時はいったん外してから付け直し）、もう一度電源をONにしてください。このときバッテリーが熱くなっていることがあるので、取り扱いには充分にご注意ください。

状態が改善されない場合は、電源をOFFにしてからリセットスイッチ（右図）を押してください。このときカメラの内蔵時計はリセットされます。また、カメラが作動しなくなった時のデータが失われるおそれがあります。

さらに不具合が続く場合は、ニコンサービス機関にお問い合わせください。

付録

撮影関連

全撮影モード共通

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
電源をONにしてから、撮影できる状態になるまでに時間がかかる	SDカード内にフォルダーや画像が大量にあるときは、ファイル検索のため時間がかかる場合があります。	—
シャッターがきれない	• レンズの絞りリングは最小絞り（最も大きい値）になっていますか？ • SD カードがロックされていませんか？ • 残量のある SD カードが入っていますか？ • 内蔵フラッシュの充電中はシャッターがきれません。 • ピント表示 ● は点灯していますか？ • CPU レンズが装着されていますか？非 CPU レンズは撮影モード M 以外ではお使いになれません。	19、40 25 23、28 33 57 146
ファインダーで見た視野と、撮影される画像の範囲が違う	このカメラのファインダー視野率は上下左右とも約 95 %です。このため、ファインダーで見た視野よりも、やや広い範囲が撮影されます。	—
ピントが合わない	• AF-S レンズ、AF-I レンズ以外の場合、オートフォーカス撮影はできません。 •［フォーカスモード］が［MF］（マニュアルフォーカス）になっていませんか？ • 以下のような被写体では、オートフォーカスではピントが合わせづらい場合があります。マニュアルフォーカス、フォーカスロックを利用して撮影してください。 明暗差がはっきりしない / 遠くのものと近くのものが混在する / 連続した繰り返しパターン / 輝度差が著しく異なる / 背景に対して主要被写体が小さい / 絵柄が細かい	61、146 61 38、60、61
一部のメニュー項目が表示されない	セットアップメニュー［メニュー表示切り換え］を［フルメニュー］にしてください。	118
画像サイズが変更できない	［画質モード］が［RAW］、［RAW＋BASIC］のときは、画像サイズを変更できません。	50
フォーカスポイントを選べない	•［AF エリアモード］が［至近優先ダイナミック］のときは、選べません。 • 画像を再生またはメニューを表示していませんか？画像の再生中やメニューの表示中にはフォーカスポイントを選べません。	58 —
画像の記録に時間がかかる	• アクティブ D- ライティングが［ON］になっていませんか？ • 撮影メニュー［ノイズ低減］が［する］になっていませんか？	69 108

こんなときは	考えられる原因や対処法	🕮
画像がざらつく	• ISO 感度が高くなっていませんか？ • シャッタースピードが約 8 秒よりも低速な場合は、ノイズが発生しやすくなります。撮影メニュー［ノイズ低減］を［する］にして撮影すれば、ざらつきを低減できます。	53、108 108
AF 補助光ランプが光らない	• 撮影モード 🏔、🏃 では、AF 補助光は点灯しません。 •［フォーカスモード］が［AF-C］と［MF］のとき、または［AF-A］で自動的に AF-C が選ばれたときは、AF 補助光は点灯しません。 • 中央以外のフォーカスポイントが選択されているときは、AF 補助光は点灯しません。 • カスタムメニュー［09 内蔵 AF 補助光の照射］が［照射しない］になっていませんか？ • AF 補助光ランプを連続して使うと、保護機能が働いて一時的に点灯が制限されます。少し時間をおくと再び点灯するようになります。また、短時間に何回も使うと、AF 補助光ランプが熱くなることがあるのでご注意ください。	6、36～37 57 59 111 —
リモコンの送信ボタンを押しても撮影できない	• リモコンの電池残量はありますか？ • リモコン撮影に設定されていますか？ • 送信ボタンを押す前にカスタムメニュー［17 リモコン待機時間］を過ぎると、リモコン撮影はリセットされます。 • 極端な逆光状態では、リモコン撮影ができない場合があります。	156 55 115 —
画像にゴミが写り込む	• レンズが汚れていませんか？ • ローパスフィルターにゴミが付着していませんか？	159 160、162
選択または設定できないメニュー項目がある	• 撮影モードによっては、設定できない機能があります。この場合、その項目は選べません。 • SD カードが差し込まれていません。	6 23
デート写し込みができない	撮影メニュー［画質モード］を［RAW］または［RAW＋BASIC］にして撮影した画像には、デート写し込みできません。	50

撮影モードP、S、A、M

こんなときは	考えられる原因や対処法	🕮
シャッターがきれない	• 非 CPU レンズを装着している場合は、撮影モード **M** で撮影してください。 • 撮影モード **M** でバルブ撮影またはタイム撮影に設定し、そのまま撮影モードを **S** に変更した場合は、シャッタースピードを再設定してから撮影してください。	44、146 42、44

付録

こんなときは	考えられる原因や対処法	☞
画像の一部が赤っぽくなる	バルブ撮影またはタイム撮影にした場合など、長時間露出で撮影すると、画像の一部が赤っぽくなることがあります。この現象は、撮影メニュー［ノイズ低減］を［する］にすることで低減できます。	46、108
設定できるシャッタースピードの範囲が狭い	フラッシュ撮影時は、シャッタースピードが制限されます。	179
シャッターボタンを半押ししても、フォーカスがロックされない	［フォーカスモード］が［AF-C］のときは、AE-L/AF-L ボタンを押してフォーカスをロックしてください。	57、60
画像の色合いがおかしい	•［ホワイトバランス］は正しく設定されていますか？ • 撮影メニュー［仕上がり設定］は正しく設定されていますか？	52、103、104、105 101
ホワイトバランスのプリセットデータが取得できない	被写体が明るすぎるか、暗すぎます。	105
ホワイトバランスのプリセットデータとして設定できない画像がある	D60以外のカメラで撮影した画像は、プリセットデータとして設定することはできません。	107
仕上がり設定の効果が安定しない	［仕上がり設定］の［カスタマイズ］で、各項目を個別に設定してください。その際、［輪郭強調］と［階調補正］は［オート］以外にしてください。	102
測光モードが変更できない	AEロック中は測光モードを変更できません。	63
連写できない	内蔵フラッシュが発光する撮影条件では、連写できません。	54、64、66

再生関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	☞
RAW画像が表示されない	撮影メニュー［画質モード］を［RAW＋BASIC］にして撮影したときは、BASIC画像しか再生されません。	50
すべての画像が表示されない	再生メニュー［再生フォルダー設定］を［全てのフォルダー］にしてください。なお、［全てのフォルダー］にした後に撮影すると、［再生フォルダー設定］は自動的に［記録中のフォルダー］に変更されます。	97
画像再生時に、画像の一部がチカチカと点滅する	画像情報のハイライト表示になっています。	73、75
画像再生時に、画像と重なって文字が表示される	画像情報の撮影情報表示になっています。	73、74
画像再生時に、グラフが表示される	画像情報のヒストグラム表示になっています。	73、75

付録

こんなときは	考えられる原因や対処法	🕮
画像の縦位置・横位置が正しく表示されない	• 再生メニュー［縦位置自動回転］が［しない］になっていませんか？ • セットアップメニュー［縦横位置情報の記録］が［しない］になっていませんか？ • 連写したときの縦横位置は、最初の 1 コマを撮影した構図で固定されます。 • カメラを上向き・下向きにして撮影すると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります。	98 128 128 128
画像が削除できない	• SD カードがロックされていませんか？ • 画像にプロテクトが設定されていませんか？	25 78
［撮影画像がありません］と表示される	SDカードを交換直後に画像を再生するときは、再生メニュー［再生フォルダー設定］を［全てのフォルダー］にしてください。	97
撮影後に画像が表示されない	カスタムメニュー［07 撮影直後の画像確認］が［しない］になっていませんか？	111
画像が編集できない	D60では編集できない画像です。	130
プリント指定ができない	• SD カードがロックされていませんか？ • SD カードの残量が不足していませんか？	25 28
RAW画像をプリントできない	• 画像編集メニューの［簡単レタッチ］や［RAW現像］などで RAW 画像から JPEG 画像を作成してからプリントしてください。 • パソコンに転送してから、ViewNX や別売の Capture NX などのソフトウェアを使って、プリントしてください。	129 80、83
画像がテレビに映らない	セットアップメニュー［ビデオ出力］が正しく設定されていますか？	92、123
画像をパソコンに転送できない	パソコンのOSがWindows 2000 Professionalの場合は、カメラを接続できません。	80
Capture NXで画像が表示されない	ソフトウェアのバージョンが最新になっていますか？	51、156
Camera Control Pro 2でカメラを操作できない	ソフトウェアのバージョンが最新になっていますか？	156

その他

こんなときは	考えられる原因や対処法	🕮
撮影日時が正しく表示されない	カメラの内蔵時計は合っていますか？カメラの内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くないので、定期的に日時設定を行うことをおすすめします。	21
表示されているメニュー項目が選べない	一部のメニュー項目は、カメラの設定などの条件によって選択できない場合があります。	176
一部のメニュー項目が表示されない	セットアップメニュー［メニュー表示切り換え］を［フルメニュー］にしてください。	118

警告メッセージ

液晶モニターとファインダーに表示される主な警告メッセージの意味は以下の通りです。

液晶モニター	ファインダー	対処方法	📖
レンズの絞りリングを最小絞り（一番大きい数字）にしてください	FEE（点滅）	レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい値）にしてください。	19、40
レンズ未装着	F--/?（点滅）	・レンズを装着してください。 ・非 CPU レンズを装着しているときは、撮影モード M で撮影してください。	18 40、44、62、146
レンズを取り付けてください。	F--/⚡（点滅）		
撮影できません。バッテリーを交換してください。	（点滅）	残量のあるバッテリーに交換してください。	16～17、28
このバッテリーは使用できません。専用バッテリーに交換してください。	（点滅）	D60の専用バッテリー（EN-EL9）に交換してください。	16～17
起動エラーが発生しました。復旧には電源スイッチをOFFにして再度ONにしてください。	（点滅）	電源を一度切ってから、バッテリーを入れ直し、もう一度電源をONにしてください。	6、16～17
バッテリーが残り少なくなりました。ただちに作業を終了し、電源スイッチをOFFにしてください。	—	クリーニングを中止し、電源をOFFにしてください。	162
日時未設定	?（点滅）	日時を設定してください。	21
メモリーカード未挿入	[-E-]	SDカードを正しく挿入してください。	23～25
—	●（点滅）	構図を変えるか、マニュアル（手動）でピントを合わせてください。	61

警告表示について

液晶モニターに?、またはファインダー内下部に?（警告表示）が点滅している場合にボタンを押すと、警告の内容を確認することができます。

液晶モニター	ファインダー	対処方法	
メモリーカードが書き込み禁止になっています。	CHA （点滅）	SDカードの書き込み禁止スイッチのロックを解除してください。	25
このメモリーカードは壊れている可能性があるため、使用できません。カードを交換してください。	[CHA] （点滅）	• D60用のSDカードであることをご確認ください。 • SDカードを初期化し直してください。状況が改善しない場合は、SDカードが壊れている可能性があります。ニコンサービス機関にご相談ください。 • 新規フォルダー作成時にこのメッセージが表示された場合は、不要な画像を削除してください。 • SDカードを交換してください。	158 24 34、96 23～25
このメモリーカードは初期化（フォーマット）されていません。フォーマットしてください。	[For] （点滅）	SDカードをカメラでフォーマットしてください。	24
メモリーカード空き容量不足	FuL （点滅）	• 必要な画像をパソコンに転送してから不要な画像を削除してください。 • 必要な画像をパソコンに転送してから［連番モード］を［リセット］し、SDカードをフォーマットしてください。 • SDカードを交換してください。	34、80、96 24、80、126 23～25
被写体が明るすぎます	HI	• ISO感度を低くしてください。 • シャッタースピードをより高速側にしてください。 • 絞りを絞り込んでください（より大きい数値にする）。 • 別売のND（光量調節用）フィルターをお使いください。	53 40～46 40～46 155
被写体が暗すぎます	Lo	• ISO感度を高くしてください。 • フラッシュをお使いください。 • シャッタースピードをより低速側にしてください。 • 絞りを開けてください（より小さい数値にする）。	53 64 40～46 40～46
—	⚡ （点滅）	フラッシュがフル発光しました。撮影に必要な光量が不足している可能性があります。撮影距離、絞り、調光範囲、ISO感度などをご確認ください。	40～46、53、62、68、113、179

付録

液晶モニター	ファインダー	対処方法	📖
—	⚡/? (点滅)	• フラッシュをお使いください。 • 撮影距離、絞り、調光範囲、ISO 感度などをご確認ください。 • 外付けフラッシュ（スピードライト）SB-400 の位置がバウンス位置になっています。バウンスで撮影するときは、そのまま撮影を続けてください。その他のフラッシュの場合、この警告は表示されません。 • レンズの焦点距離が短すぎるため、画像の周辺が暗くなります。レンズの焦点距離を長くしてください。この警告は、外付けフラッシュ（スピードライト）SB-400 使用時のみ表示されます。	64 40～ 46、53、153、179 150 150
フラッシュがTTLモードになっています。フラッシュをTTLモード以外に設定するか、CPUレンズに交換してください。	⚡ (点滅)	• スピードライトの調光モードを TTL モード以外に変更してください。 • CPU レンズに交換してください。	153 146
Sモード時Bulb制御不可。	bulb (点滅) - - (点滅)	• シャッタースピードを変えてください。 • 撮影モード **M** で撮影してください。	40～ 46 44
プリセットホワイトバランスデータを取得できませんでした。もう一度撮影してください。	no Gd (点滅)	ホワイトバランスのプリセットデータを取得できなかったため、露出を調整して、再度撮影してください。	67、105
撮影画像がありません。	—	• 画像が記録されている SD カードに交換してください。 • ［再生フォルダー設定］を［全てのフォルダー］にしてください。	23 97
このファイルは表示できません。	—	• パソコンで編集した画像など、DCF 規格の画像ファイルではないため、再生できません。 • 画像ファイルに異常があるため再生できません。	—
プリンターの状態を確認してください。	—	インク交換してください。インクに残量がある場合は、プリンターの状態を確認してください。	—

液晶モニター	ファインダー	対処方法	
何らかの異常を検出しました。復旧にはシャッターボタンをもう一度押してください。	Err （点滅）	• もう一度シャッターボタンを押してください。 • 警告表示が解除されない場合や、頻繁に警告が表示される場合は、ニコンサービス機関にご相談ください。	32 194
起動エラーが発生しました。サービスセンターにお問い合わせください。	Err （点滅）	ニコンサービス機関にご相談ください。	194

付録

初期設定一覧

［R カスタムのリセット］を行うと、下記の初期設定になります。

<table>
<tr><th>カスタムメニュー</th><th>AUTO</th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th>P</th><th>S</th><th>A</th><th>M</th></tr>
<tr><td>1 電子音設定</td><td colspan="12">ON</td></tr>
<tr><td>2 フォーカスモード※1</td><td colspan="12">AF-A（レンズによってはMFになります。）</td></tr>
<tr><td>3 AFエリアモード※1、2</td><td colspan="5">至近優先ダイナミック</td><td>ダイナミック</td><td>シングルポイント</td><td colspan="5">至近優先ダイナミック</td></tr>
<tr><td>4 レリーズモード※1</td><td colspan="12">単写</td></tr>
<tr><td>5 測光モード※1</td><td colspan="8">マルチパターン測光固定</td><td colspan="4">マルチパターン測光</td></tr>
<tr><td>6 カード無し時レリーズ</td><td colspan="12">レリーズ禁止</td></tr>
<tr><td>7 撮影直後の画像確認</td><td colspan="12">する</td></tr>
<tr><td>8 フラッシュ調光補正※1</td><td colspan="8">設定不可</td><td colspan="4">0.0</td></tr>
<tr><td>9 内蔵AF補助光の照射</td><td colspan="3">ON</td><td>OFF固定</td><td>ON</td><td>OFF固定</td><td colspan="6">ON</td></tr>
<tr><td>10 感度自動制御</td><td colspan="8">設定不可</td><td colspan="4">しない</td></tr>
<tr><td>11 /Fnボタンの機能</td><td colspan="12">セルフタイマー設定</td></tr>
<tr><td>12 AE-L/AF-Lボタンの機能</td><td colspan="12">AE/AF同時ロック</td></tr>
<tr><td>13 半押しAEロック</td><td colspan="12">しない</td></tr>
<tr><td>14 内蔵フラッシュ発光</td><td colspan="8">設定不可</td><td colspan="4">TTLモード</td></tr>
<tr><td>15 パワーオフ時間</td><td colspan="12">標準</td></tr>
<tr><td>16 セルフタイマー時間</td><td colspan="12">10秒</td></tr>
<tr><td>17 リモコン待機時間</td><td colspan="12">1分</td></tr>
<tr><td>18 デート写し込み設定</td><td colspan="12">しない</td></tr>
<tr><td>19 フォーカスエイドインジケーター</td><td colspan="12">しない</td></tr>
</table>

※1 ツーボタンリセット（70）でも初期設定に戻ります。

※2 撮影モードAUTO、、、、、、では撮影モードを切り換えても初期設定に戻ります。

その他の設定の初期設定は以下のとおりです。

<table>
<tr><th>再生メニュー</th><th>AUTO</th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th>P</th><th>S</th><th>A</th><th>M</th></tr>
<tr><td>再生フォルダー設定</td><td colspan="12">記録中のフォルダー</td></tr>
<tr><td>縦位置自動回転</td><td colspan="12">する</td></tr>
<tr><td>スライドショー→インターバル設定</td><td colspan="12">2秒</td></tr>
</table>

撮影メニュー	AUTO	発光禁止	ポートレート	風景	こどもスナップ	スポーツ	クローズアップ	夜景ポートレート	P	S	A	M
仕上がり設定	設定不可								標準			
画質モード※1	NORMAL											
画像サイズ※1	サイズL											
ホワイトバランス※1	オート固定								オート			
ISO感度※1	オート								100			
ノイズ低減	しない											
アクティブD-ライティング※1	OFF											

セットアップメニュー	AUTO	発光禁止	ポートレート	風景	こどもスナップ	スポーツ	クローズアップ	夜景ポートレート	P	S	A	M
メニュー表示切り換え	シンプルメニュー											
情報画面デザイン	グラフィック（背景色の選択：ホワイト）											
情報画面の自動表示	自動表示する											
情報画面の自動消灯	する											
ワールドタイム	販売地域によって異なります											
液晶モニターの明るさ	液晶モニターの明るさ設定：0、自動減光の設定：する											
ビデオ出力	販売地域によって異なります											
言語（LANG）	販売地域によって異なります											
画像コメント	添付しない											
記録フォルダー設定	NCD60											
連番モード	OFF											
イメージセンサークリーニング→電源スイッチに連動	電源ONとOFFで実行											
縦横位置情報の記録	する											

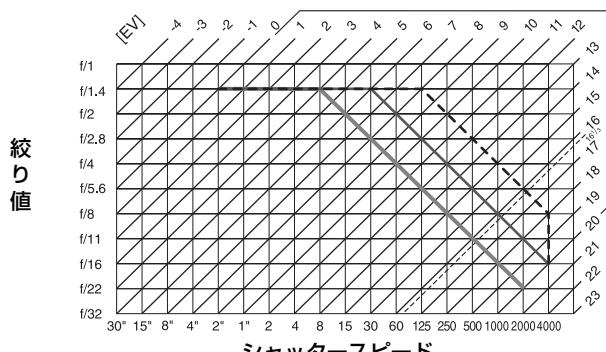
その他の設定	AUTO	発光禁止	ポートレート	風景	こどもスナップ	スポーツ	クローズアップ	夜景ポートレート	P	S	A	M
フォーカスポイント	—					中央		—				
フォーカスロック	OFF（解除）											
プログラムシフト※1、2、3	—								OFF（解除）	—		
AEロック※1	OFF（解除）※4								OFF（解除）			—
露出補正量※1	設定不可								OFF（0.0）			
フラッシュモード※1	①	発光禁止固定	①	②	①	②	①	③	通常発光			

※1 ツーボタンリセット（70）で初期設定に戻ります。
※2 撮影モードを切り換えると初期設定に戻ります。
※3 電源をOFFにすると初期設定に戻ります。
※4 AEロックは作動しますが、マルチパターン測光での撮影となり、充分な効果が得られないため、おすすめできません。
① 通常発光オート（撮影モードを切り換えたり、電源をOFFにしたりすると初期設定に戻ります。）
② 内蔵フラッシュは発光禁止固定、スピードライト装着時は通常発光
③ 通常発光オート＋スローシャッター（撮影モードを切り換えたり、電源をOFFにしたりすると初期設定に戻ります。）

画質モード・画像サイズと記録・連写可能コマ数

画質モードと画像サイズの組み合わせによって、1 GBのSDカードで撮影できるおおよそのコマ数、および連写できるコマ数は次のようになります。※1ただし、カードの種類や撮影条件によって、記録可能コマ数は増減することがあります。

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ※2	記録可能コマ数	連写可能コマ数※3
RAW	ー	約9.0MB	79	6
FINE	L	約4.8MB	129	100
	M	約2.7MB	225	100
	S	約1.2MB	487	100
NORMAL	L	約2.4MB	251	100
	M	約1.3MB	431	100
	S	約0.6MB	888	100
BASIC	L	約1.2MB	487	100
	M	約0.7MB	839	100
	S	約0.3MB	1500	100
RAW+BASIC	ー/L	約10.1MB※4	70	6

※1 Panasonic製PRO HIGH SPEED SDカードを使用した場合。
※2 記録される平均的な1コマあたりのファイルサイズです。
※3 SDカードへの記録が終わったコマ数分だけ、引き続き次の撮影が行えます。
※4 RAW画像とBASIC画像の合計です。

プログラム線図（プログラムオート時）

以下のグラフは、撮影モード **P** の露出制御プログラム（ISO 100の場合）を表しています。

f（レンズの焦点距離）≦55mmの場合
55mm＜f≦135mmの場合
135mm＜fの場合

- ISO感度に応じた測光範囲によって、EV値の両端に制限があります。
- マルチパターン測光では、ISO 100の場合$16^{1}/_{3}$を超えるEV値は、すべて$16^{1}/_{3}$として制御されます。

付録

フラッシュの発光量制御方式

CPUレンズをお使いの場合、内蔵フラッシュの発光量は、以下のどちらかの方式で制御されます。通常はi-TTL-BL調光ですが、［測光モード］（62）を［スポット測光］にした場合は、スタンダードi-TTL調光になります。

i-TTL-BL調光

マルチパターン測光による測光情報を元に、メインの被写体と背景のバランスを考慮して発光量を決定します。

スタンダードi-TTL調光

背景の明るさを考慮せず、メインの被写体を基準にして発光量を決定します。メインの被写体の明るさを重視する場合や、露出を補正する場合に適しています。

別売スピードライト SB-400、SB-800、SB-600をお使いの場合も、内蔵フラッシュと同様に、通常はi-TTL-BL調光に、［測光モード］（62）を［スポット測光］にすると、スタンダードi-TTL調光になります。

内蔵フラッシュ使用時のシャッタースピード制限

モード	シャッタースピード
AUTO、、、P、A	1/200～1/60秒
	1/200～1/125秒
	1/200～1秒
S	1/200～30秒
M	1/200～30秒 Bulb

内蔵フラッシュの調光範囲

調光範囲（光が届く距離）はISO感度と絞り値によって異なります。

	ISO感度					調光範囲（m）
	100	200	400	800	1600	
絞り値	1.4	2	2.8	4	5.6	約1～8.5
	2	2.8	4	5.6	8	約0.7～6.0
	2.8	4	5.6	8	11	約0.6～4.2
	4	5.6	8	11	16	約0.6～3.0
	5.6	8	11	16	22	約0.6～2.1
	8	11	16	22	32	約0.6～1.5
	11	16	22	32	—	約0.6～1.1
	16	22	32	—	—	約0.6～0.7

主な仕様

ニコンデジタルカメラ D60

項目		仕様
型式		
	型式	レンズ交換式一眼レフレックスタイプ デジタルカメラ
	レンズマウント	ニコンFマウント（AF接点付）
	実撮影画角	レンズの焦点距離の約1.5倍に相当、ニコンDXフォーマット
有効画素数		10.2 メガピクセル
撮像素子		
	撮像素子	23.6×15.8 mmサイズCCDセンサー
	総画素数	10.75 メガピクセル
	ダスト低減機能	イメージセンサークリーニング、 イメージダストオフデータ取得（別売のCapture NXが必要）
記録形式		
	記録画素数	・3872 × 2592 ピクセル（サイズ L） ・2896 × 1944 ピクセル（サイズ M） ・1936 × 1296 ピクセル（サイズ S）
	画質モード	・RAW 12 ビット圧縮 ・JPEG-Baseline 準拠、圧縮率（約）：FINE（1/4）、NORMAL（1/8）、BASIC（1/16） ・RAW と JPEG の同時記録可能
	記録媒体	SDメモリーカード、SDHC規格対応
	対応規格	DCF 2.0（Design rule for Camera File system）、 DPOF（Digital Print Order Format）、 Exif 2.21（Exchangeable image file format for digital still cameras）、PictBridge準拠
ファインダー		
	ファインダー	アイレベル式ペンタミラー使用一眼レフレックス式ファインダー
	視野率	上下左右とも約95%（対実画面）
	倍率	約0.80倍（50mm f/1.4レンズ使用、∞、$-1.0\ m^{-1}$のとき）
	アイポイント	18 mm（$-1.0\ m^{-1}$のとき）
	視度調節範囲	-1.7～$+0.5\ m^{-1}$
	ファインダースクリーン	B型クリアマットスクリーンV（フォーカスフレーム付）
	ミラー	クイックリターン式
	レンズ絞り	瞬間復元式、電子制御式

レンズ		
	交換レンズ	・AF-S および AF-I レンズ：すべての機能を使用可能 ・モーターを内蔵しない AF レンズの G または D タイプ：オートフォーカスを除く機能を使用可能 ・モーターを内蔵しない AF レンズの G または D タイプ以外：オートフォーカスと 3D-RGB マルチパターン測光 II を除く機能を使用可能 ・プロネア用 IX レンズと F3AF 用の AF レンズ：使用不可 ・D タイプの PC レンズ：撮影モードの一部を除く機能を使用可能 ・P タイプレンズ：3D-RGB マルチパターン測光 II を除く機能を使用可能 ・非 CPU レンズ：オートフォーカス使用不可、露出モードは M を使用可能 （露出計は使用不可） ・開放 F 値が f/5.6 より明るいレンズ：フォーカスエイドを使用可能
シャッター		
	型式	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター
	シャッタースピード	1/4000～30秒（1/3段ステップ）、バルブ、タイム（別売のリモコン ML-L3使用）
	フラッシュ同調シャッタースピード	X=1/200秒以下の低速シャッタースピードで同調
レリーズ機能		
	レリーズモード	単写 （1コマ撮影）、連写、セルフタイマー撮影、リモコン撮影（別売リモコン ML-L3使用）
	連続撮影速度	連写速度：最高約 3 コマ/秒 （フォーカスモードがマニュアルフォーカス、撮影モード がシャッター優先オートまたはマニュアル露出、1/250 秒以上の高速シャッタースピード、その他が初期設定時）
	セルフタイマー	作動時間2、5、10、20秒に設定可能
露出制御		
	測光方式	420分割RGBセンサーによるTTL開放測光方式
	測光モード	・マルチパターン測光：3D-RGB マルチパターン測光 II （G または D タイプレンズ使用時）、RGB マルチパターン測光 II （その他の CPU レンズ使用時） ・中央部重点測光：φ8 mm 相当を重点的に測光（中央部重点度約 75%） ・スポット測光：約 φ3.5 mm 相当を測光 （全画面の約 2.5%）、フォーカスポイントに連動して測光位置可動
	測光範囲	・マルチパターン測光、中央部重点測光：0 ～ 20 EV ・スポット測光：2 ～ 20 EV （ISO 100 換算、 f /1.4 レンズ使用時、常温 20 ℃）
	露出計連動	CPU連動方式

	露出モード	デジタルイメージプログラム（オート、発光禁止オート、ポートレート、風景、こどもスナップ、スポーツ、クローズアップ、夜景ポートレート）、マルチプログラムオート（プログラムシフト可能）、シャッター優先オート、絞り優先オート、マニュアル露出
	露出補正	範囲：±5段、補正ステップ：1/3段ステップ
	AEロック	AE/AFロックボタンによる輝度値ロック方式
	ISO感度（推奨露光指数）	ISO 100～1600（1段ステップ）、ISO 1600に対し約1段（ISO 3200相当）の増感が可能、感度自動制御が可能
	アクティブD-ライティング	ON（オート）、OFF
オートフォーカス		
	方式	TTL 位相差検出方式：フォーカスポイント3点、マルチCAM 530オートフォーカスモジュールで検出、AF補助光（約0.5～3 m）付
	検出範囲	－1～＋19 EV （ISO 100換算、常温20℃）
	レンズサーボ	• オートフォーカス：シングル AF サーボ（AF-S）、コンティニュアス AF サーボ（AF-C）、AF サーボモード自動切り換え（AF-A）を選択可能、被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行 • マニュアルフォーカス（MF）：フォーカスエイド可能
	AFエリアモード	シングルポイントAF モード、ダイナミックAF モード、至近優先ダイナミックAFモード
	フォーカスロック	AE/AF ロックボタン、またはシングルAF サーボ（AF-S）時にシャッターボタン半押し
フラッシュ		
	内蔵フラッシュ	• ガイドナンバー：約 12 （マニュアルフル発光時約 13）（ISO 100・m、常温 20 ℃） • オート、ポートレート、こどもスナップ、クローズアップ、夜景ポートレート時：オートポップアップ方式による自動発光 • マルチプログラムオート、シャッター優先オート、絞り優先オート、マニュアル露出時：押しボタン操作による手動ポップアップ方式
	調光方式	• 420 分割 RGB センサーによる以下の TTL 調光制御：内蔵フラッシュ、スピードライト SB-800、SB-600 または SB-400 と CPU レンズの組み合わせ時に、測光モードがスポット測光以外の場合は i-TTL-BL 調光、スポット測光の場合はスタンダード i-TTL 調光 • 絞り連動外部自動調光（AA）：SB-800 と CPU レンズとの組み合わせ時 • 外部自動調光（A）：SB-800、SB-80DX、SB-28DX、SB-28、SB-27、SB-22S などとの組み合わせ時 • 距離優先マニュアル発光（GN）：SB-800 との組み合わせ時
	フラッシュモード	先幕シンクロ、スローシンクロ、後幕シンクロ、赤目軽減、赤目軽減スローシンクロ
	調光補正	範囲：－3～+1段、補正ステップ：1/3段ステップ
	レディーライト	内蔵フラッシュ、SB-800、SB-600、SB-400など使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅

	アクセサリーシュー	ホットシュー（ISO 518）装備：シンクロ接点、通信接点、セーフティーロック機構（ロック穴）付
	ニコンクリエイティブライティングシステム	• 内蔵フラッシュ、またはニコン クリエイティブライティングシステム対応スピードライトとの組み合わせで発光色温度情報伝達に対応 • SB-800 または SU-800 をコマンダーとしたアドバンストワイヤレスライティングに対応
	シンクロターミナル	ホットシューアダプター AS-15（別売）
ホワイトバランス		8 種（オート設定時は、420 分割 RGB センサーと撮像素子併用によるホワイトバランス）、微調整可能
液晶モニター		2.5型低温ポリシリコンTFT液晶、約23万ドット、明るさ調整可能、アイセンサーによる自動消灯可能
再生機能		1コマ再生、サムネイル表示（4または9分割）、拡大再生、スライドショー、ヒストグラム表示、ハイライト表示、撮影画像の縦位置自動回転、D60で作成したストップモーション動画の再生
インターフェース		
	USB	Hi-Speed USB　通信プロトコル：MTP、PTP
	ビデオ出力	NTSC、PALから選択可能
表示言語		ドイツ語、英語、スペイン語、フィンランド語、フランス語、イタリア語、オランダ語、ポーランド語、ポルトガル語、ロシア語、スウェーデン語、繁体中国語、簡体中国語、日本語、韓国語
電源		
	使用電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL9（付属）×1個使用
	ACアダプター	ACアダプター EH-5a（パワーコネクター EP5と組み合わせて使用）（別売）
三脚ネジ穴		1/4 （ISO 1222）
大きさ・質量		
	大きさ（W×H×D）	約126× 94× 64 mm
	質量	約495 g（バッテリー、メモリーカード、ボディーキャップを除く）
動作環境		
	温度	0～40℃
	湿度	85%以下（結露しないこと）

• 仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、全て常温（20 ℃）フル充電バッテリー使用時のものです。

仕様について

仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

クイックチャージャー MH-23

電源	AC 100～240 V（50/60 Hz）
充電出力	DC 8.4 V、0.9 A
適応電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL9
充電時間	約90分
使用温度	0～40 ℃
寸法（W×H×D）	約82.5×28×65 mm
電源コード	長さ約1.8 m、日本国内専用AC 100V 対応
質量	約80 g（電源コードを除く）

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL9

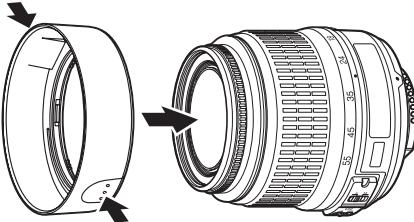
形式	リチウムイオン充電池
定格容量	7.4 V、1000 mAh
寸法（W×H×D）	約36×56×14 mm
質量	約51 g（端子カバーを除く）

撮影可能コマ数（電池寿命）について

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL9（1000 mAh）による撮影可能コマ数（電池寿命）
- AF-S DX ズームニッコール ED 18–55mm f/3.5–5.6G II装着時
  - 1コマ撮影モード：約520コマ（CIPA基準準拠※1）
  - 連写モード：約2000コマ（当社試験条件※2）
- AF-S DX NIKKOR 18–55mm f/3.5–5.6G VR装着、手ブレ補正機能（VR）使用時
  - 1コマ撮影モード：約500コマ（CIPA基準準拠※1）
  - 連写モード：約1850コマ（当社試験条件※2）

※1 初期設定条件で30秒間隔ごとに撮影レンズを無限遠から至近に1往復フォーカシング動作をさせて1コマ撮影する。レリーズ2回につき1回内蔵フラッシュを発光させる。

※2 画質モードBASIC、画像サイズM、シャッタースピード1/250秒、シャッターの半押しを3秒間持続後、撮影レンズを無限遠から至近間を3往復フォーカシング動作させ6回連続レリーズした後、液晶モニターを5秒間点灯させ、消灯後6秒間放置。以後同じ動作を繰り返す。

※ 充電状態、使用環境によって電池寿命が異なります。

以下の場合はバッテリーの消耗が速くなります。
- 液晶モニターを使用した場合
- シャッターボタンの半押しを続けた場合
- オートフォーカスのレンズ駆動を繰り返し行った場合
- 画質モードRAW、RAW + BASICで撮影した場合
- 低速シャッタースピードで撮影した場合
- VRレンズ使用時にVR（手ブレ補正）機能をONにした場合

バッテリーの性能を最大限に発揮させるため、次のことにご注意ください。
- バッテリーの端子を汚さないでください。端子が汚れていると、充分な性能が発揮できません。
- 充電が完了したバッテリーは、なるべく早いうちにお使いください。使わないまま放置していると、自己放電によって、バッテリー残量が減ってしまいます。
- バッテリーの特性上、カメラで表示される電池残量の減り方は、周囲の温度などによって変化します。

レンズ

	AF-S DX ズームニッコール ED 18–55mm f/3.5–5.6G II	AF-S DX NIKKOR 18–55mm f/3.5–5.6G VR
型式	ニコンFマウントCPU内蔵Gタイプ、AF-S DX ニッコールズームレンズ（ニコンデジタル一眼レフカメラ［ニコンDXフォーマット］専用）	
焦点距離	18–55mm	
最大口径比	1:3.5–5.6	
レンズ構成	5群7枚（EDレンズ1枚、非球面レンズ1枚）	8群11枚（非球面レンズ1枚）
画角	76°–28°50′	
焦点距離目盛	18、24、35、45、55mm	
撮影距離情報	カメラボディーへの撮影距離情報出力可能	
ズーミング	ズームリングによる回転式	
ピント合わせ	超音波モーターによるオートフォーカス、マニュアルフォーカス可能	
最短撮影距離	0.28 m（ズーム全域）	
絞り羽根枚数	7 枚（円形絞り）	
絞り方式	自動絞り	
絞りの範囲	焦点距離18mm時 f/3.5–22、55mm時 f/5.6–38（D60との組み合わせではf/36まで）	
測光方式	開放測光	
アタッチメントサイズ	52mm（P = 0.75 mm）	
寸法	約70.5（最大径）×74 mm（バヨネット基準面からレンズ先端まで）	約73（最大径）×79.5 mm（バヨネット基準面からレンズ先端まで）
質量	約205 g	約265 g
レンズフード（別売）	フード HB-45 ＜レンズフードの取り付け方＞	

付録

仕様について

仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

このカメラの準拠規格

- Design rule for Camera File system （DCF）Version 2.0：各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録形式です。
- DPOF （Digital Print Order Format）：デジタルカメラで撮影した画像をプリントショップや家庭用プリンターで自動プリントするための記録フォーマットです。
- Exif Version 2.21：（Exif＝Exchangeable image file format for digital still cameras）：デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報をいかして最適なプリント出力を得ることができます。詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
- PictBridge：デジタルカメラとプリンターメーカーの各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンターで直接印刷するための標準規格です。

索引

マーク・英数

ア

付録

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

ヤ

ラ

ワ

アフターサービスのご案内

■ この製品の操作方法や修理についてのお問い合わせは

この製品の操作方法や修理についてご質問がございましたら、ニコンカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

- ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、使用説明書裏面をご参照ください。

●お願い

- 次ページの「お問い合わせ承り書」の内容をご確認の上、お問い合わせください。
- より正確、迅速にお答えするために、ご面倒でも次ページの「お問い合わせ承り書」の所定の項目にご記入いただき、FAXまたは郵送でお送りください。「お問い合わせ承り書」は、コピーしていただくと、繰り返しお使いいただけます。

■ 修理を依頼される場合は

ご購入店、またはニコンサービス機関にご依頼ください。

- ニコンサービス機関につきましては、「ニコン サービス機関のご案内」をご参照ください。
- ご転居、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は、最寄りの販売店またはニコンサービス機関にご相談ください。

■ 補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後7年を目安としています。

- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後でも修理可能な場合がありますので、ご購入店またはニコンサービス機関へお問い合わせください。水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

■ インターネットご利用の方へ

- ソフトウェアのアップデート、使用上のヒントなど、最新の製品テクニカル情報を次の当社のホームページでご覧いただくことができます。
  http://www.nikon-image.com/jpn/support/index.htm
- 製品をより有効にご利用いただくため定期的にアクセスされることをおすすめします。

ニコンカスタマーサポートセンター　行
FAX:(03)5977-7499

【お問い合わせ承り書】 太枠内のみご記入ください

お問い合わせ日：	年　月　日
お買い上げ日：	年　月　日
製品名：	シリアル番号：
フリガナ お名前：	
連絡先ご住所：□自宅　□会社 〒 TEL: FAX:	
ご使用のパソコンの機種名： メモリー容量： OS のバージョン： その他接続している周辺機器名： ご使用のアプリケーションソフト名： ご使用の当社ソフトウェアのバージョン名：	ハードディスクの空き容量： ご使用のインターフェースカード名：
問題が発生した時の症状、表示されたメッセージ、症状の発生頻度： （おわかりになる範囲で結構ですので、できるだけ詳しくお書きください）	

※このページはコピーしてお使いください。

整理番号：

製品の使い方と修理に関するお問い合わせ

＜ニコンカスタマーサポートセンター＞

全国共通電話番号 **0570-02-8000** にお電話を頂き、音声によるご案内に従いご利用窓口の番号を入力して頂ければ、お問い合わせ窓口担当者よりご質問にお答えさせて頂きます。

☎ **0570-02-8000**
市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9:30〜18:00（年末年始、夏期休業等を除く毎日）
携帯電話、PHS、IP電話等をご使用の場合は、（03）5977-7033 におかけください。
FAXでのご相談は、（03）5977-7499 におかけください。

修理サービスのご案内

修理サービスのご案内を下記URLにて行っております。
インターネットを利用して修理の申し込みができます。
「修理見積もり」、「修理状況」、「納期」などもご確認できますのでご利用ください。

http://www.nikon-image.com/jpn/support/service/repair/index.htm

＜インターネットをご利用できない方の修理品送り先＞
（株）ニコン イメージング ジャパン 修理センター
〒230-0052　横浜市鶴見区生麦2-2-26　電話：（045）500-3050
営業時間：9：30〜17：30（土、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業など弊社定休日を除く毎日）

● 修理センターではご来所の方の窓口がございません。送付のみの対応となりますのでご了承ください。

株式会社 ニコン
株式会社 ニコン イメージング ジャパン

Printed in Thailand
6MB01310-04